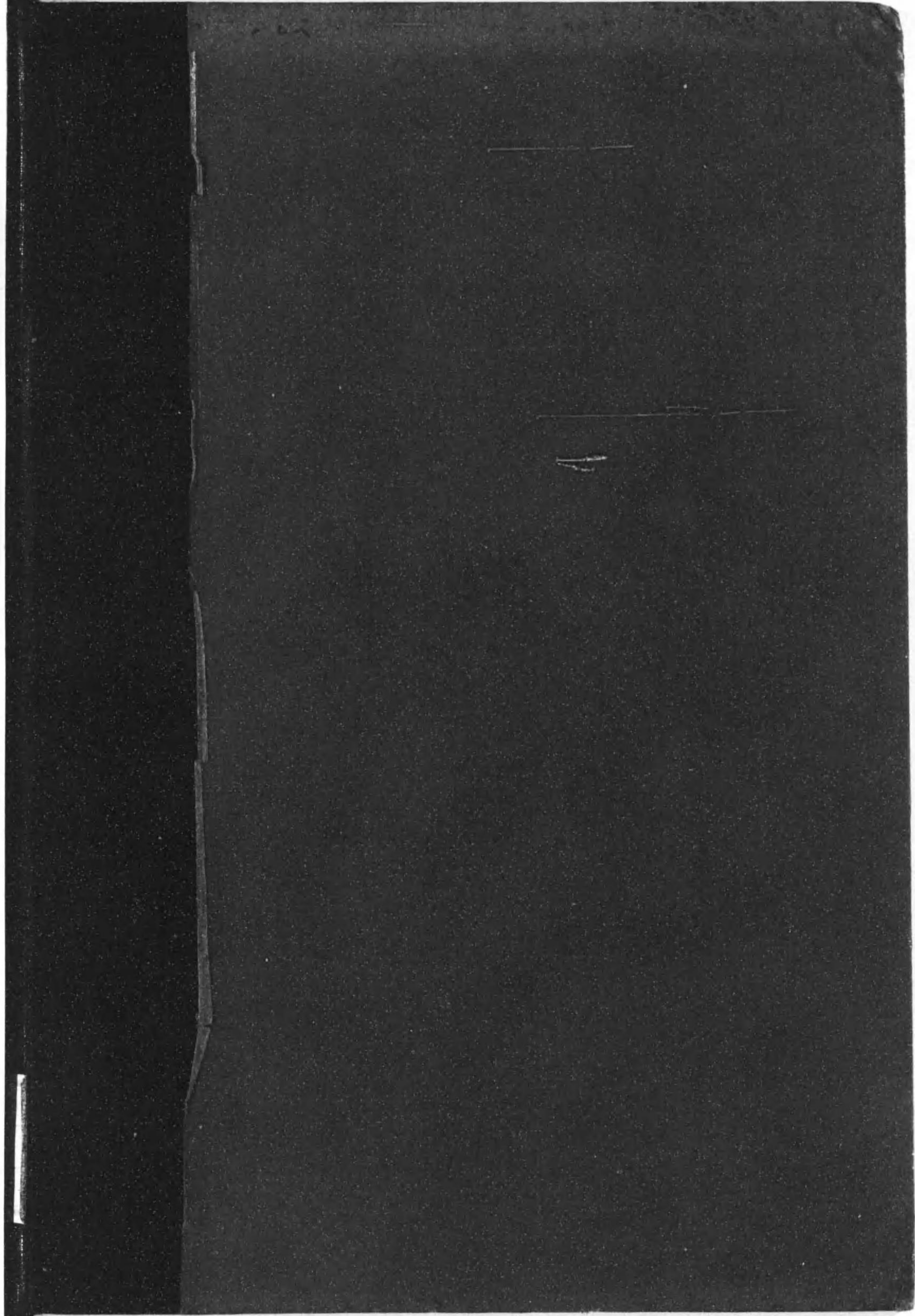




始



537  
104

20 2. 13

537-104

15202  
5



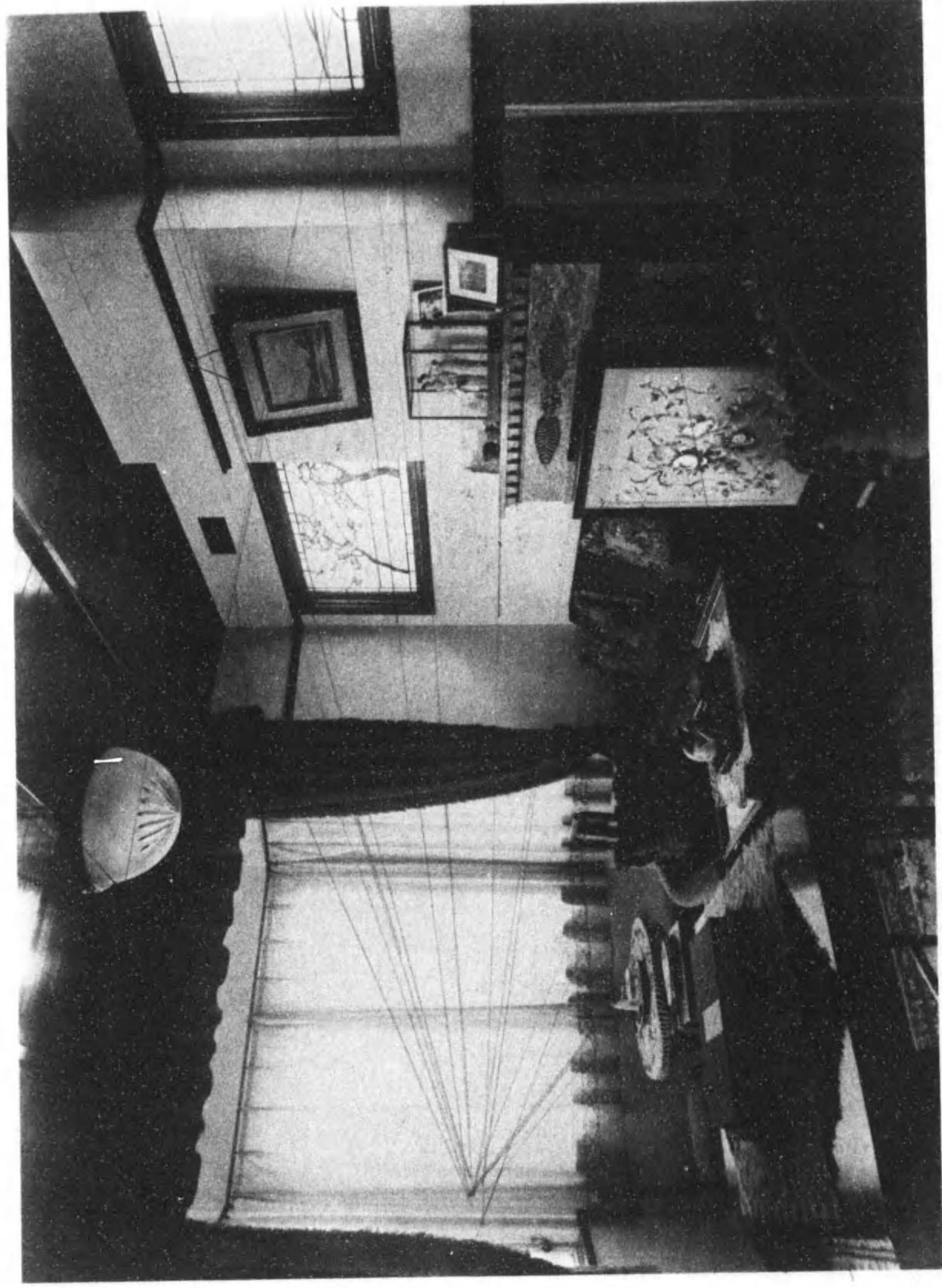
小住宅の

# 洋風裝飾

建築士 工學士  
保岡勝也 著

東京  
鈴木書店發兌

大正  
14. 4 20  
1925



室接應の者著

## 緒 言

本邦小住宅にも洋室需用の聲は益々高まり来て純日本風住居にも一二の洋室を附するやうになつて来た爲め、家具裝飾の知識に乏しい人々が往々其様式の如何を撰まず、色彩配合の良否も考究せず、出来合ひ家具の一揃を買求めて来て之を矢鱈に飾り不釣合な壁紙を張つて、所謂鷓式の室内裝飾をして居る例が枚舉に遑ない程に數多くある。

基より室内裝飾は建築學に屬する一の専門科學であつて、一小冊子に之を記述し盡せられるものには無いが、世人の常識涵養の一助にもなればと思ひついで、茲に梗槩を記したのである、其實例も英米佛獨の著名なるものから拔萃して僅少を掲げたに過ぎないが、本書に因て室内裝飾の臚げの輪廓丈けなりとも印象し得れば本懐である。

大正十四年三月

小石川雨渚庵にて 保岡勝也識

## 目 次

	緒言及口繪	頁
第 一 章	壁と天井	1
第 二 章	床の仕上げ	11
第 三 章	窓掛け	18
第 四 章	家具の様式	25
第 五 章	家具の撰定	30
第 六 章	煖 爐	33
第 七 章	玄関とホール	35
第 八 章	應接室及び客間	38
第 九 章	居 間	41
第 十 章	食 堂	44
第 十 一 章	書 齋	47
第 十 二 章	寢 室	49
第 十 三 章	ベランダ	51
第 十 四 章	結 論	53

附圖 實例六十三圖

## 第一章 壁と天井

住宅内の各部屋を取圍で居る所の四周の壁の仕上げは、其室内に居る吾人の服装、家具調度、裝飾品、窓掛け、書棚の書物、繪畫、骨董其外室内に在る總てのものを、引立たせる様に工夫せねばならぬ。即ち諸物の背景となるものであるから、餘りケバ々しくも無く、さりとして陰鬱でも無い穩健なものとせねばならぬ。又た其室の向きや大さ用途に因て種々の相違が起るから、一概にも云へないが、居間寢室の様な室には壁は、鼠地かクリーム地のものを選びのが一般に當を得る。其れなら窓掛、椅子張の帛地、クッション、床の敷物、卓子掛の色合を壓倒するやうな懸念も無く無難である。壁の地色に青や緑色の仕上げを用ふると其室内裝飾の他の配色撰擇範圍が狭ばめられるから、完備に大なる苦心を要する事になる。

住宅の室内裝飾には先づ第一着に、其室の壁の色合をきめる事をせねばならぬ。敷物や窓掛けを先きにきめてかゝるのは大間違である。こんな方法を執れば必ず失敗に終る事は請合である。若し其室が東か北の方の向きであれば、壁にはクリーム、黄褐色、café au lait、生白色程度の幾分温か味のある色を選び可く。南向きや西向きの室であれば、少

こし冷たい感じのする鼠地のものが宜しい。之に青や緑が加はる程温か味は減じるのである。

其室全體として黄味がゝつた配色仕上げを爲そうとする場合などには、鼠地が最も能く調和する。其場合に壁が黄褐色では強過ぎていけない。但し其部屋全體として緑味がゝつた装飾をする場合には、鼠やニウトラルチントの壁では寫りが悪い。鼠は黄とは取合はせが樂であるが淡紅色とでは苦心を要する。象牙色やクリーム色は何色とも調和が取り易い。壁の地色としてはビスケット色などは一番取扱ひ易い色である。外のどんな色とも折合ふから心配の無い色であると思ふ。

壁の地色としては何色でも濃厚のものよりも、調子の淡いものゝ方が善い結果を得られる。客室、居間、食堂の様な室でも餘り強い色彩は失敗に終るものと斷言して善い位である。素人好みや物數寄に壁の仕上げ色を撰定されたくらい其室内装飾に苦しむ事は無い。

住宅内部の壁の仕上げは

1. 漆喰
2. 漆喰の上をアラバステン又はペンキ塗
3. 壁紙張
4. 布張
5. 緞子又は絹張
6. 毛織又は天鵞絨張

が普通で在つて、貴族富豪の大邸宅で無い限りは、壁畫や刺繡で張る事は無い。小住宅としては大概前記の内1より

4に至る迄の間のものである。

室内の周壁を漆喰仕上げの儘で置く事は、假令ひ適當に考慮した色漆喰でも汚れ易く、且つ調和した色漆喰は施工し悪いものである。加之何んとなき漆喰の儘では落付きが無いものとなる。

其れ故、漆喰塗が充分乾燥して石灰のアクが取りきれた時に、一面にデイステンパーかアラバステンの様な着色塗料で適當に塗る場合が多い。漆喰壁にペンキを塗る時は、其下地に「サイズ」を一回掛けて置て後ち、ペンキ塗を二三次して刷毛塗りに仕上り無く更に敲き仕上げにすれば、艶消しの風雅なものを得られる。之れは小住宅のベランダ、玄関、階段室、兒童室、などの壁にふさはしいもので壁紙張りよりも耐久力があつて、色合は自由自在のものを撰めるし、汚れた場合は濕つた雑巾で拭へば、汚點を取去るに容易で誠に適當なものである。臺所や浴室の壁や天井は敲きにせずとも、ペンキを普通の刷毛塗りにしても宜しい。場合に因ては或部分には水成ペンキやデュレスコを塗つても亦た宜しいのである。併し居室や應接間寢室の如きは壁紙張りとするのが普通一般である。ペンキ其他の塗料で壁を塗る方法は稍々上位の仕上げでは無い。基より壁紙にも種々の上下の差別があり且つ貼り方の施工法も良否種々あるが、概して住居の主要室は壁紙張りに仕上げる場合が最



も多い。

壁紙撰擇は常に嗜好からのみではいけない、熟練の人で無くては失敗する機会が多いもので中々六かしい。見本に據て實物を撰んでも其室に張上てから、豫想した事と圓で似てもつかぬ結果を來たす場合があるから、斯道の専門家でも非常なる苦慮を要するのである。本來歐羅巴で中世紀に貴族富豪が部屋を飾る目的で、織物を壁に張つたのが始まりで、其代用として壁紙で済ませるやうになつたのは、十六世紀の中頃からの事であつて、Clarence Cook 氏の説では、和蘭人が東洋貿易を盛んにしてから以後の事で、日本支那との通商貿易で東洋の版畫を交易し來て之を和蘭、西班牙に齎して其端緒を開いたのである。特に小住宅の室内に壁紙張をすると云ふ事の普及は歐羅巴でも、稍々新しい事でヴィクトリア時代以後が盛んになつたのである。詩人で意匠家であつた William Morris 氏が室内裝飾を力説してから後の事である。

現時は英佛獨米各國で其れ々々特徴ある種々の善い意匠の壁紙が製造されて、我邦にも輸入されて來るが各國のものに國別がつけ難い位何れも似寄つて來た。壁紙の最上等のものは手刷りであるが、普通一般のものは何れも機械刷りである。

壁紙の撰擇に當つては(イ)其室の用途、(ロ)其室内の木部

の色合と木質、(ハ)其室内の採光程度、(ニ)其室の床の仕上げ色と家具の色合ひ、(ホ)隣接する部屋の壁の色彩。此五つのもを參酌して熟慮する必要が在る。最も確かな間違無い撰擇方法は、上記の五項を考慮して二三のものを選び、之れを其室の壁に當てゝ見て、晝間日光を受ける場合と、夜間電燈による場合との相違を研究して、其内の最も適當のものに決定するのが一番良き方法である。晝光で色の調子が善くても、夜の電燈に據て打毀される色合が往々市場賣品にはある。又た壁紙は小さな見本と廣い部分を貼上げた場合とは同じ色同じ地質のものでも、圓で配色も調子も違ふものであるから、小片の見本にのみ由ての撰擇は最も危険なものである。此事は單に壁紙に關してのみでは無く總ての色彩配合に然りであるが特に壁紙撰擇の時に注意を要する事柄である。單に色合のみでは無く模様も亦た同理であつて、模様と縞の撰擇を誤れば、其室内の油繪も水彩畫も引立なくなり、天井の高い室も低く見へ、直線が彎曲に見へる様な事が起り得るものである。

布張りとしては、小住宅の壁に用ひられるものは主として芭蕉布、葛布、シルケツト、パーラツプ、バツクラム、クラツシ等であるが、本邦では始めの四つのもが割合廉價に得られるから、麻布なるバツクラムやクラツシよりも適當と思ふ。只色合は其裏打のものに因て幾分替へ得るが、

到底壁紙や塗料を以てするやうな、勝手な色合とは爲し難い。且つ壁紙よりも割高となる恐がある。併しホールや居間のやうに出入頻繁で壁面にさはる事の多い室では、壁紙は損傷が多く反て不経済であるから寧ろ廉價な布張りとする方が適當であるので、歐米ではパーラツプ張りは用途が廣い。

絹張、緞子張、毛織張りの如きは小住宅としては稀れに狭い範圍に用ひられるのであるから茲に省略して置く。

「織物を模倣した壁紙は其數夥しくあるが、緑や青の混じたものは家具や他の裝飾との色の調和が六かしい。どちらかと云へば少しクソダ重々しいものを書く方が、家具や木部との寫りが良い。絹織に擬へた壁紙には一色の濃淡で仕上げたものや、二色を甘く配合したものが市場品に多い。

壁紙は一卷で約一坪半の面積を貼り得るものと、一卷で一坪見當しに張れぬものとある。前者は英國の製品に多く、後者は佛國の壁紙の一般である。

英國では一般に壁紙貼をした部屋でも、其天井は大概な場合紙張りをせず極く軽い調子のクリーム色の漆喰仕上とするか又は明るい外の色の塗料仕上とするのが不文律の様になつて居る。天井が高い場合は此無地の漆喰天井に彫刻や模様を付ける手法を執るが、米國や佛國のものには往々天井を淡い水色や象牙色の紙貼りとしたものも無いでは

無い。只此場合に呉れ々々も天井張りの紙は互に其縁を重ね合はさぬやうに、つきつけに張る事を忘れてはならぬ。往々光線の具合で紙の重ね目が目立つて見へて其室の美觀を害する場合があるから注意せねばならぬ。特に天井丈けをリネンかパーラツプで張つてこれに淡色の塗料を施したのものもある。

壁紙貼りを爲して更に其上部天井下にボーダーを貼る事も在るが、天井高の低い室ではボーダーは使はない方が宜しい。一層天井を低く見せる様になる厭がある。寧ろこんな場合には床の上の巾木から天井廻り縁迄の間に縦縞の壁紙でも張つた方が適當である。天井高が九尺以上ある場合にはボーダーを貼用する事も決して悪くは無いが、市場出来合ひのボーダーよりも、其室の壁紙と調和の善い普通の壁紙を適當の幅に截つて之れを用ひた方が反て良い取合はせのものが得られる。

歐米では近頃衛生壁紙と云ふものが販賣されて居るが、之れは汚れた場合に水拭きが出来から、兒女室、通路などには適當である。壁紙は撰擇の時注意しないと往々砒素を含んだ顔料で刷つた廉價品が在るから、衛生上有害なものも在るので思はざる結果を來たす事がある。特に綠色のものゝ安物には此注意を要する。

室内裝飾には色の對照で仕上げる方法と、色の調和で纏

める方法とあるが、前者よりも後者の手法の方が安全である。対照は甘く行かぬと大失敗を來たす恐れがある。壁が淡色で木部や家具がクスダ仕上げにする事の如きは、考究を怠れば失敗に終る場合が多い。従て室内の木部は餘りに黒ずんだ色よりも中庸を得た程度のものにして置いた方が宜しい。其部屋の落付きから云つても、床の色合よりも壁が淡色で、又た天井は壁よりも淡い色でなければ不調和になる。又た小さな室は輕快な色合が適當であるし、稍々大きな室はどつしりとした調子の色合ひとし幾分黒ずんだ配色として差支ないのである。壁に油繪や水彩畫を掛けるには、低い天井の室で無ければ天井廻縁から七寸乃至一尺位下に額懸け細縁を四周に廻はすのが適當である、之をピクチャー、モールディングと通稱して居る。此細縁から下部を壁紙貼とし此の上は漆喰地に石膏模様を施したり又は主壁の紙と調和した色合の壁紙で張つたりするのも亦た良き方法である。

壁の色合から云へば、クリームと棕色、鼠色の如きものは、ホール、居室、食堂等の向きの色であつて、此内初めの二つは温かい色と謂ふ方に屬するから、北や東向きの部屋に用ふるに適し、鼠色の方はどちらかと云へば寒い色の方に屬するから、南向や西向きの様な日當りの強い室に適する。鼠色よりも一層寒い色である所の緑や青の色は使ひ方に因

ては落付きが在つて宜しいのであるが、主として書齋の様な部分に適する、往々居間にも用ひられるが南向きの室でないといけぬ。又た寢室の壁は重々しくないものが宜しい。光線の不十分な陰鬱な室には黄に屬する色の淡色を使ふと室内が餘程陽氣になる。

壁を高い羽目張りとしたものは、歐洲中世紀の住宅に多いが近代小住宅には餘り高價であるので用ひられない。併し決して悪いものでは無い。費用が許すならば書齋、食堂、ホールなどには最も好ましい手法であると思ふ。

居間や應接室の壁には油繪水彩畫等を懸ける場合が多いが、其位置は餘り高からず又低からざる所が緊要である。一般に床から五尺乃至五尺七寸の間位が一番宜しいのである。大邸宅の場合と違つて小住宅では天井も左迄高い事は無いし、繪の大きさも大概小形のものであるから、餘りに眼の高さと違は無い高さの程度を標準とした方が善い。椅子に腰掛けて觀賞するにも亦た立て眺めるにも前記の高さ位が宜しい。但し圖柄に由て山岳のものや、宗教的のもの、高貴の人の肖像などは稍々高めに懸けた方が宜しい。繪の種類から云へば食堂は花卉果實の靜物、居間には肖像風景の類が宜しい。食堂に油繪の肖像を掲げたり、玄關に風景の額を懸けたりする事は好ましくない。本邦では左程氣にせずやつて居る事であるが、歐米では小住宅の廣間には

繪畫の額を懸けぬのが一般であつて、古い銃劍や珍奇な窯業品などを壁の上方に吊懸けたものが多い。書齋には故人の肖像や歴史的の版畫などをかけると云ふやうに、大概手法は一定して居るが、居間ベランダ等にはエツチング、柔かな寫眞の引伸し、色刷物などがふさはしく寢室には朋友親族の寫眞などを掲げるのが至當である。

元來小住宅の諸室を飾る繪畫は、名も無き畫家の劣作よりも寧ろ大家の名畫を複製したものの方が遙かに宜しい。「ミレ」「コロ」「ジャク」「アベイ」「サージェント」其他大家の傑作が縮版にして巧妙に作られたものが輸入されて市場にあるから、其れを購入して適當に配置した方が室内の調和も善く打毀しとなる事がない。又たエジプト希臘羅馬の古建築のものなどは高價でなくて良いものが多い。

(第一圖第二圖参照)

## 第二章 床の仕上げ

部屋の床は周壁と共に室内の家具調度品の背景となり引き立て役を勤めるものである。色彩配合から謂へばどの室でも上の方が軽く段々下になる程どつしりとした色合を執て、床には重もい色調を取らねばならぬ。従て天井が薄淡黄仕上げならば、四周の壁は幾分濃き色合を用ひてニウトラル位とし、入口其他の木部は壁の色と寫りの善い調和したものを撰み、床に至て一番濃厚な色合に仕上げる、と謂ふ様な筆法を執る可きである。床の仕上げ色が戸障子の木部仕上よりも淡色では決して善き調和を得られない。

床の上に敷物を敷きつめる場合は別であるが、普通一般の小住宅では其室全體の床を敷物で覆ふと云ふ事は稀である。従て床板の仕上げは疎略には出来ない。床板と云つても堅木の場合と然らざる場合で仕上げ方に相違がある。

堅木の場合は檜樺チーク栓等の幅狭き板で張詰めたものか、又は各種の小片を構様に組で貼付けた寄木張かであるか、何れとしても此上には必要の部分に絨氈を適當に置くのが最も都合がよい。絨氈の配色からも薄色仕上げの床が善いと思ひ込んで、中には床をバタ色程度の淡い仕上をする人も見受けるが、之れは其室全體としての不調和の基で

ある。褐色勝つたものに仕上げる可きである。

新たに床を仕上げる場合は容易に所要の色合ひとなし得られるが、往々室内装飾を施す以前に建築施工者の爲めに誤つて淡色に仕上られて仕舞つて困る場合が多々あるから茲に其場合の改修方法を附記しやう。

堅木の床を仕上直すには、先づ刷毛でペンキ除去液若くはワニシ除去液を塗つて、充分浸み込んでから鐵筵で古い塗料を剝取つて「ベンジーン」液で善く拭く。次に水か變性酒精六合三夕に蔭酸一の割で混じた液を以て床の表面に着いて居る「シミ」「ヨゴレ」を取去り約半時間後ち全體を善く水洗する。其上で糊状の目留めに少し色着けアンバー、ローシーナ等を適當に加へて之を施す。此目留めにはテレピンかベンジーンを入れれば薄める事が出来るが、ベンジーンの方は乾きが早い。此目留めを刷毛で塗り乾燥してから、木材に吸込まれないものを布で拭き取りワニシ一回を塗り一日を經過してワニシの二回目を施せば宜しい。併しワニシは水拭に耐へぬからザアルスバーノ方が遙かに良い。若しワックス仕上を欲するならば前記のワニシ二回塗の代りにシエラック二回を施し其上に粉状か液状のワックスを置て少し熱の出る程度迄拭擦するのである。

ワニシ仕上げの床は油染みたもので拭かぬ様に注意すべく、一年に一回も塗直せば奇麗に保ち得られる。併しワックス仕上の方は一ヶ月に一度位ワックスの掛け直しが必要である。

一般に價格の點から檜板の床が小住宅に多く用ひられる

が、僅かの差でチーク板なれば遙かに美觀を増し保存から云つても反て得策である。小住宅では寄せ木張は應接間やホールに用ても床の輪廓に僅か用ふる位のものであるが、之れは高價な割合に面白味はない。大邸宅の舞踏室や球戯室に用れば引立つが、小住宅には寄せ木張は必要が無いとも云へる。米國から輸入される Yellow-pine の出來合幅狭の床板は堅木では無いが、之れで張上た床は仕上を甘くすると堅木以上に善くなる。其れには油にアンバーを溶かしたものをテレピンで薄めて、其液で床板に色着けをして後に柔かいフランネルで摩擦し乾てから、ワックスを溶かしてテレピンで薄めたものを温めて之を布につけて其色着した床板を拭き、約一日の後ち布筵の先きをフランネルで包んだものを以て少し光りの出る迄拭擦る、而して最後に煉瓦をネルで包んだもので強く摩擦する。斯く仕上た床は松板とは思へぬ程立派なものになる。一年に二度位宛手入さへすれば二十年は確かに奇麗に保ち得られる。之れは小住宅の居間、食堂向きには至極適當と思ふ。此の床仕上げの上に要所々々に小形絨氈を適當に配置すれば、氣がきいた装飾が得られる。米松の床板にペンキ三回塗などをする仕上げ方も在るが、剝離の恐れがあるし床を奇麗に保つには反つて中々不經濟のものとなる。寧ろ色着けをしてから油拭きに仕上げた方が保存上經濟である。

床板を現はさず室内全體をリノリウム敷きとする場合には、居間其他主要の部屋には下敷に三分厚位の壓搾コルクを用ると、足ざわりも善く保温上にも至極宜しい。又た室に因つては壓搾コルクの四分厚以上のものを張詰めて表面に塗料を施すのも經濟の方法である。只これは年月と共に黒ずんで變色する恐れがあるし、通行の多い部分丈けがコルクの塗料が剥けて汚れが目立つから、保存の注意を怠る事が出来ない。併し兒童室や女中室の様な部分には適當なものである。

ペランダーの様な所は板の現はし床の上に、文化敷物と謂はれて居る一種の敷物を用ふる事は小住宅としては當を得て居ると思ふ。只此文化敷物は仕上げの色が出来合品は淡色のものが多いから、特別注文でない限りは配色上困難は幾分在るが、小住宅の敷物としては廉價で雅味あるもので、花筵などより遙かに良く、稍々上等の住宅ではペランダーには蘇國製のCaba纖維ものを敷くのが宜しい。

リノリウムは普通焦茶色か綠色の無地ものに限らるゝ様に思はれて居るが、決してそうばかりでは無い。少し價格は騰るが色違ひの模様篋込のものがある。殊に獨逸の製品には其最上のものが數多い。(一般にリノリウムは其表面を掃除した後にリノリウム油を塗る必要がある爲め多くの人から厭はれるが、近頃は油を塗らず共水拭き丈けで済むも

のが本邦で産出された。) 其模様を型置きにしたものは模様が剥げる恐れがあるから好ましくない。丁度劣等品なるオイルクロスと同じやうである。目下では軍艦印しのリノリウムが世界を通じての良品と謂つて差支ない。

絨氈は東洋品が第一位である。印度、高加索、ペルシャ、土耳其、トルコマン(中央亞細亞のツラン族)支那等は何れも優良品を産出する。市場品でKabistan, Shirvan, Daghestan, Guendjie, Karabagh, Soumak 等は高加索の産出のものであり、Senna, Kirmanshah, Mahal, Saruch, Shiraz, Tabreez, Khurdistan, Ferraghan, Serapi 等として知られて居るのは皆ペルシャ産で、Koula, Ghiordes, Ladik, Sprta, Melas, Anatolian 等のものは土耳其品である。ツラン族の産出するものは市場に Afghan, Bokhara, Khiva などとして知られて居るものである。本邦で天津絨氈と通稱して居るものは支邦産の一に過ぎない。

歐米では英佛獨米何れも其れ々々特有の絨氈を産出するが到底東洋品には及ばない。佛國製のAubsson, Savonnerie の如きは擴く普及されて居り、又た獨逸の Berlin-Rug, 英國の Scotch chenille の如きは周知の敷物である。米國では西部の土着印度人の Navajo 族のものが製品するものは佳品である。

斯く種々様々のものがあるが要するに植物性染料を用ひたもので無ければ、如何に織りが佳く材料が上等もで良品とは云へない。近頃は礦物質染料を用て仕上げたものの方

が其大部分であるから、撰擇に當て大なる注意を要する。本邦産の緞通の如きも昨今は稍々天津緞通似寄りの程度のものが出来るやうになつたから、小住宅には輸入品でなくとも間に合ふ。波斯、土耳其等の上等一枚敷の絨氈は幅九尺長十二尺のものが普通一般の大きさで、入口敷きやストーヴ前敷の小形のものに至る迄種々ある。併し品物が良好である丈け價格は廉で無い。故に小住宅向きとしては Axminster か Wilton 製の程處の方が適當する。

一枚織でないものは俗に「裏通し」と稱へて居る所の輪奈絨氈と、毛切り絨氈との二種あるが、之れは何れも幅二尺二寸五分宛の長卷になつて居るから、之を矧合はせて敷くのが一般である。模様無き即ち無地ものゝ周圍に配色善き様少し濃き色の無地の輪廓をつけた敷物は中々寫りの善いものであつて、家具との取合はせも困難でない。模様や型付きものを用ふると其地色は當を得ても、家具窓掛け其他との調和に中々苦しむものである。寧ろ室内裝飾から謂へば敷物は配色の善き無地ものに近いものを探む方が、仕上つてから怪我が少ない。Chenilleの無地ものは最も良いが何分高價である。

Wilton ものも良否種々の等級が在つて、廉價のものは純毛でなく縮入りのものがある。Axminsterの方は Wilton より幾分値は安く得られる。これも無地ものと型付きとある。

Brussel のものは價も安く、丈夫で耐久力は在るが硬くて體裁宜しくない。併しこれは使ひ場所に出ては立派に用ひ得られる。麻緞通も亦た使ひ所に因ては雅致あるものと爲る。

普通は或る室の裝飾に際しては、第一着に壁の色を定めてから床の仕上げと敷物を決定する様にして、此二つから段々細微の部分に渉る様にすべきである。従て此の二つの決せぬ内は窓掛も家具も未定とする方法を執れば出来上りの後に失敗は少ないのである。

(第三圖より第七圖迄参照)

### 第三章 窓 掛 け

室内装飾としては、壁の仕上げと床に次で窓掛けは緊要なるものであつて、其撰擇を誤れば全<sup>く</sup>居住として打毀しになる恐れがある。徒らに贅澤な帛地を用ひたからとて其れで良いと云ふ譯では無い。特に小住宅では左迄高價な帛地を用ふる必要は無く、只其形ちと色彩配合を甘くさへ取扱へば宜しいのである。從來本邦の洋室では窓掛や家具は殆んど無意識に撰定せられて居る状態であるから、折角良い帛地を用ひても其配色や形ちが拙い爲め室内装飾として失敗して居る例が夥しくある。

窓掛けが有ると無いでは、其室に家庭的温か味を添へる點に於て格段な相違があるものであつて、只に美觀の點のみからの必要物では無い。左迄贅澤な品質のものには及ばないが住宅の主要部の窓は適當の窓掛けを添へる可きである。窓掛けは壁と天井と家具との調和を取るに最も緊要なるものであつて、丁度繪畫に前景中景遠景が必要で在るが如く室内装飾も亦た繪畫と同じく家具什器は前景に相當し窓掛けは中景となり壁と天井の仕上げは遠景に相當するもので在る。其家具は調子が一番強くなければならず、壁や天井とは柔か味ある色彩が入用である。窓掛けは此二つと

能く調和して、其室の性質に因て或は莊重にも或は輕快優雅にもなる様に撰定せねばならぬのである。

窓掛けの撰定を誤れば其室内の様子が全<sup>然</sup>變つた氣分になるものであつて、天井の低い室でも、窓の幅狭きものも、窓掛けの掛け具合と色合ひとで其頭を押へつけられる様な感じを輕減する事も出来る。小さき窓に上飾をつけた強い色彩の幅廣の窓掛を附けたりすれば、厭味たつぷりのものとなつて外の部分が如何に甘く装飾されて居つても、其室は打毀しになつて仕舞ふ。又た割合に窓の面積が少ない部屋でも窓掛けの巧な撰擇をすれば形ち善く見へるやうになり其部屋を愉快なものにもなし得るものである。]

小住宅の窓掛けには硝子障子に一番近く薄地のものを懸け、次に必要なものには日除けを置き、一番室内に向つた窓の兩側に毛織なり何なり適意の帛地を掛けるのが當を得る。此の窓の左右兩側に吊す曇帳の帛地と色彩と其位置格好に因て巧拙が分れるのであつて捲上げ日除けは窓掛けに上飾り (Valance) をつけた場合には、捲上げた時其影に隠す方が良い。北向きの部屋では日除けの必要は無く、小住宅では夜は左右の窓掛けを引て置けば日除けを捲下げなくとも充分である。日没點燈後に日除けを下ろした丈で左右の窓掛を引かぬ家庭も多々見受けるが之れは其使用を知らぬ人々である。



捲上げ日除けを用ふる場合には其色合ひに注意を要する。濃厚な緑色と白地(クリーム等)の腹合せの帛地などは居間や寢室に用ひて甚だ具合が善いもので、裏表の色が違つたもので無くとも一色ものでも、色の調和の善い Holland-shade として市中に販賣されて居るものが徳用である。之れとモスリン又はクレトンのサイドカーテンと取合はせると中々雅味のあるものとなし得られる。但し Holland shade の安物は褪色し易い故稍々上位のものを選び可きである。機械製レース Bobbinet や浴衣地の窓掛けは其價が廉であるので寢室などに掛ける人が多いが、之は部屋の落付きも無く又た反て不経済である。「レース」も Point Arabe や Marie Antoinette, Cluny, Brussel 等の種類のもはボビネット程の事は無い。壁の仕上げ色が強いどつしりしたものと時に色の着いたカーテンも寫りが善いが、淡い調子で壁が仕上である場合には寧ろ白つほいものの方が對照上宜しい。

壁の仕上げが淡い無地で在つた場合には窓掛けに模様のある帛も悪くは無いが、壁紙に模様の多いどつしりしたものが張られる場合は、窓掛けの帛地は成可く複雑した模様の無いスラリとしたものを選び可きである。且つ其室の敷物の色に似寄りの稍々淡色ものが良い。窓掛けと敷物の色と對照を執る場合も無いではないが、どちらかと謂へば餘り劇しい隔りのない同系のものの方が、其部屋の配色統一

が得られて好果を得られるのが一般である。東洋製のラグなり又は模様付きの敷物を用ひた場合なれば、強ち其地色に似寄りで無くとも之と衝突しない様な其室として落付きのある色合の帛を窓掛けに採る方が宜しい。其場合には窓掛けに撰んだ色彩と同系のもを椅子張りにするか又はクッションにすると調和が宜しくなる。

應接室や客間の様な室で居室と幾分性質の違ふ部屋には、天鵞絨やヴェール様の様なドツシリした地合ひのものを用ふる方が適當である。併し窓掛けとしては織物其ものよりは色合ひの撰擇の方が緊要で在つて、壁や敷物及家具との配色が善くなければならぬ。室内裝飾をして最も安全なる方法は、壁紙が模様物で無ければ敷物は無地を用て窓掛けに模様物を用ひ、壁が模様物なら敷物も窓掛けも模様無いものを選び、壁紙が無地に近くて敷物がハツキリした模様物であつたら窓掛けは無地ものを用ふると云ふ手法を執れば善き結果を得易いのである。

小住宅の居室には英國製のクレトン、英佛獨の更紗木綿の如きは最も適當した窓掛けである。無地のクレトン、ポプリン、ボンジー、ホームスパン等の帛地は其儘でも亦た少しのミシン縫ひでもして所謂アツプルケーを施せばベランダ<sup>ン</sup>ダーや出窓の窓掛け兼日除けとして最も適當である。簡粗<sup>キ</sup>な寢室の窓掛けには浴衣地よりも寧ろ良質のタオル地を

用の方が趣きが在る。米國の田園都市の小住宅に此實例が多い。英國製ケイメントは幅三十吋のものであるが洗濯は出来るし兒童室等には最も適する帛地であるキャリコの様  
に弱く無くて體裁も悪くない。

毛織物の窓掛けは價格の廉なものは反て不經濟である、特に綿混りの安物は一寸見は善いが、窓掛けとして使用しては褪色し傷み易い。毛織物を用ふるなら少しは値は高くとも上位の品を撰むべきである。マホガ―家具を置く場合などは天鵝絨及之に類した窓掛けが最も調和するが、之れも安物は變色の恐がある。普通小住宅の窓掛けには片面ものと両面ものとあるが、其何れにしても褪色の懸念無きものと日光の直射を受けても傷みの少ない品質を撰まねばならぬ。本來織物には三種あつて、經緯の何れも同じものと、其經緯が違ふものと、刺繡を施すか又は更紗の様  
に型置をしたものとの區別はあるが、其何れたるを問はず裝飾する室に不釣合なものは避ける可きである。

窓掛けの外に入口に Portière を掛ける事もあるが、多くは公館か稍々大きな住宅の場合で在つて、小住宅には稀れで在る。之れも窓掛けと同じ理窟で取扱へば宜しい。

前に一寸述べた窓硝子に一番接近して掛ける所の薄地のもの即ち Glass curtain と通稱されるものには、モスリン、スクリス、マーキユイセツト等は稍々劣等のものでボンジー

絹、羽二重、ケンドン、ジョージツト等は幾分上位のものとして使用されるが、何にしても純白色のものは避けた方が宜しい。クリーム、Café au lait、薄鼠、淡桃色程度のものを撰む可きである。グラスカーテンは只室内からのみの考究ではいけない。窓硝子を透して外部からも見へるから其家の外觀にも大に關係を保つものである事を念頭に置かねばならぬ。

窓掛けは之に一文字の上飾りを附けて左右に疊帳を下げたものも、亦た上飾無しに疊帳丈けを取附けるものもあるが、上飾りを附ける場合には脇掛けのものと同一帛地を用ふるのが本來である。(但し出入口兩開き障子の場合には上飾りを附けずに脇掛け丈けとする)。往々色彩配合から上飾丈け違つたものを用ふる事も在るがこれは變則である。脇掛け疊帳は永く床面迄下げるのは舊式のもので近頃の流行は居室では窓の膳板下三四寸位迄に留める。併しこれは何れが善いとも云へない。其室の様子と外の部分の裝飾との對照から何れに決定しても差支はない。天井の低い室で木製格縁天井などの室はで、脇掛けは舊式の手法を執つた方が遙かに善いのであつて、新舊と謂つても何等甚しい區割のあるわけでは無い。又た此脇掛けの掛け方に由て窓の幅を大きくも小さくも見せ得るのであるから、其場所と室に應じて定む可きである。又た場合に由つては前記の捲上げ

日除け (Roller-shade) の代りに左右引分けのフローカーテンを用ふることもあるが、これは膳板迄の長さとする可きである。

(第八圖より第十一圖参照)

## 第四章 家具の様式

室内装飾に關する家具の撰定を述べるに先だつて、極く大略の其様式變遷を記述しやう。様式を細かに分類すれば約四十餘のものとなるが、最近にウェツプ氏は之に關しては紀元前以降五千年の今日迄を三十五種に分けて居るから、暫く其れに従ておくとしても、其内の主なるものを記せば、

大古エジプト人は石造家具を用ひ、希臘羅馬時代は大理石ブロンズの類を好み、中世紀には木製のものを使用して居つた。以後今日迄住宅の家具は殆んど木製に限られるやうな傾向になつて居る。最近米國では金屬製家具の普及宣傳を勉めて居るが、住宅用としては木製には對抗し得られない。實用からのみ謂ふ事の出来ない居室には木製が一番其當を得るものと思ふ。

中世紀には住宅と云つても只大きな室が主で在つて、其所は居室でもあり食事室でもあり又た寢室にも使はれて居つた。即通稱 *Heal* と稱するものは之れで、此室内に粗製の大きな卓が置かれて周圍に粗末な腰掛けが列らべられ一方 *Chest* を備付けてこれに大切なものは藏して居つたに過ぎない、頗る簡粗なものであつた。然るに中世紀の終りに *Gothic*

式の建築の流行と共に其アーチ型や彫刻が漸次家具にも應用されるに至り、ゴシック式の家具が行はれ出した。十一世紀以降十五世紀はゴシックの隆盛時代であつたから、室内裝飾も遂にはゴシック要素のみのもとなつた。其彫刻は複雑を究はめ莊重なものとなり武骨な封建時代の思潮を表現したもとなつた。只此時代に Cupboard が家庭に備付けられるに至つたが、裝飾品什器類が此上に堆積せらるゝに過ぎず、卓子や椅子も頗る武骨なものに外ならなかつた。

然るに十五世紀の終りに *Renaissance* が伊太利に起つて急激なる勢を以て歐洲全土が擴がり、佛蘭西、西班牙を経て獨逸其他に流行し、遂に英國にも米國にも普及された。之れは周知の事柄であるが家具裝飾も建築と共に今迄のゴシック式を壓倒するやうになつた。

伊太利から隣國佛蘭西に入つたレネーサンス式はゴシックと混和して、所謂佛蘭西風のレネーサンス式を生成し、輕快と纖弱な手法を出現した。一方に獨逸や西班牙では佛蘭西とは全く違つた簡單堅剛な方面に發達し、十六世紀の始めに英國に渡つてヘンリー八世からエリザベスの治世迄の間に發達して、茲に所謂 *Tudor* 式を生成した。チュードル式は即ち和蘭、白耳義の様式に伊太利、佛蘭西のものが混じたものと云へる。英國に於ける此チュードル式は漸次變遷してエリザベス時代に所謂 *Elizabethan* 式を成した。又

た其れが幾分輕快優雅な手法となつて *Jacobian* 式となつたのであつて、ジエームス一世の頃から十七世紀の終り迄流行した。所謂 Gate-leg の卓子は此時代の産物である。椅子の脚なども遂には捻り型となつて來た。此時代には用材は主としてオークを用ひて居つたのを其後ウォルナットを用ひ出してから其材質が彫刻に容易で無い爲めに茲に又一進化を來した。

他方に於て佛蘭西では十七世紀の終りに André Boule 氏が貴族向きの頗る優雅な家具を造り出した。ルイ十五世の時から佛蘭西の家具は一新を來たし、裝飾は派手になり來て金物の彫刻模様と金メッキものが盛に用ひらるゝ様になつて來て、其時代の Charles Cressaut 氏の技巧に因て益々發達を遂げた。家具にゴブランを張る事などは此頃から始まつたのである。ルイ十五世の末期に Jules Aurèle Meissonier が之れに其時代の伊太利嗜味を加へて *Rococo* 式を生成した。所謂ルイ式の熟爛を極めた時代である。ルイ十六世に至りて此反動にロココ式の要素は消失して古型が復興し、直線が曲線に代るやうになつて來たが、尙鍍金と象眼は依然行はれた。此時代からマホガニーが多く用らた始めて來たのである。

丁度此時頃 1689 年以後和蘭風が英國に入り來て *Queen Anne* 時代には英國と和蘭のものが非常に似寄りのもとなつた。従てクキンアーン式のものは卓子も椅子も飾棚も脚部は全

と和蘭風と云つて差支無いやうになつた。此時代は主として胡桃を用ひて居つた。勿論クキンアーン式のものに西班牙風の脚のものも無いでは無いが、主として和蘭風を謂ふて差支ない。1750年以降又た一大變化を來たして英國では *Chippendale* がクキンアーン式の猫足に新意匠を加へて、獨特のチツペンデル式を創めて主としてマホガニー材を用ひた。斯くて十八世紀には婦人が裾長の服装をして居り且つ腰に鯨骨の籐骨を挿入して居つた事柄から腰掛け易い爲めに甚しく幅の廣く開いた版掛椅子やセテイーを歓迎するやうになつて來た。

次でチツペンデル式よりは稍々派手で無い所の *Hepplewhite* 式が現れた。ヘツプルホワイト氏は *Shearer* 氏の非凡な技術に因て大に助けられて一様式を成した。又た同氏は *James Adams* 氏の意匠に因て大に助けられ感化され影響を受けたのであつて、簡單と舊型とに努力した。アダム式は一言にして云へばルイ十六世に似た處がある。簡單で纖弱なると半肉浮彫を使用し伊太利佛蘭西のクラシック型を入れた事が此式の特徴である。此式では卓子や椅子の脚に獅子や鷲の爪が刻んであるのを屢々見受ける。*Sheraton* はアダム式同様に簡單と云ふ方面に勉めたものと謂て差支ない。ヘツプルホワイト、アダム、シェラトン此三式は實に十八世紀の三横綱と謂ても宜しいものと思ふ。此三つは總括して *Georgian* 式と

も云はれて居るものである。

十九世紀に至ては其始めに佛國に *Empire* 式が起つた。之れは今迄とは全々行き方を別にしたものであつて、ナポレオン全盛期に隆盛を來した様式で *Percier Fontaine* 兩氏の努力から生れたものである。家具に迄凱旋の章を付けた即ち炬火や花圈の様な武的模様を盛に用ひ希臘羅馬模様をつけた此アンピール式も初期のものは善かつたが漸次贅奢なものとなり、遂にはアンピールは貴紳貴族の裝飾に限られるかの様な風になつて仕舞つた。十九世紀にはアンピール式に次で取立て云ふべき程のものは起らなかつたが、二十世紀の始めに佛國に *L'Art Nouveau* 式なる曲線集合の一様式が起り、一時隆盛を爲したが永くつゞかずに仕舞つた。次で埃國から起つた *Sessession* 式なる直線主義のものが流行したが、これも影をひそめた。又た米國では *Mission* 式なるものがかなり古くから廉價で經濟向きである爲め稍々發達をして居る。ヌーボー、セセスション、ミスシヨンの此三様式は本邦現時の家具裝飾には大分執り入れられて居るが、之れは未完の様式で在ると云はねばならぬ。チツペンデル式やシェラトン式の様な確定的様式とは違ふ。

(第十五圖より第二十三圖迄参照)

## 第五章 家具の撰定

前章で様式の變遷を記した様に其主要なものだけでも十數種のものがあるが、其用途に因て其れ々々の特徴と美點が在る。住宅の家具としては此内のどれが最も適當で在るとも斷言し得られない。併し小住宅向きとしては前記の内シェラトン、ヘツプルホワイト、アダム、クキンアーンの四種の内が適當かの様に思はれる。併し簡粗と云ふ點からはミスジョン式も宜しい。ルイ式ジャコビアン式アンピール式等は大邸宅向きの様式と謂つて差支ない。又其費用から謂ても前者と後者は甚しく相違がある。近時歐米の住宅では骨董趣味から、中世紀時代の様式を模倣して室分裝飾をする一種の流行があるが、本邦人の嗜好からはチュードル時代のものは不向きであるやうに思はれる。矢張りジョージアン式の内のが一番適當と思はれる。其内でもチツペンダール式は象眼なく彫刻澤山で鍍金があるから、澁味の點から歡迎さたない。シェラトン式は簡單でスラリとした象眼入りで在り、本邦人には好まれる。ヘツプルホワイト式は特に其椅子の寄り掛りが卵形の優雅な曲線であり、其彫刻も繊細であるので、萬人向きのする様式である。

以上は稍々上位の小位宅向きであるが、普通一般の住宅

には米國で盛に用ひられて居る所の *Colonial* 式が受けが善く又た適當と思ふ。これは米國が植民地時代に主として十七世紀の中頃英本國から移民に輸入されたジョージアン式やクキンアーン式と、伊太利や佛蘭西の手法とが混和して、遂に米大陸で一様式を爲したものであるから、歐洲大陸のものとは全々趣を異にして居る。勿論大邸宅や上位の住宅には不向きであるが、之れか若くは Davis Seal 女史(米國の現代裝飾家)の所謂 *New Renaissance* 式のもものが手頃の様に思はれる。

奇を好み過ぎて瑞西山莊式の外觀ある住宅の内部に、アンピール式の裝飾を爲したものと如きは、反て打毀しとなる。各様式には其れ々々其の特徴と向きがあるから之を甘く利用せねばならぬ。例へば寢室にチュードル式を用ひてホールにアダム式を以てするが如きは、誤まられた裝飾となる。輕快優雅を要する室には莊重な様式のものとは不向きである事は申迄もない事である。又た同一室の内部に違つた様式を混じる事は失敗の基である。即ちアダム式の椅子とルイ式の卓子を同じ室には置けない。只同系の餘り隔らぬ様式は混じても左迄失敗は無い。例へば居間にシェラトン式のものとはヘツプルホワイト式のもものが併用されるとしても、左程に打毀しにはならない。要するに最も無難な裝飾法は各室を其れ々々一定の様式に限る方針を執り、且其

様式が其室の用途に不向きで無きか即ち釣合ひ適するや否やを先決するが宜しい。例へばエリザベサン式の如きは倶楽部、劇場、旅館の廣間等には最も適當するが、小住宅には不向きで在る。然るに其適否の考究をせず、居間の内部に用ひたものゝ如きは決して好結果は得られない。色彩配合調和と室内の釣合ひが如何に善く出来ても、其所に置く家具の様式が拙な場合は見るに堪へないものとなるのである。

## 第六章 煖 爐

住宅の採温装置としては近頃は簡易温水煖房装置の、アルコール式やアグラ式の普及された時代ではあり、又た温水煖房を設備せずとも瓦斯や石油を用ひて簡便で衛生的に採温され得る今日に在て、態々時代後れの石炭燃焼をする必要も無いと論ずれば其れ迄の事では在るが、事務室や公館で無い限りは常に實用的の方面からのみも論ぜられぬものである。米國の様には蒸氣、温水、温氣煖房普及の邦でも、住宅の一部には必ず煖爐の備付けが爲してある。薪を焚くものも石炭を使用するものも在るが、何れにしても此舊式の煖爐を取付け使用して居るのは、蓋し煖爐に燃へる火は住家として非常に愉快を與へ且つ親しみを與へるものである故である。従て住宅としては煖爐の前飾も無視する事の出来ぬものであつて室内裝飾の主要部を占めて居る。居間や食堂に煖爐なしでは其室を爲さずと迄歐米人の一部には考られて居る位に重要視されて居るものである。

中世紀に於ける歐洲の住宅では煖爐は頗る大型のもので在つたので、之に薪炭を焚き部屋を煖める目的のみで無く火の廻りに家族も來客も集團するやうに用ひられて居つたのが、此習慣の隋性で現代でも住宅の居室は必ず之を備付

けて其傍に長椅子や安樂椅子を置くやうになつて居る。

本來小住宅では幅十八尺長二十尺天井高十二尺位の居間が最も歓迎される大さであるが、此位の部屋でも煖爐に火が燃へて居る場合には、只に採温のみならず、爐の烟道に由て一時間に五回乃至七回の室内は自然換氣が出来得るやうになる便益もある。煖爐は居室のみならず住宅の何れの部分にも適するものでホールに置けば館外から入り來つた人に快感を與へ、居間なれば團樂の愉快を増し、食堂にあれば食卓の興を添へると謂ふやうになる。只其位置は戸の開閉の度毎に爐邊の快談を阻害される恐れのない様に成可く出入口近くを避けた方が宜しい。歐米の小住宅では出入口と遠き部分を選んで、居間や食堂の小凸出部に煖爐を設備し、塗込煖爐とせずに取り除けの容易な火床(Fire-dog)を置つてフランクリン型とするものが多い。

之を應接室又は客間に設けた場合は、丁度日本座敷の床の間に相當するものとなり、其室の裝飾の中軸を爲すものであるから、前飾や煖爐上の飾付けには大に考慮を要する本邦では書齋に置く可きものや寢室向きのものを無意識に前飾の上に羅列する人が多いが、反て室内裝飾の破壊となる。どこ迄も客間は客間らしく、食堂は食堂らしく飾らねばならぬ。煖爐上の壁に繪畫を掛けるとしても、客間に寢室向な圖柄のものを吊す様な事のないやうにせねばならぬ。

(第十二圖より第十四圖参照)

## 第七章

### 玄関とホール

例令如何に小さな家であつても玄関ホールは、主要部であり且つ絶えず使用する部分であるから、室内裝飾に當ても厭味の無いやうに、又た倦きのこない手法を執る必要がある。廣間は昔は今日のものと違つて來客の應接ともなり、場合に由ては食事も此室で執つたものであるが、現代では入口から他の諸室への通り路のやうなものとなつて、中には床を敷瓦敷にする人さへあるが、大概は堅木張とするのが普通である。英國人の小住宅にはリノリウム敷にしたものも見受けるが、何れかと云へば堅木で張つたものの方が適當である。

敷瓦やリノリウム敷の場合で無くば壁は出来得れば五六尺の高さの羽目張がよく釣合ふが廉價で無いから壁紙張のものが多い。どちらかと云へば小住宅ではボーダー無しにドツシリした色合のものの方が善く、無地ものよりも模様ものの方が宜しく、模様としては木葉模様のものなどは適當である。壁紙を貼らなければ白漆喰塗よりも、稍々温か味のある鼠かクスンだ橙黄色の類でペンキ敲き仕上げにでもした方が宜しい。家具としてはエリザベサン式のものなどは最もふさはしい。歐米の住宅ではホールはジャコビアン



式のものを用ふる事が不言律のやうになつて居る位である。此處に卓子を置き腰掛かチェストを並べ、室が廣ければ尙小卓を置いて上に蠟燭立を並べ生花した花瓶でも飾るか、盆栽でも載せるのも宜しいものである。

床は若し絨氈を敷くならば、全體を張つけても宜しいが大模様で無いものゝ方が適するし、無地ものなら鼠地が適合する。併し化粧板床かの上に色の調子の強い一枚織のラグを一二置く方が經濟でもあり一層ふさはしい。ホールには鏡を懸けたり懸時計を備付ても善いが、少し廣い室ならば寧ろ丈高き置時計の方が寫りが善い。近頃の流行でホールから居間に至る戸が腰無しの總硝子嵌込障子を用てある家を多く見受けるが、此場合は薄絹かボンジー、ボツピネットの類を扉に取付け目隠しとする事は、實用上からも裝飾上からも必要である。此色合の撰定が甘ければホールを非常に引立せるやうになる。又たホールに額を掛ける場合には淡彩のものよりも濃厚のものゝ方が善く、古建築の引伸し寫真なども適當である。ホール全體としての色合ひは橙黄色か黄地のやうな温かい感じを與へるものゝ方が適する。

若し二階にもホールが在る場合には、階下の手法と全々相違せぬ手法を執る可きで、只少しく簡單輕快に仕上げる方が宜しい。階下にエリザベサン式を用ひて置き乍ら階上

は藤椅子を列べると云ふ様な劇變した手法は避ける可きである。

(第二十四圖より第二十七圖迄参照)

## 第八章 應接室及客間

歐米の小住宅では應接間として別に一室を取らぬものが多く、特に米國のものなどは居間を大きく取つて此所に來客も通して用談したり、又はテレース、ベランダを客用にしたりして居る。併し本邦では習慣上家族の居室に來客を入れる事は、餘程熟懇な親戚でも無い限りは實行出來ぬから、止を得ず應接室か客間を別に設けねばならぬやうになつて居る。若しホールを廣く取つてあれば之を客室兼用とし、又は書齋と客室を兼用室にする場合も無いでは無いが、應接室として別に一室を作る事を歓迎される傾が在つて、寧ろ其一隅を書齋に兼用する位の程度を喜ばれるから、従て洋風小住宅では應接間や客間は Parlour や Reception-room の裝飾法を鵜呑みには出來ない。又た佛國の Salon と少し性質が異なる裝飾を要する。

斯く本邦では歐米と習慣が違ふ爲め、居間と客間を全く區別するが、其室内裝飾は溫雅な色彩調和で仕上げるのが最も當を得る。壁紙も幾分派手なものを用ひ、木材の仕上げも濃厚よりは淡雅なものとなす可きである。窓掛けも溫かい色のものとし、卓子と二三の小椅子を置き、肱掛けソファをも備付け花臺と飾棚の一つ宛も置く程度に設備

すべきである。居間の性質を帯びぬから従て揺り椅子などを置かぬ方が善い。家具様式としてはシェラトン式クキンアーン式ヘツブルホワイト式レネーサンス式の如きは適當である。稍々上位のものにはアンピール式などは優雅壯麗と云ふ點から最も歓迎されるが、何分高價であるから普通一般の小住宅には使用出來ぬ。

又た本邦人の習慣として來客には必ず茶菓を饗するのは一の禮となつて居るから、茶卓子を備付ける必要がある。室の大きさが許せば卓子の外に喫煙卓を置くも亦宜しい。此室に飾る額などは風景でも靜物でも宜しいが成可く來客に快感を與へる程度のものを用ひ、家族の寫眞や物數寄に珍妙な繪畫の如きは掛けぬ方が適當である。飾棚の代りに書棚を置く場合も在るが、名著ものゝ全集や嗜味美術に関する美裝のものを入れるのが至當である。花臺の花以外に奇麗な甕に生花をして配置する等も必要である。

床は絨氈敷詰めにしても亦は小型のものを置ても別に煖爐の前には一枚織の波斯模様の絨氈でも敷き又た入口には其入口敷き煖爐前飾上には骨董品を列べ置くと云ふやうにするが宜しい。窓掛け壁紙其他は前に其々の章で記述した手法を執れば差支ない。本邦の應接間や客間は佛國の Salon と Boudoir, 英國の Drawing-room と Parlour の總でを綜合したやうな室内裝飾をすれば、最も誤りなきを得られるのであつ

て、男性的の内に幾分女性的分子を含めた手法でなければならぬ。

(第二十八圖より第三十圖参照)

## 第九章

### 居 間

本邦住宅の居間は英國の Sitting-room や米國の Living-room と性質用途が違つて居る。併し住宅の内の最緊要部たる點に於ては洋の東西を論ぜず同一であつて、實に人體に譬ふれば心臓にも相當する部分である。従て此の室の裝飾を誤れば佛作て魂入れぬと同様になる。

先づ第一着にこの部分は居心地善く、其家族の嗜味に適合したもので無ければならぬ。壁紙を張るにしても落付きの在る倦きのこない様なケバ々々しからぬものを選まねばならぬ。且つ其位置が日當り善く夏は涼しい部分に在る可きもの故へ、色彩配合と撰擇に關しては一層の注意を要する。褪色し易いものや日光に因て地質の傷むやうなものは絶対に避けねばならない。絨氈もプラスセル物位の程度で窓掛けも特に耐久力あるものを用ふる必要がある。此室の裝飾用材は何物にも柔か味と心地善いと云ふ二項を備へたものを要する。斯る點から床は室内全部に敷物を敷詰めの方が適當である。化粧床の上に小形絨氈を二三置く手法の如きは、(外國では能く居間に執る手法であるが、) 本邦の洋風居間には不適當である。リノリウムで無く絨氈を用ふる場合はウキルトンには及ばぬ、アツクスミンスターもの

の裏通し程度のもので得策である。窓掛としても塵芥の附着し易い地質は避けた方がよい。此點から天鵞絨の如き帛地は本邦の居間には不適當で在る。

居間に備付ける椅子は掛け易い心地善きものを特に撰む必要がある。煖爐の邊りは家族團樂の場所で在るから、安樂椅子か造りつけの長椅子でも置き、場合に由ては搖椅子(Rocker)を備付けるも良く、腰掛けを柳製クレトン張のものなど置くも宜しい。客間やホールの椅子よりも幾分高さの低いフワリとした椅子の方がふさはしく、革張より帛張の方が宜しい。子供椅子も入用である。其種類も普通に市場で一組と稱せられるものには及ばぬ。小椅子も脇掛も長椅子も在ると謂ふ様に種々のものが必要であり。且つ其方が居心地善く便利で愉快である。クッションを置けば絹物よりも畦織か柔かなパーラツプなどの方が居間には最も適當である。

居間の天井は漆喰塗よりも太棹縁の板敷の方が落ち付きが在て宜しい。出窓にステインドガラス嵌込も面白かるべく、壁と同様に温雅な模様と色彩が必要である。床の敷物は前述の様に耐久力あるものとし、其室の周圍一尺五六寸を明けて其他の中央部を敷詰めるのも宜しい。卓子は圓でも長方形でも良いから稍々大形のを中央に据へ一隅に書房机を置き小さな硝子障子無しの書棚も置くも亦た便利

である。本邦人としては小抽出しの多い用筆筒様のものも備付けて其上に花瓶を置き、嗜味の玩弄物や飾り物を置ても善い。ピアノ、オルガンの如き樂器は居間に置く可きものである。其室が充分大きく無い場合は止を得ず應接間に置くが之れは變態である。然るに本邦住宅では洋室の居間に係らず、應接間に置くのを原則の様に心得る人々が多いが之は謬である。居間の裝飾は第一は心地善く、第二は使ひ勝手の便利、第三は經濟、此の三つを充たさねばならぬから、家具裝飾商に一任する事は禁物である。必ず主人、主婦、建築家、裝飾商此の四人で熟議して後ち決定を要する。住宅の室内裝飾の内で最も至難である代りに最も興味あるものは居間で在る事を附言する。

(第三十一圖より第三十八圖参照)

## 第十章 食 堂

歐米人の食事についての觀念と本邦人のとは全々相違が在る事は周知の事柄である。彼等は夕の食卓に就き家族團樂して愉快に談じ長時間を食堂に費して後ち其々の寢室に入るのである。併し本邦では食堂に長き時間を費すものは稀である。多くは古來の習慣から食事は早く済まして食堂を出て、居間か家族室に團樂するのを常とする。従て食堂は歐米人に取ては食事場でもあり夜の會談室でもある。來客があつて家族と食堂で晚餐を共にするのは最も親しい町重な取扱となつて居る。斯る點から歐米人のものは客間じみた手法も加へて居る。

食堂としての用具は食卓、椅子、サイドボード、陶器棚で在る。如何に小住宅の食堂でも此四つは必ず缺かぬを原則として居て、壁は壁紙を張り稍々上位のものは壁の腰部に高さの三分一位木製羽目張とし、其上僅かの部分を壁紙張とする。窓は必ず窓掛曇帳を吊り、床は絨氈敷とし壁には繪畫を懸けると謂ふ手法を用ひる。其室が南西等の強い光線を受けるものならば左程色彩配合は苦しまぬが、北向きの室であれば室内の配色は其室を出來得る限り温か味のある様に感ぜしむる爲めに勉めねばならぬ。又た其室の形が細長過

ぎたり或は正方形に近い平面である場合は、食堂としての裝飾は一層困難を覚える。此室内に設備する陶器棚は造りつけのものも、置棚式のものもあるが、之れとサイドボードに因て食堂らしき氣分を與へるのであるから、歐米人は此二つに全力を注ぐのである。食卓と椅子丈けでは如何に工夫しても食堂らしくは出來ない。又た食堂には一隅に窓下に造りつけの腰掛けや凸出部に煖爐が設けられて一層愉快を増すのである。

小住宅の食堂用家具としては壁や木部が白ツほい場合にはマホガニー色が最も適するが、褐色や橙色等の場合にはオーク材のものが寫りが善い。其室が少し薄暗い陰鬱の様なものならば、配色は明るい生々したものとすべく、窓の多い南向や西向きのものならば落付いた配合を取らねばならぬ。只何れにしてもサイドボードや陶器棚に置て在る品物の引き立つやうな色合を撰む必要がある。床は化粧床が最も宜しく其上に小形の絨氈を三四置並べるよりは大型のものを置いた方が宜しい。且つ無地ものよりは細かい模様ものの方が適する。食堂はリノリウム敷とすれば掃除に容易であると云つて之を好む人があるが、其室に落付きが無くなつて好ましくない。ウキルトンものでもスコッチものでも善いから絨氈は敷く方が宜しく又た之れに輪廓はつけぬ方が善い。

食卓は角形でも小判判でも或は圓形でも善いが、何れにしても中板の挿入に由て伸縮の出来るものとする必要がある。最近には歐米人の嗜好は平素は直徑四尺五寸位の圓卓を置き、偶々食卓人數の増した場合は之に中板を入れて小判形に直し、長十尺位迄伸ばせる様な構造のものを歓迎して居る。尙何れにしても食卓と椅子はチツペンダール、シェラトン、ヘツプルホワイト、ジャコビアン等の様式の内のものが適合する。若し簡易な食堂ならミスジョン式も清楚で良い。外國では往々食堂にペンキ塗の椅子を用ふるが、其色合は何であつても甚だ不向きなものであるがアダム式レネーサンス式も亦た相應する。

陶器棚は硝子戸を嵌込んで内部を鏡張にしたものが理想的であるが、中々高價であるから上位の住宅で無ければ使用し悪い。之れが食堂の裝飾の主要部とも謂ふべきである。食堂に置く煖爐は必ず凹所に置かぬと、食卓に就て居る場合に一部の人は背が焦つく程熱せられても、他方には之を感じぬと云ふやうな事が起り易い。

食堂に掲げる額は風景よりは動物魚貝のものが最も適當である。狩獵や花果の靜物も亦相應しいものである。

(第四十五圖より第四十八圖参照)

## 第十一章 書 齋

曩に記述した様に小住宅では書齋として別に一室を取る場合は少なく、多くは應接間の一隅位を之れに充てるものが多いが、若し小さく共書齋を一室として取るならば、其室内は強烈な配色は避けた方が落付いて良い。且つ餘りゴチャ々々するよりも簡単な手法が倦怠を來さないで佳い。明る過ぎる色合を避けて、褐色、緑、淡黄、青じみたものを用ふるが適當する。室全體として秋の小春と云つたやうな氣分を出す様に工夫せねばならぬ。従て木製の部分も餘り白つほ過ぎた仕上は適せず、さりとしてクシミ過ては陰鬱になる。心地善き落付いた温か味のあるものとするを要する。

壁なども餘りに裝飾的手法を弄せぬ方が善い。壁紙を張つても穩雅な二色の對照位の程度がふさわしく、只一色仕上げでも不向となる。三四十年前に本邦で流行した金唐革などは、之れを甘くペンキ仕上げにすると書齋の壁紙には中々濫くて面白いものとなる。普通の壁紙を貼るなら細かい模様ものか縞ものが適する。壁にかける繪も山水風景ものや文豪偉人の肖像が適する。半身像を飾つても亦た矢張り同様である。

書齋の家具としては書棚と書房机書房椅子が最も緊要な

ものであつて、此外に脇机やソファ等種々の家具も必要ではあるが此三つの撰定を甘くやらぬと、書齋としての價値を失ふことになる。文豪デツケンスもスコットも書齋の壁全部を書棚として使つて居つた位であるが、文士で無い限りは左程多くの書物を陳列する要もなく、所藏のものを納め便利に區分けした書棚があれば充分である。書房椅子は掛け善いものならば廻轉しても然らずとも差支は無い。只机は少し大き目のものが便利である。様式はレネーサンス、フレミツシ、チュードルの様な稍々堅いものゝ方が善く、ルイ式の如きは適當でない。又たシェラトン式やヘツプルホワイト式の家具はかよわ過る觀が在る。

室の一隅にソファを置いて書見に倦んだ場合の休憩に用ふるも善い只椅子張の帛地はあくどい色で無いものとすべきで在つて、少し値は昇るがモロツコ革などは最も良い。書棚以外に浅い抽出しの澤山ついて居る棚を備付ける事が便利である。

床は全體に絨氈を敷く方がよく小形のラッグを置くよりも遙かに宜しい。只其模様が小さいものを選びれば裏通しものでも結構である。窓掛けも薄地ものよりは少しボツテリした帛地の毛入りものゝ方がふさわしい。煖爐あれば其脇に造りつけ腰掛を取付ける可きである。

(第三十九圖より第四十三圖参照)

## 第十二章 寢室

歐米人の寢室は絶對秘密の部屋とされて居る。従て親兄弟でもいきなり寢室に入り來て話しをすると云ふ事は無い。斯く本邦とは風俗が違つて居るから、外國の寢室設備を轉呑には出来ない。歐米人は小住宅の寢室を化粧部屋としても使用する。故に洗面臺や髭剃り道具迄寢室内に備付けるのが一般である。稍々大きな邸宅では寢室に隣て更衣室を取り、贅澤なものは特別の浴室便所さへ專屬させる。併し小住宅では斯る事は絶對に無いと謂ふても宜しい。

歐洲でも中世紀には寢臺は使はれずに、床の上に蒲團を敷て寢たものであるが、其後に木の枠を造て之の上に蒲團を載せたのが、即ち今日の氣持よき寢臺の始めを爲したのである。現代小住宅の寢臺としては極く簡単にすれば、寢臺、枕元の小臺、衣裳戸棚、小箆箆この四つが在れば事足るのであつて裝飾としては莊重で無い方が宜しい。

壁の仕上げも簡単なものは、漆喰塗の上へ適當のペンキ塗を爲し、天井も漆喰其儘でも善いのである。壁紙を貼つても光からない餘りけば々々しく無いものが適當する。最近歐米で用ひられる衛生壁紙(水拭きの出来るもの)の如きは尤も寢室に使ふ可きものと思ふ。窓掛けもモスリン、クレ

トン、更紗木綿、デニムのやうな種類が宜しく、室内木部も掃除し易い仕上げを要する。床も絨氈敷きは塵芥が取れ悪くいから、寧ろ文化敷物カリノリユム敷が良い。

稍大きな部屋で歐米風に化粧臺を据へ洗面所を設ける場合には、入口の扉を開けても直ちに化粧臺が見へないやうに配置せねばならぬ。其れには入口の脇に屏風を置く事が最も良い。近頃米佛あたりでは寢室には盛に屏風を用ひて居る。

家具様式としては米國で流行するコロニアル式は小住宅寢室に最適當である。アダム、ヘツブルホワイト式の如きも適當である。只どちらかと云へば家具は上等のペンキ仕上げにした方が、清潔でもあり見た眼からも氣持が善い。強い青色などよりも象牙色か白がふさわしい。只此場合に家具が白であるから、周囲の壁や床を稍々賑やかに配色せぬと淋しいものになつて仕舞ふ。寢室は静かと云ふ氣分を現はすやうに裝飾する事が最も大切である。従て壁紙を貼つてもボーダーは添へぬ方が善く、天井を紙張するにしても空色の様な温雅清楚なものが宜しい。

(第四十九圖より第五十二圖参照)

## 第十三章 ベランダ

ベランダには二種あつて吹抜きのものと、硝子障子で圍繞したものとあるが、本邦のやうに氣候の變化劇しく梅雨などと云ふ不快な季節がある邦では、吹抜きのものは好ましく無い。特に小住宅ではベランダは場合に由ては家族團樂室ともなり、來客を應接する場處ともなり、食後の休憩所にも、喫烟所にも、亦た日光浴の場所にも使用されるのであるから、硝子障子の嵌まつた所謂 Enclosed Verandah が好きなのである。此れを裝飾するのは居間の手法を用て宜しい。只出來得る限り明るく仕上げる事を要する。

家具は籐か柳製のものが最も適當であつて、軽く動かし得るものが良い。床は文化敷物カリノリユム敷が適當である。化粧床は夏季は善いが冬季に寒い様な感がある。夏は化粧現はし床として冬は米國製ナビジョ毛絨でも敷けば理想的であるが文化敷物や籐氈敷もふさはしい。硝子障子には日光が射し込まぬ程度のクリーム色のボンジーかレツプスボブリンの日除けを吊げ、家具は其室に釣合ふやうな色着けをしてワニ塗とし、花臺や卓子も籐か柳のキャシャなものを備付ける、搖椅子や寢椅子を置くも善く。丈夫なものが適當である。壁の仕上げも紙張りせずペンキの敲



き仕上げ位がふさわしく、木製腰羽目も寧ろ無い方が小住宅に適當である。

(第五十四圖より第五十八圖参照)

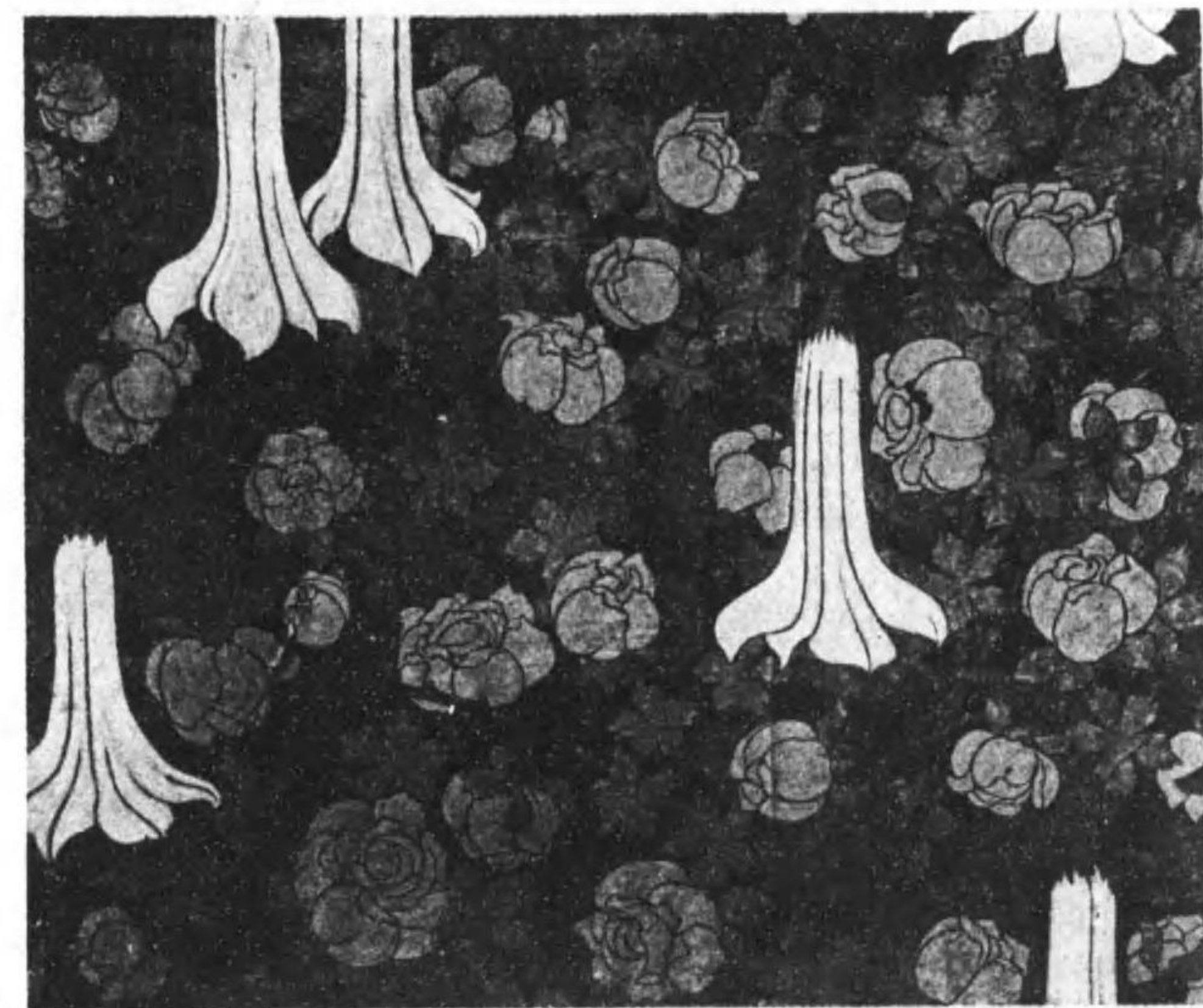
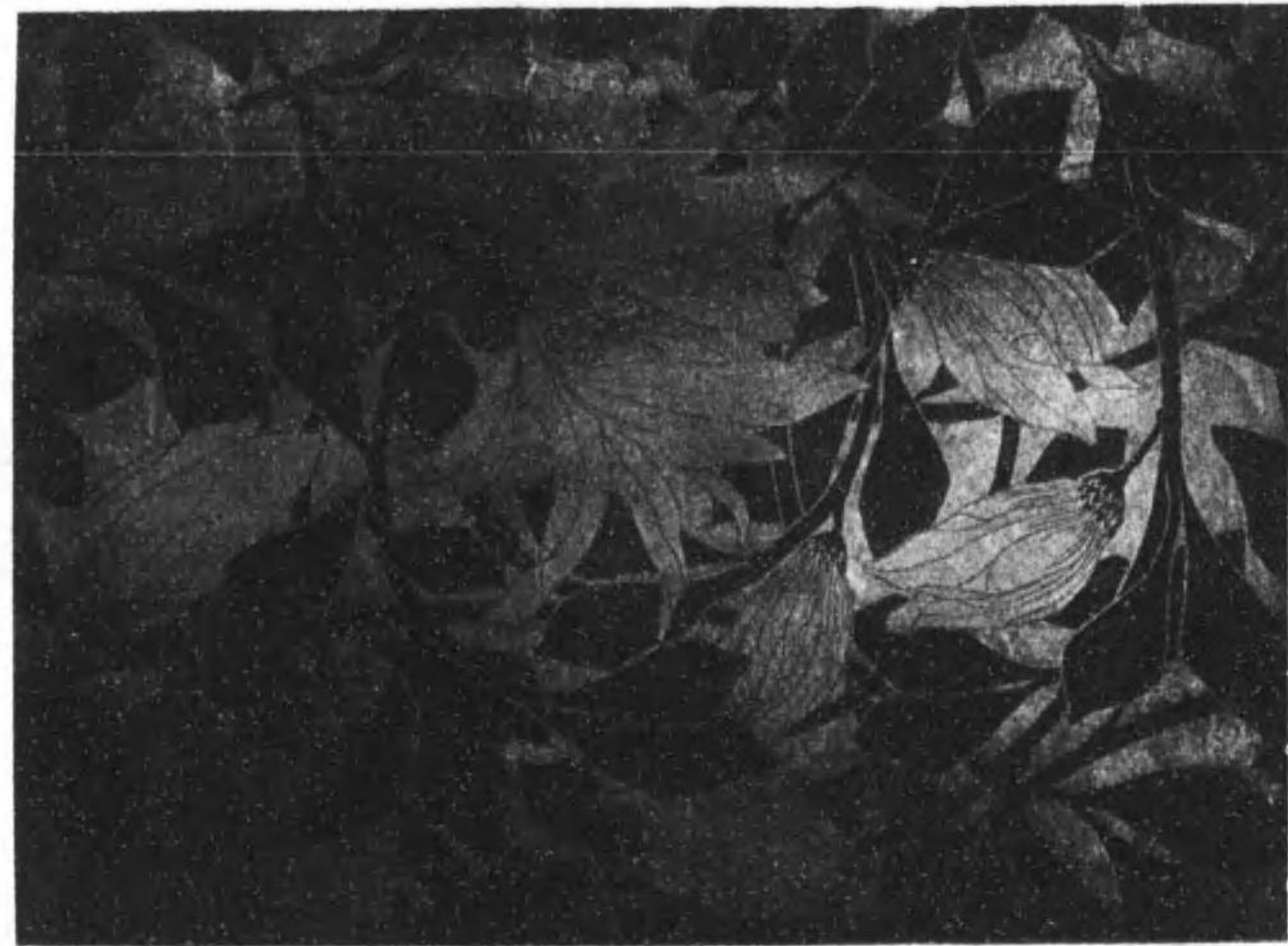
## 第十四章

### 結 論

吾人の住宅は其大小を論ぜず、室内裝飾に其の居住者の個性と嗜味を發揮せねば何等の價値は無い。又た其身分相當の設備をして住ふ可きである。他人の家を見て其の室内裝飾が善いからと云ふて其儘寫しても決して成功はしない。總ての家庭の空氣が違ふと同じく何れの住宅の裝飾にも其れ々々獨特の點が無くてはならぬ。さりとして無鐵砲な手法を採つて、様式の撰擇を誤まり色彩配合を無視しては室内裝飾では無くて反て打毀はしとなつて仕舞ふのである。洋行歸りの半可通の某氏がウエルサイユ宮殿のアンピール式を觀て來て、之れを自身の書齋に當嵌めやうと云ひ出した如きは、宮殿と小住宅の別を忘れた裝飾に關する常識缺乏と謂はねばならない。併し兎も角も數多くの佳き例を見れば自然如何に裝飾すべきかは分明する事である。到底文書に裝飾の細密は記述し難いものである。一の住宅は隅から隅迄美を盡し贅を究めたからとて、決して其れが完全な裝飾にはならない。使用する材料は上位で無くとも釣合、配色、調和、便利、愉快の五項に叶つて、維持に不經濟でなく其分相當のものならば、其家として立派に成功した室内裝飾である。特に本邦の洋風住宅では國民性から云つても、歐

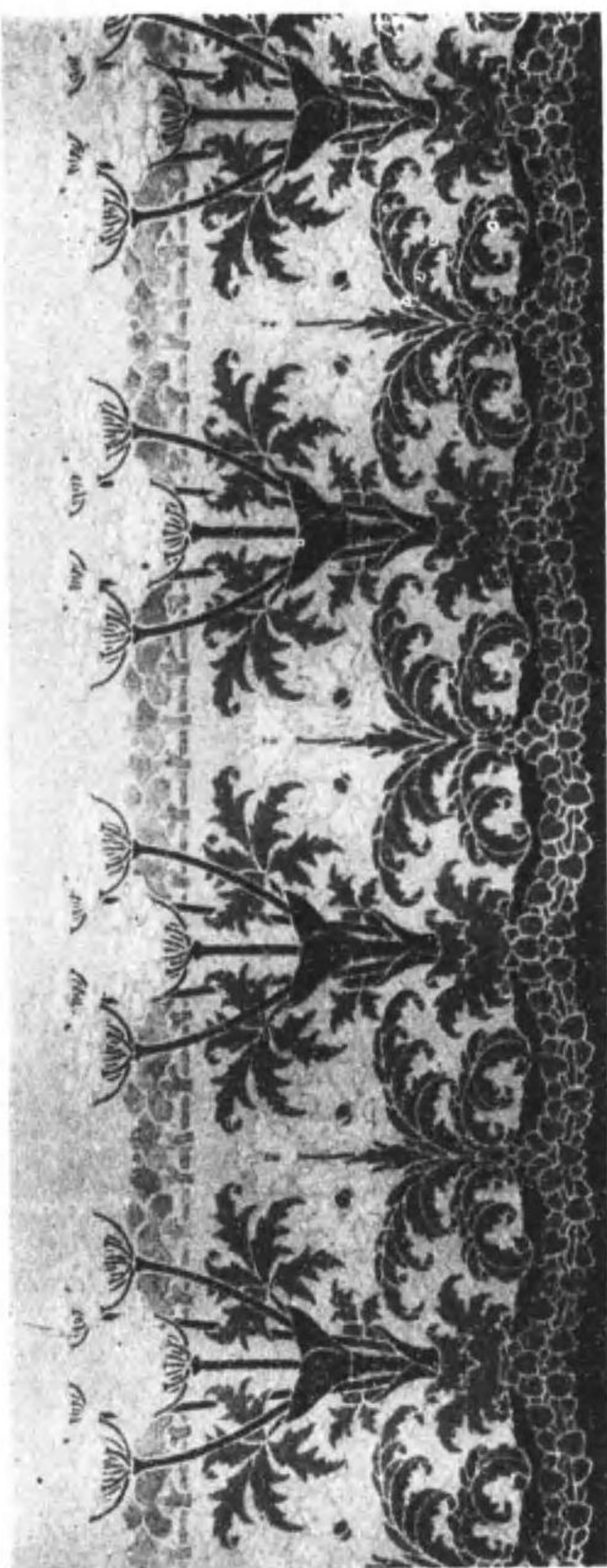
米の鶉呑は禁物で在つて裝飾は澁味のある奥ゆかしい仕上  
とせねば失敗に終る。過ぎたるは及ばざるが如しとは裝飾  
には善い格言であると思ふ。

花模様の佛蘭西壁紙二種



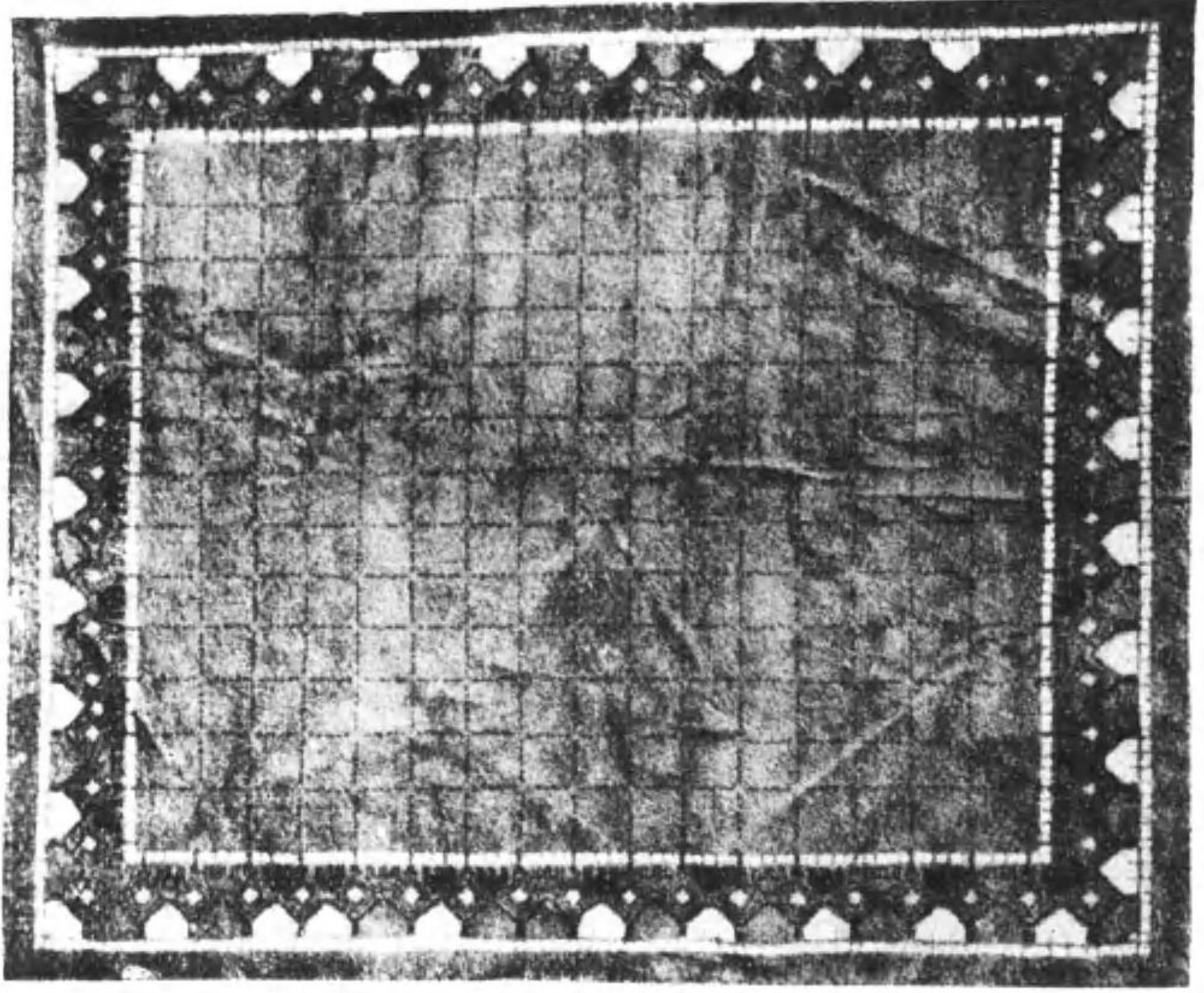
第一圖

壁紙フリーズ二種

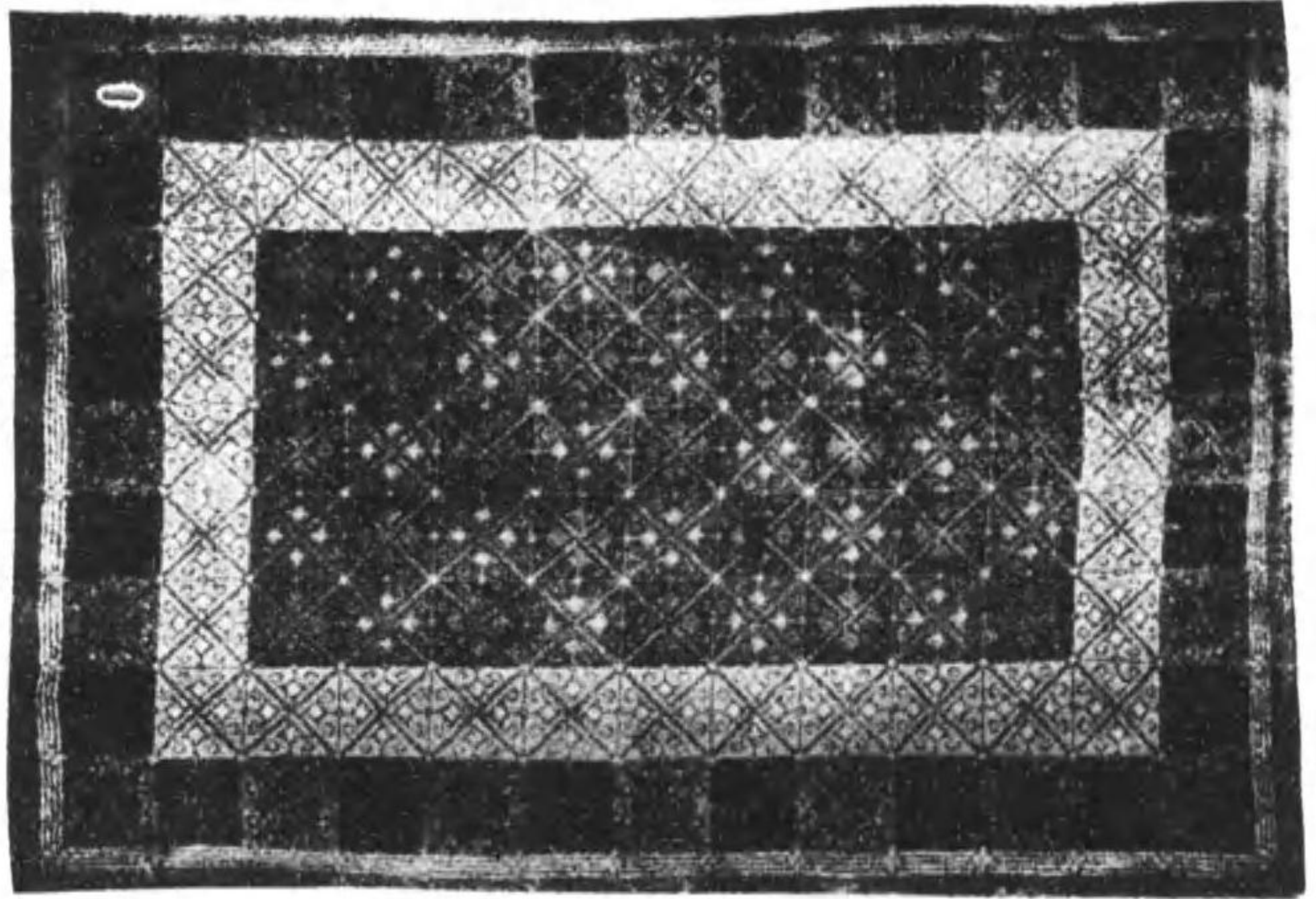


第二圖

第三圖



スミルナ製一枚敷の小型絨氈二種

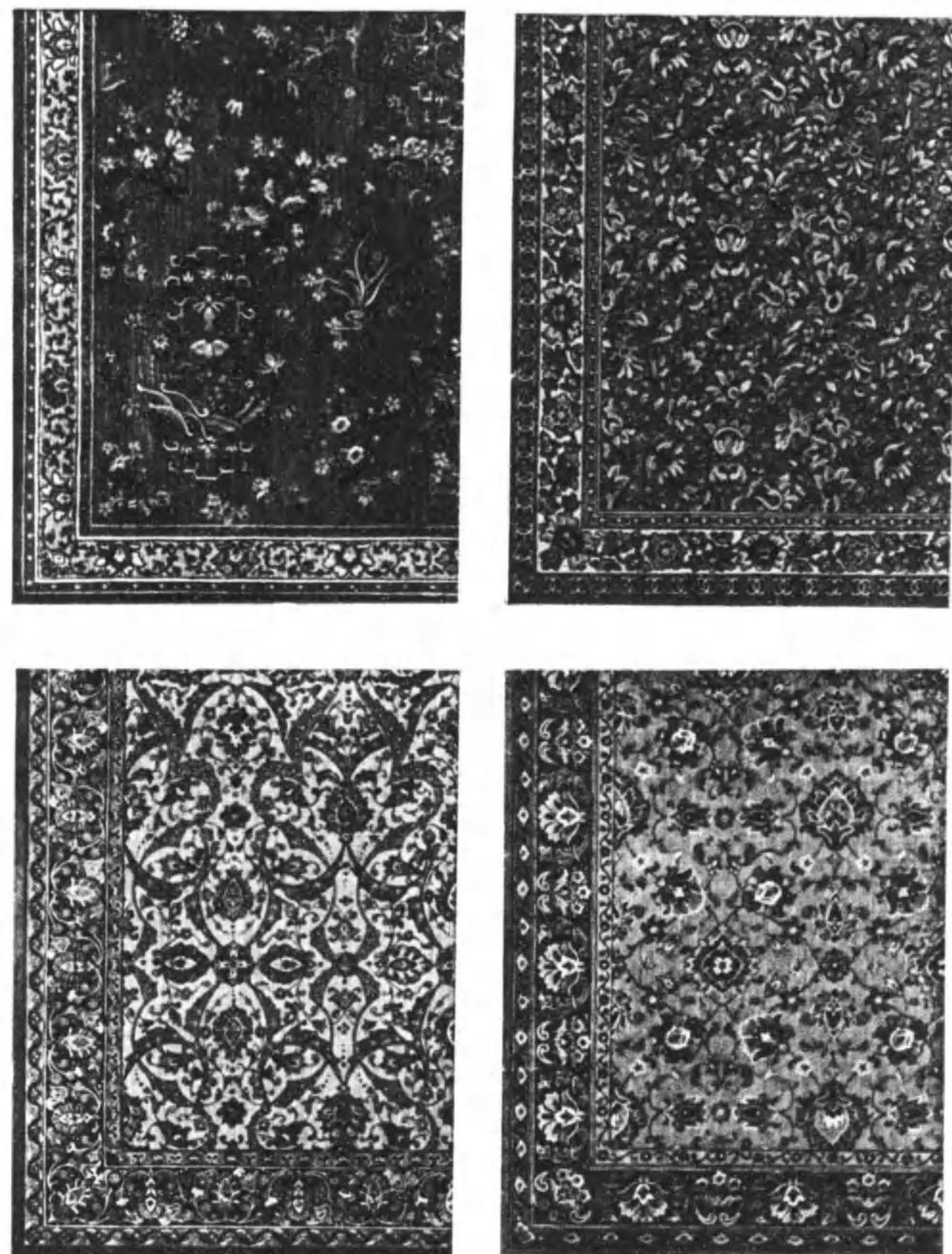


第 四 圖



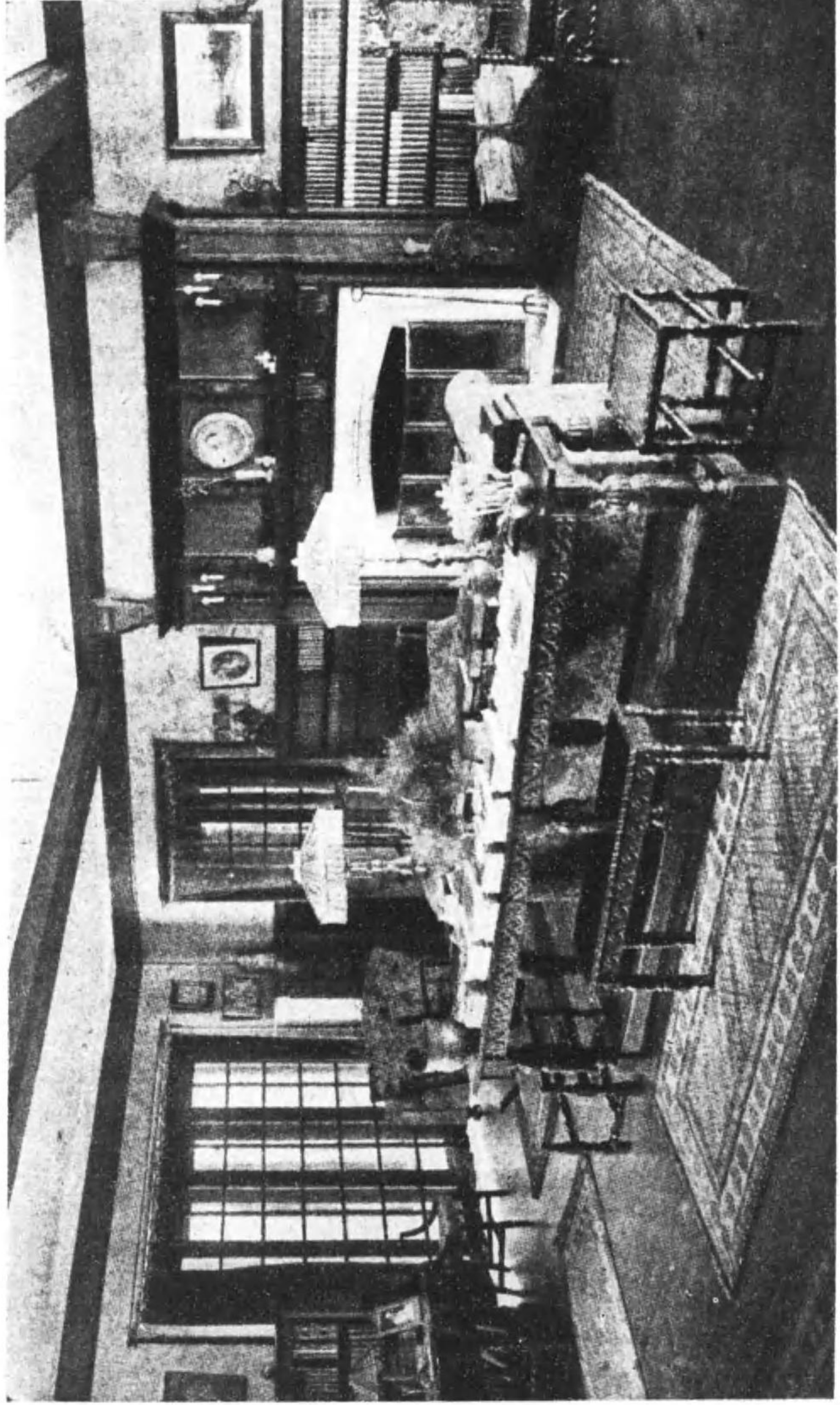
床の周圍を寄せ木張とし中央に模様絨氈を置きたる例

第五圖



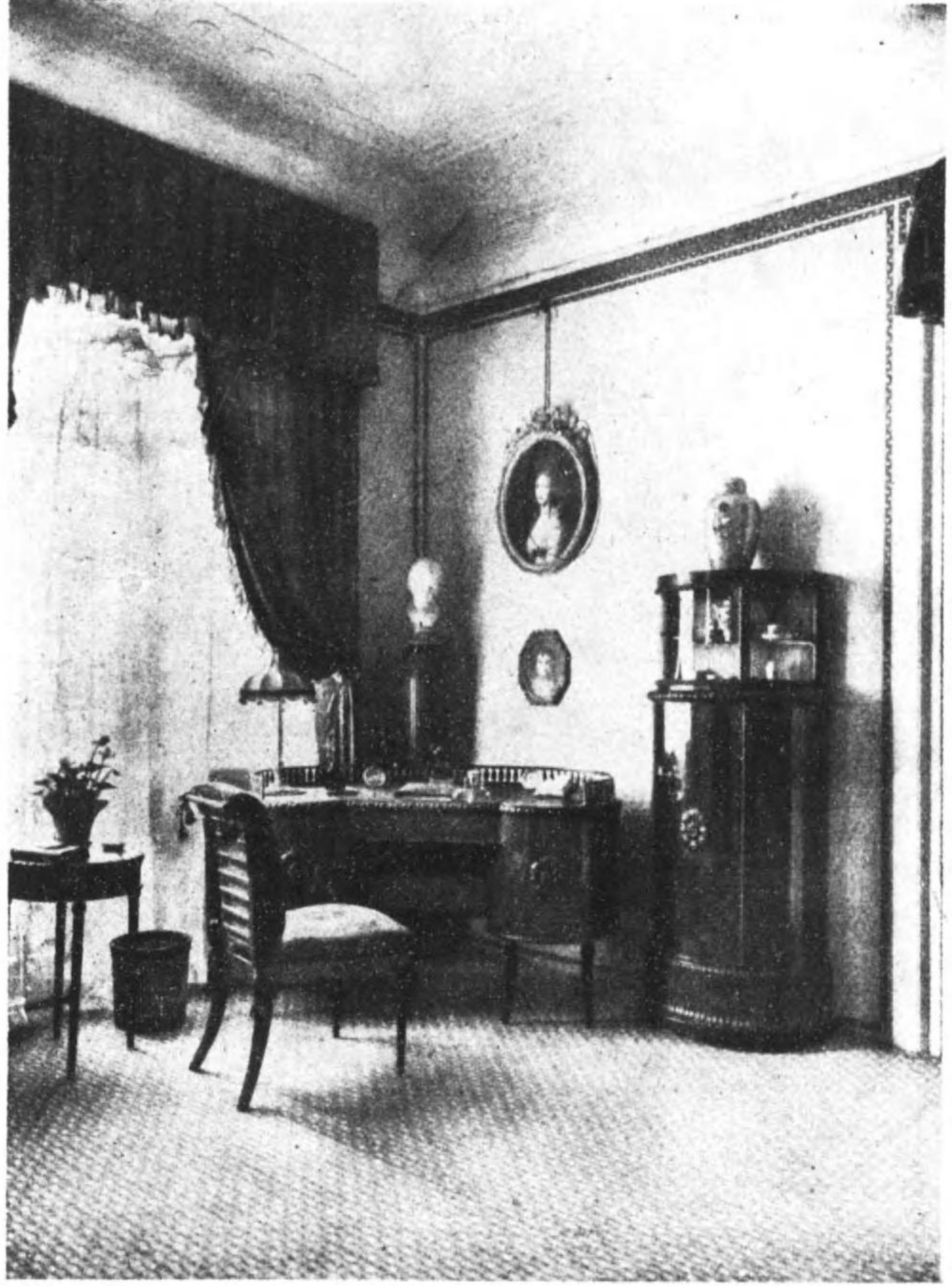
ウキルトン絨氈の例四種

第六圖



居間の中央に卓子を置き小型絨氈を数枚置列べたる例

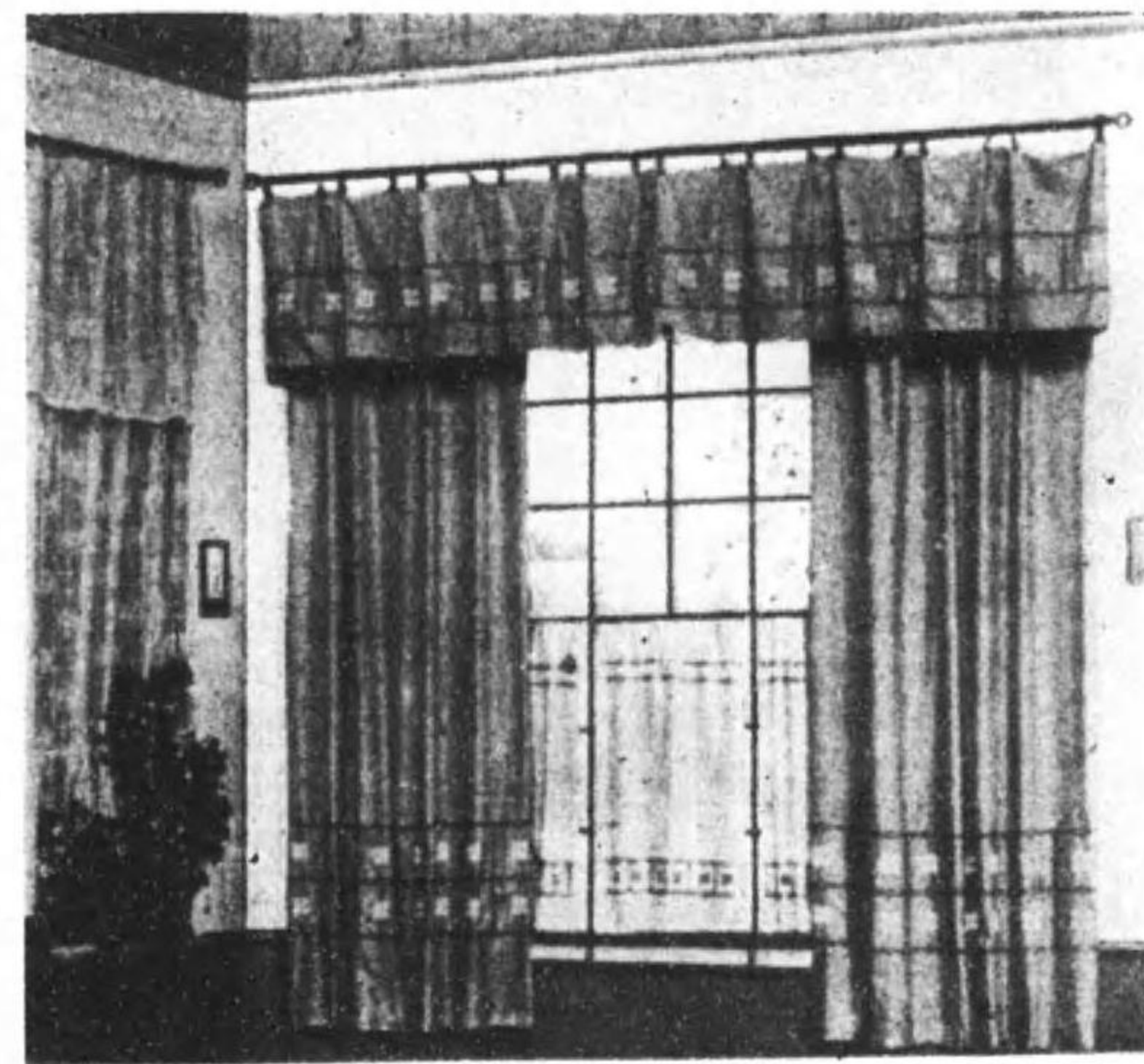
第七圖



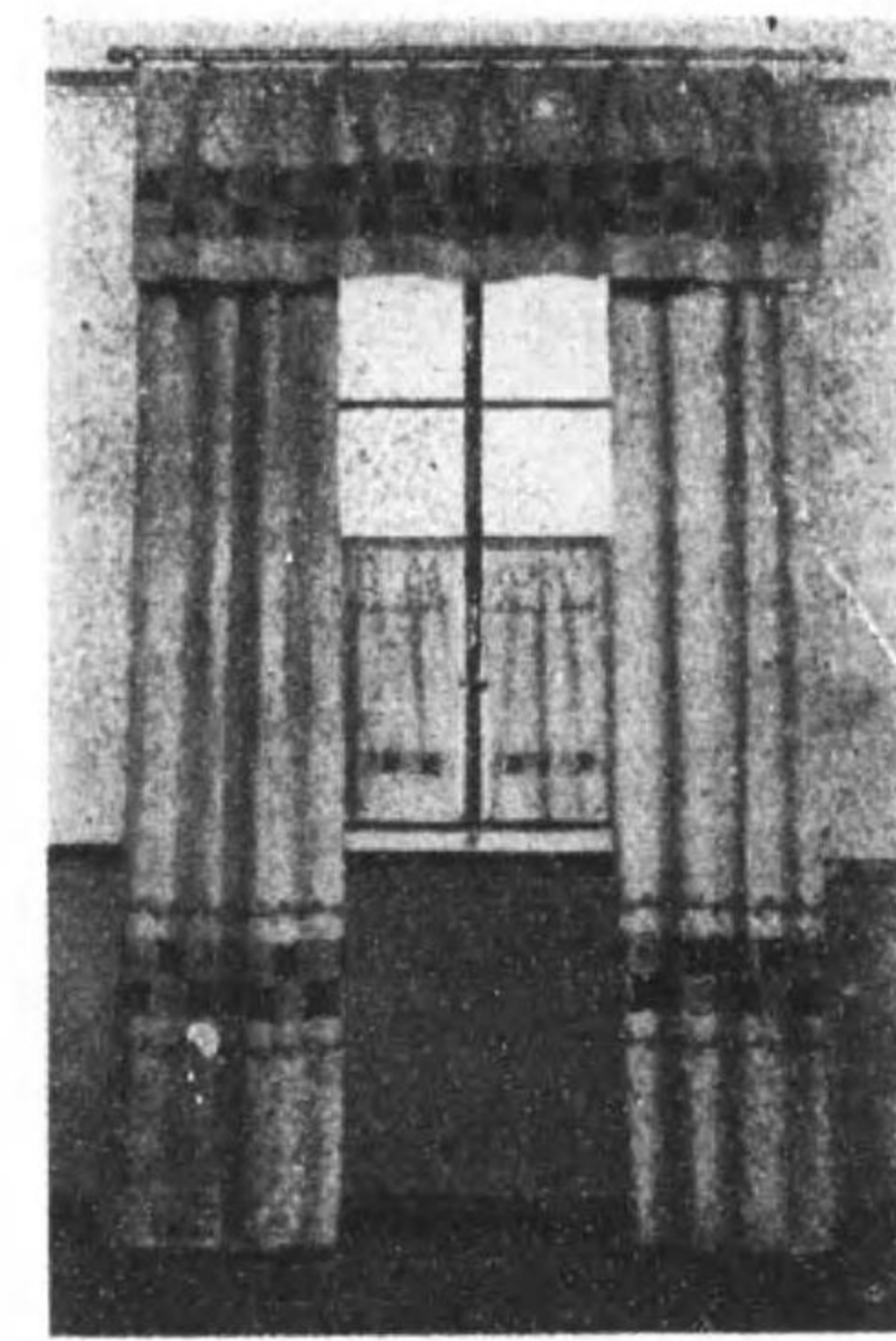
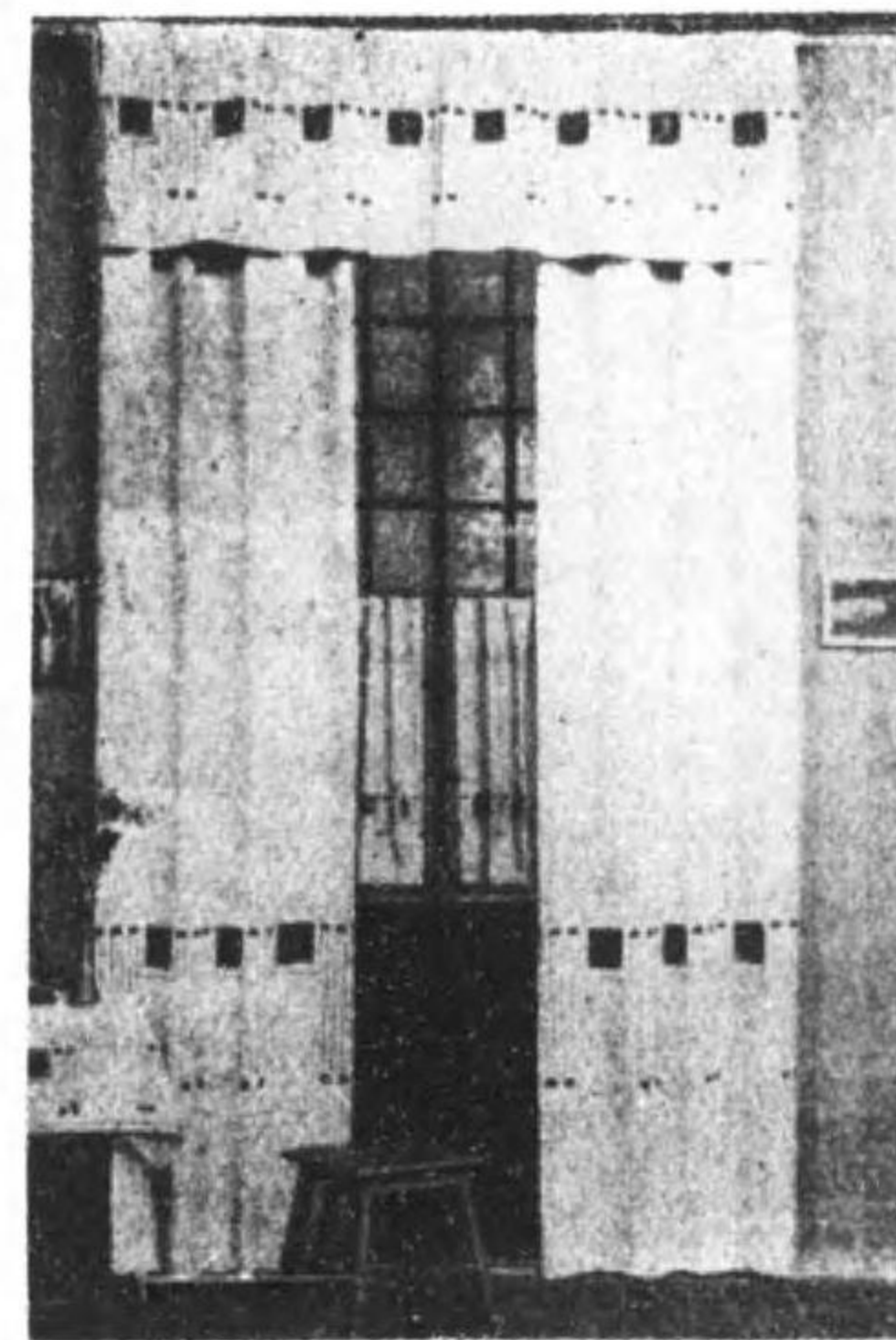
居間の床全体に絨氈を敷きつめたる例



第八圖



小住宅に適する簡単な窓掛三種（アツプルーを爲せるもの）



第九圖



窓掛と日除け（捲上げ日除け用ひす襷取りのポフリン）

第十圖

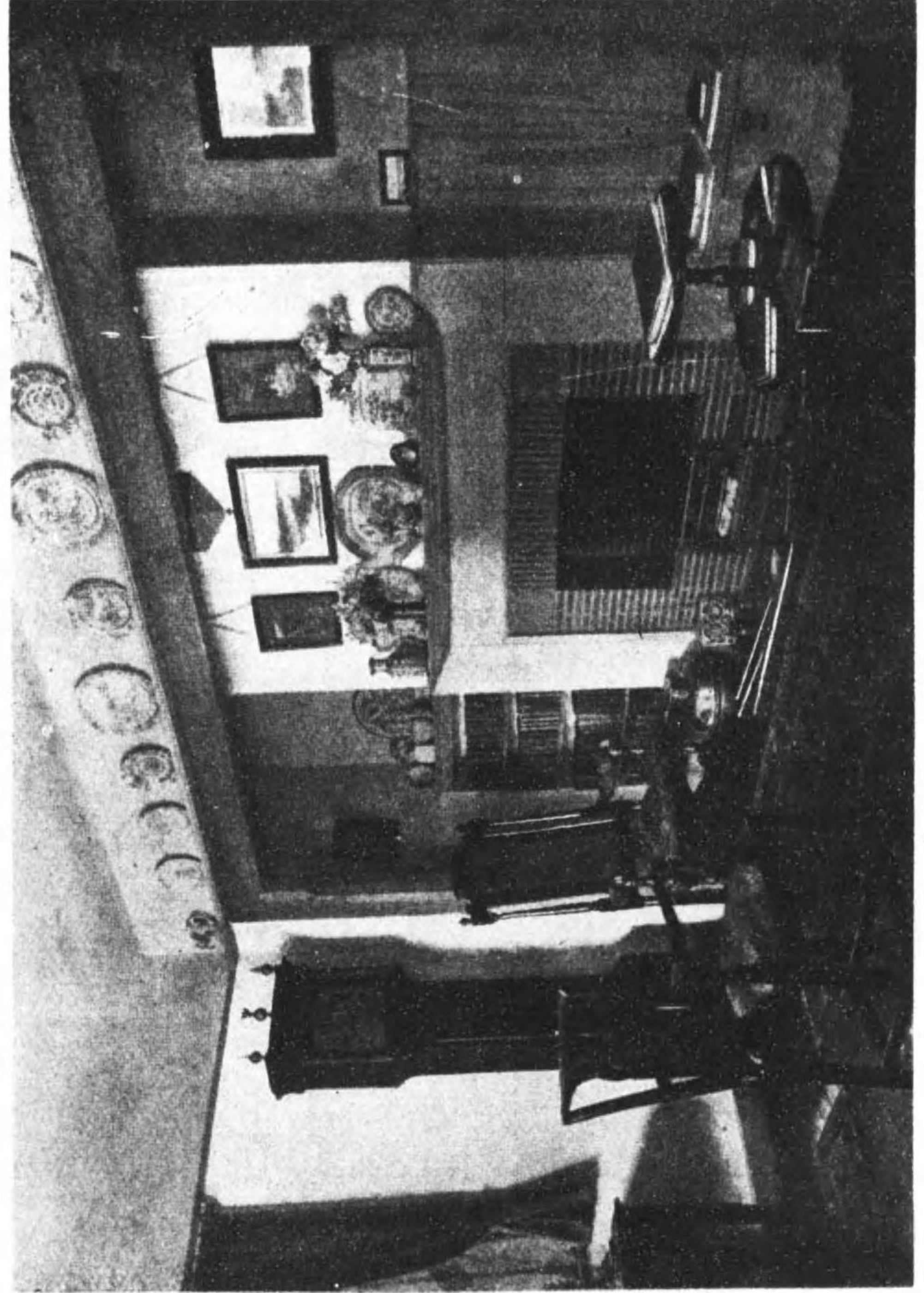


ガラス、カーテン（レースに非ず薄紗様の吊地）

欠

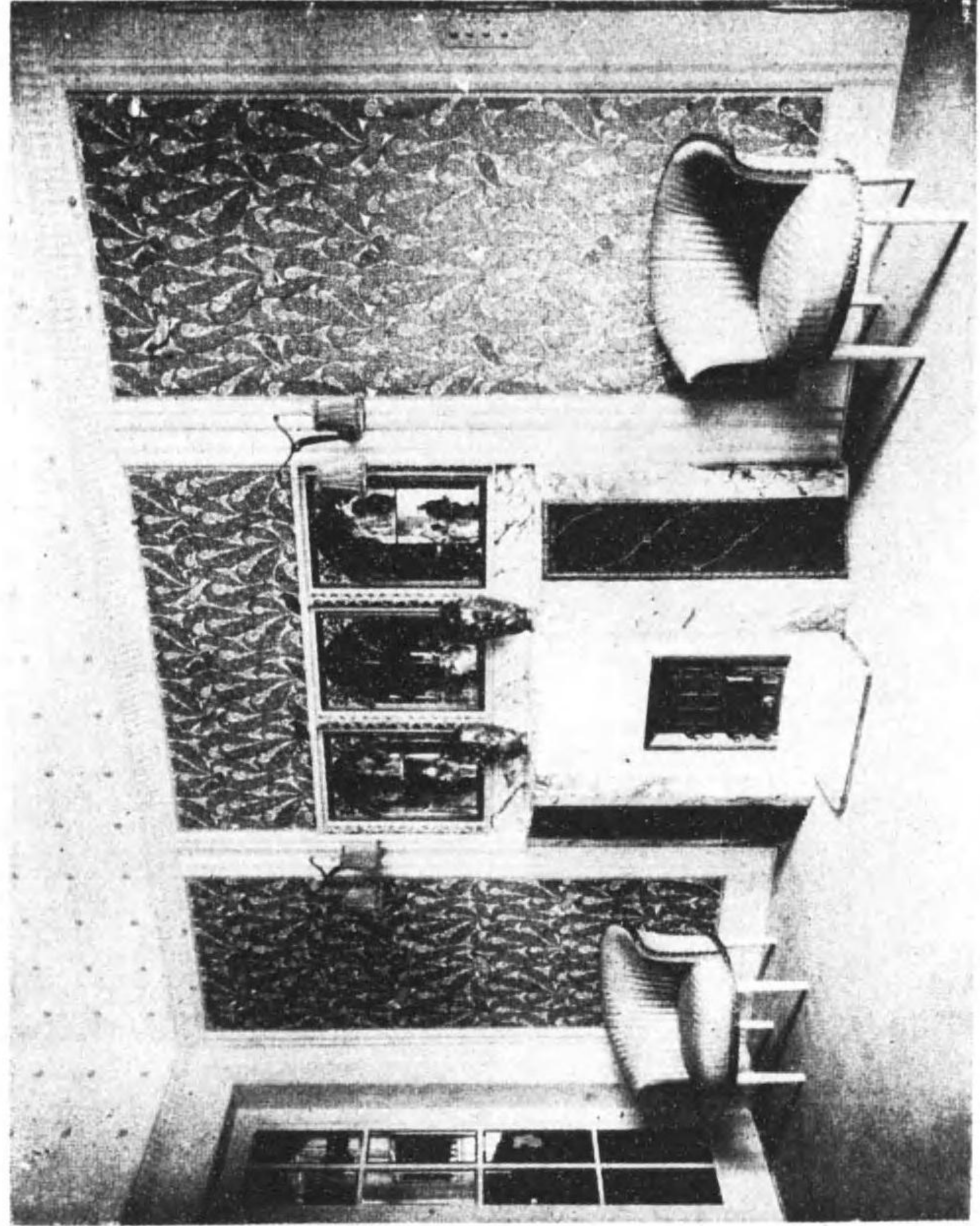
# 欠

第十二圖



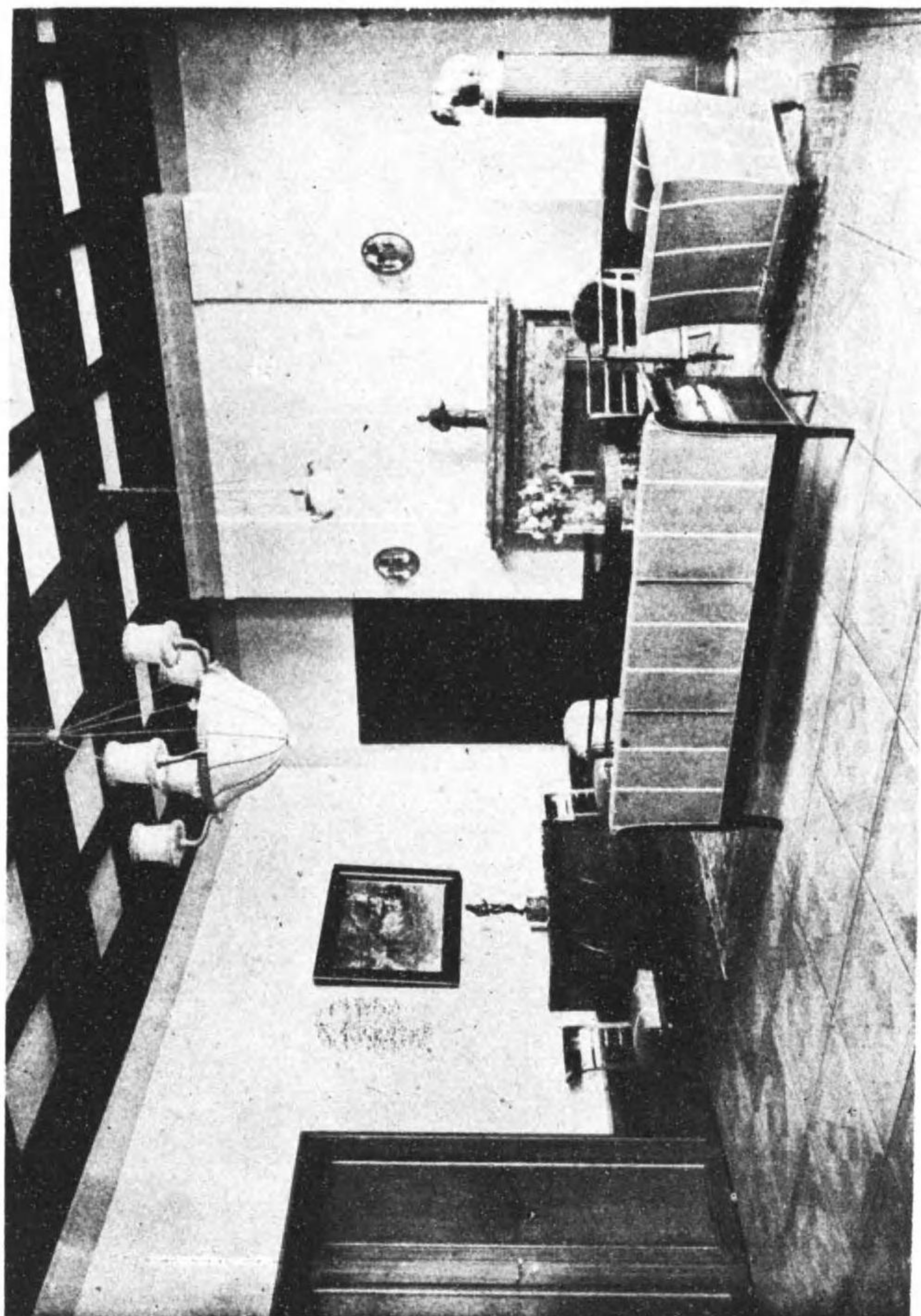
居間の暖爐（ファイヤードッグを置き新裝としたる例）

第十三圖



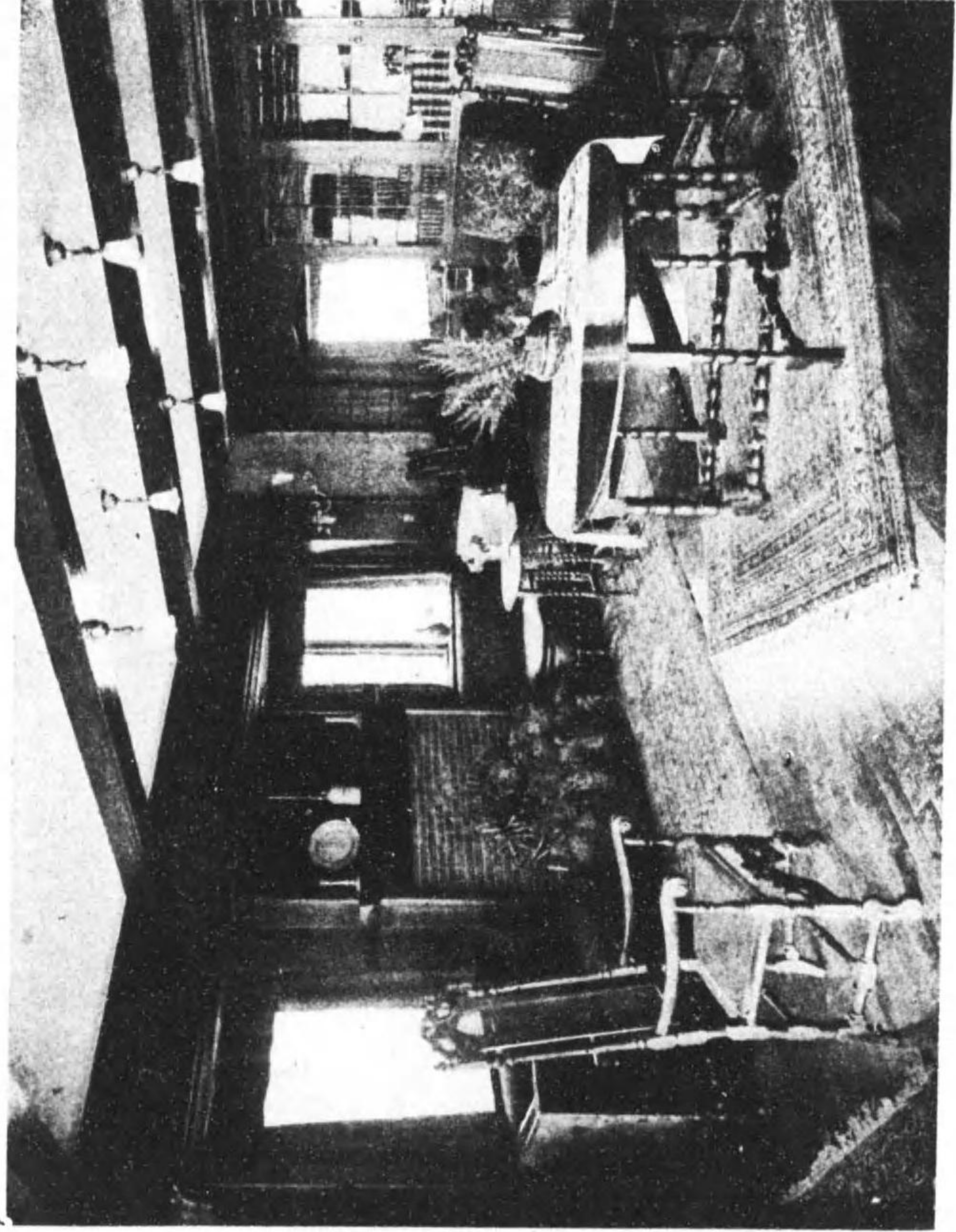
夫人室の電気暖爐

第十四圖



客間の瓦斯燈前の團樂所

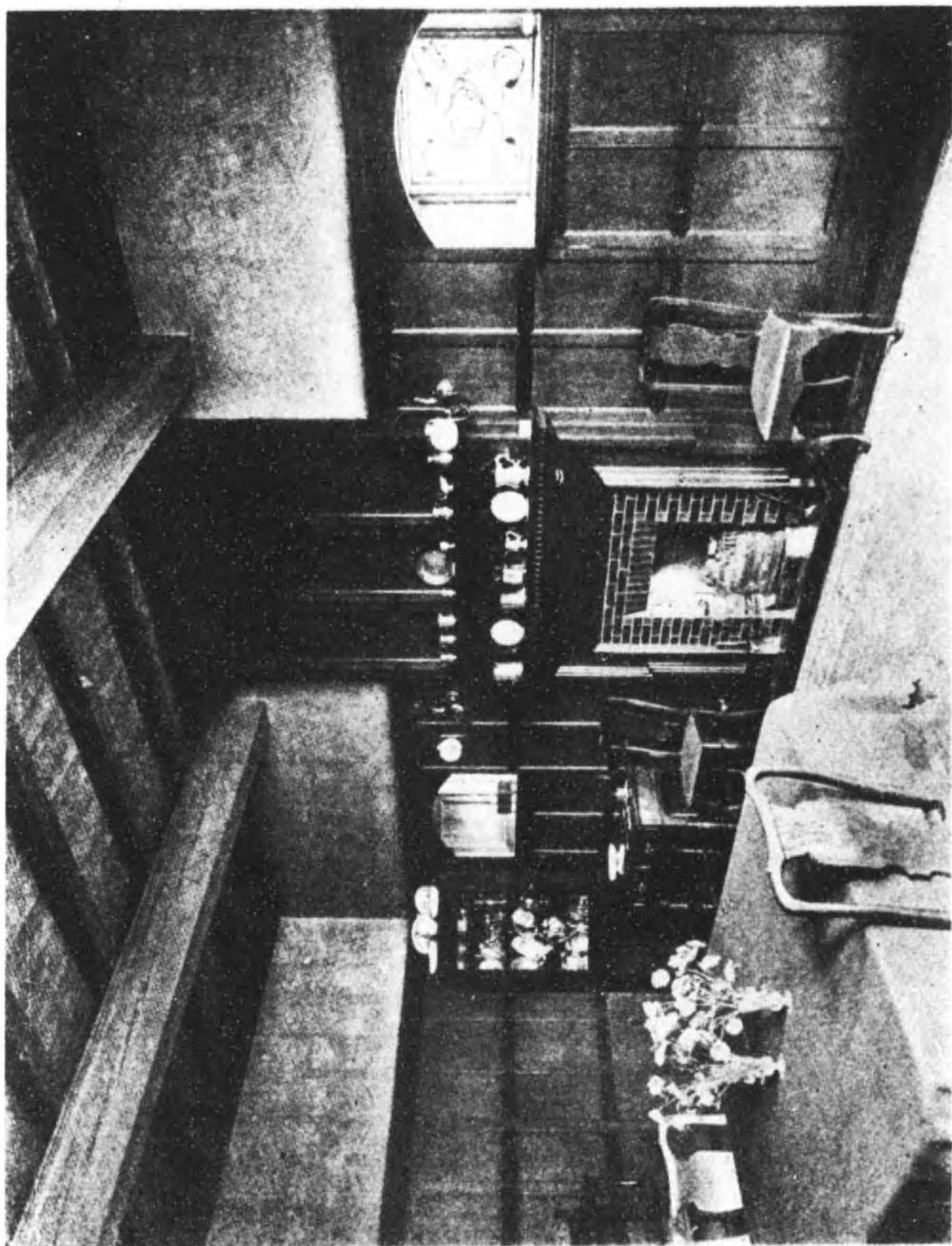
第十五圖



シヤロビアン式（居間と食堂兼用）

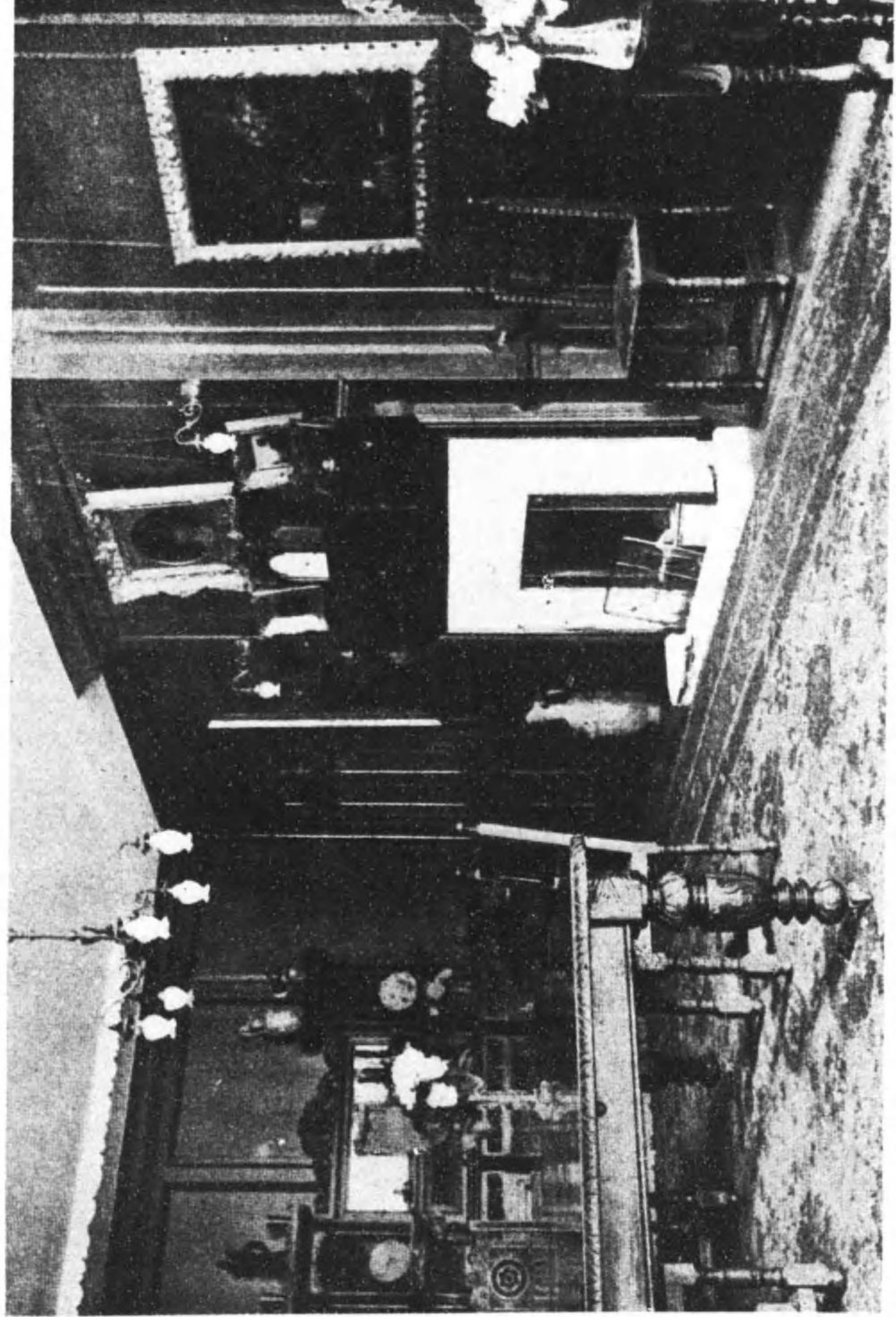


第十六圖



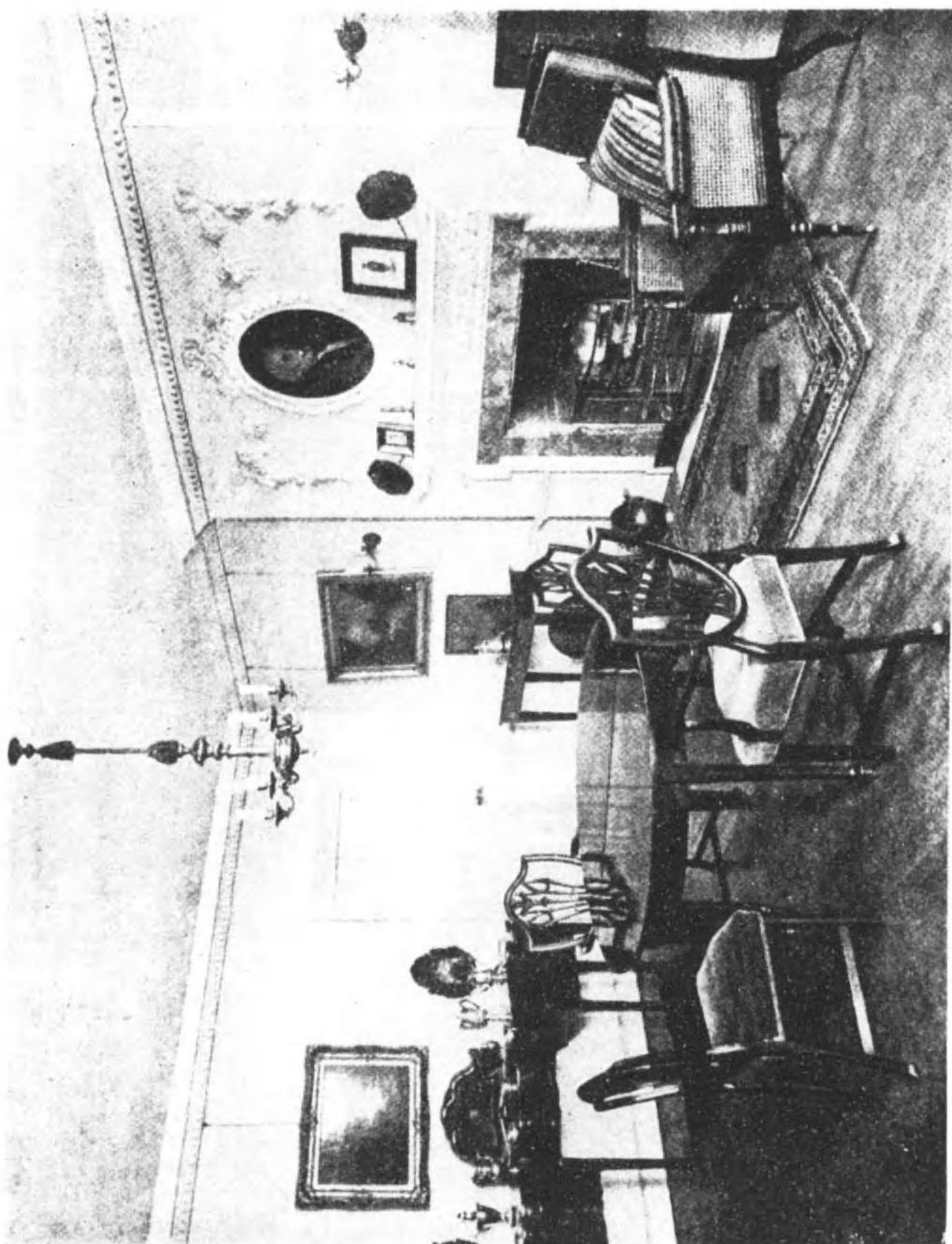
クサン・アイン式(小食堂)

第十七圖



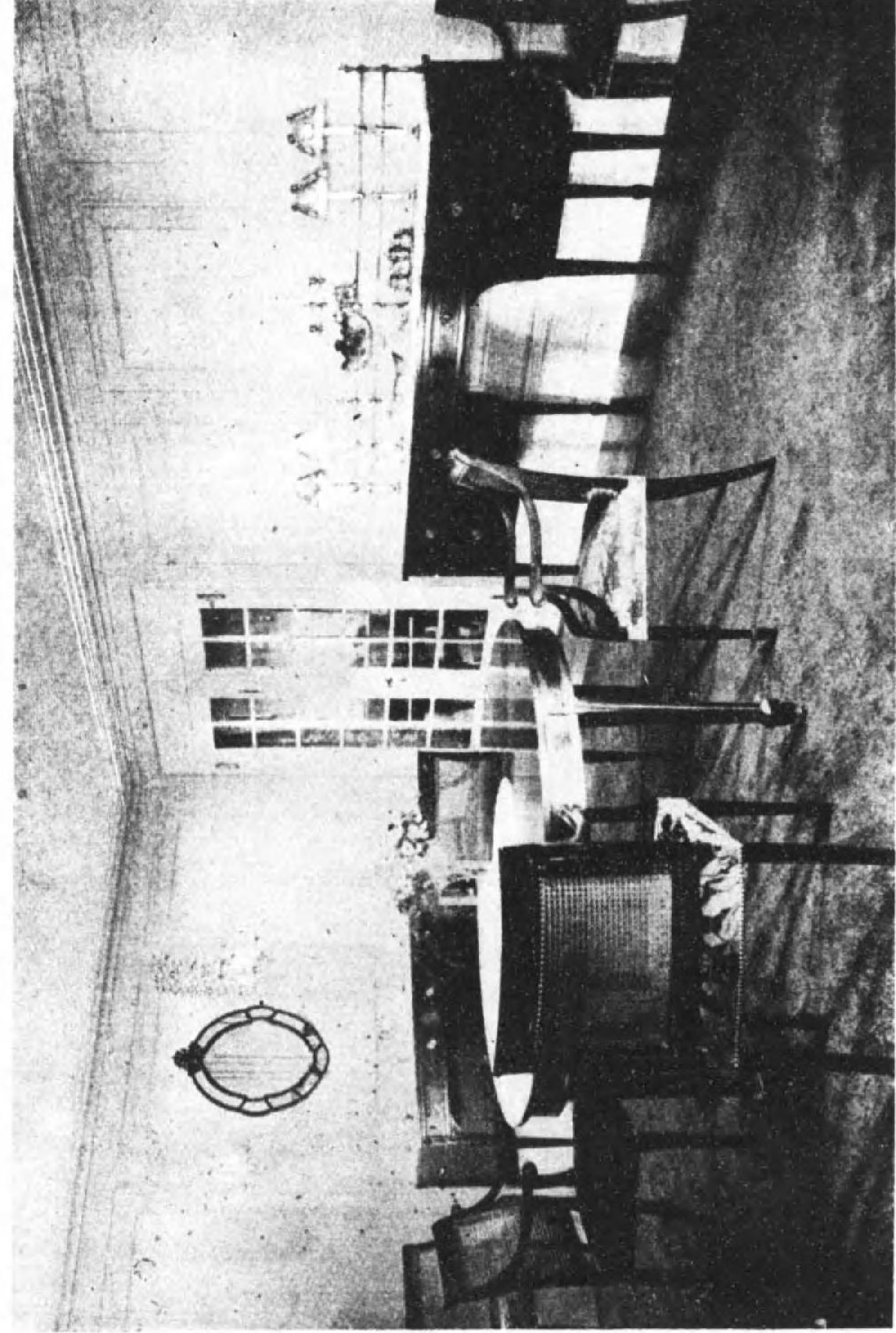
エリザベサン式(食堂)

第十八圖



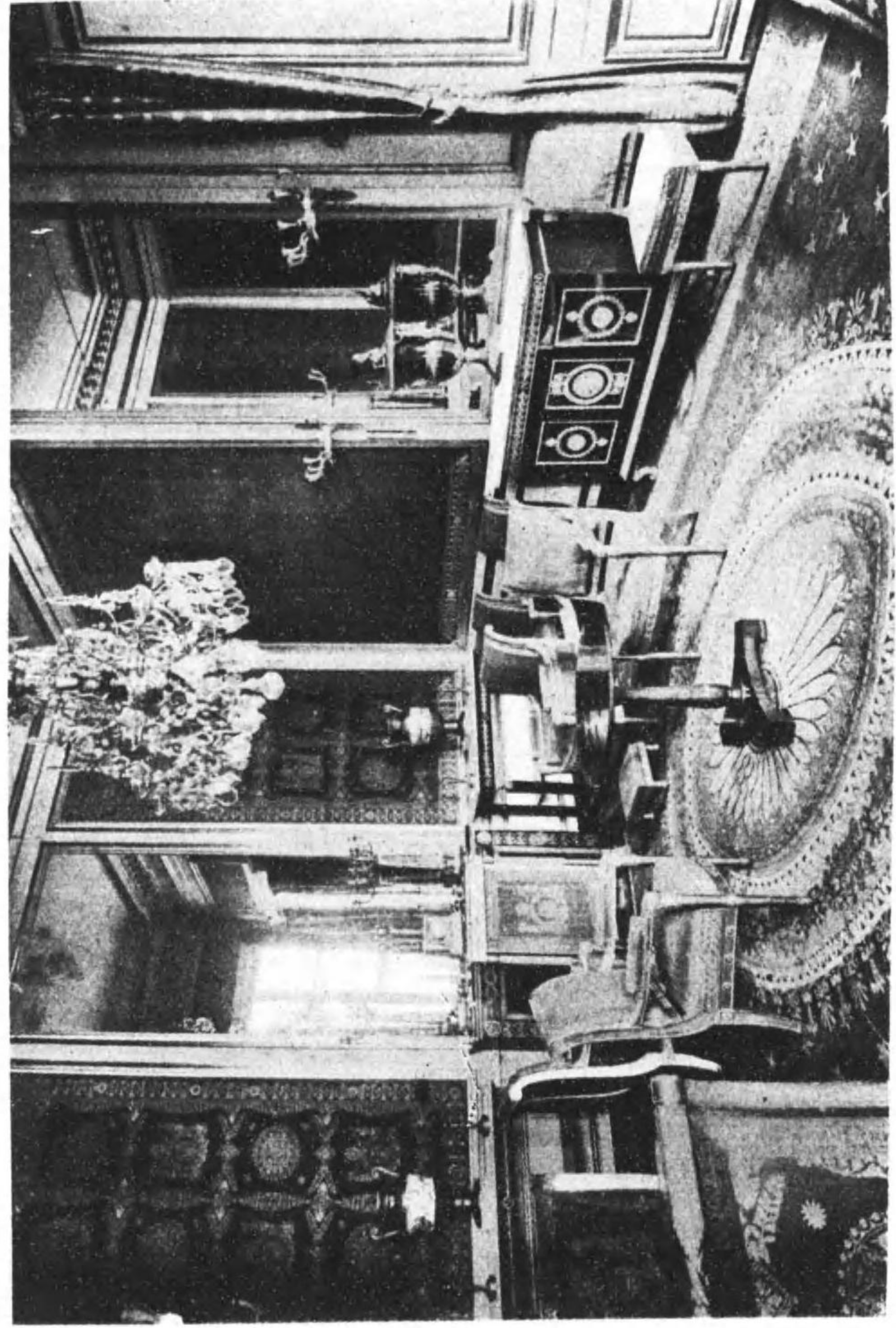
（小食堂）白式（ツアルホイト式）

第十九圖



アダム式(小食堂)

第二十圖



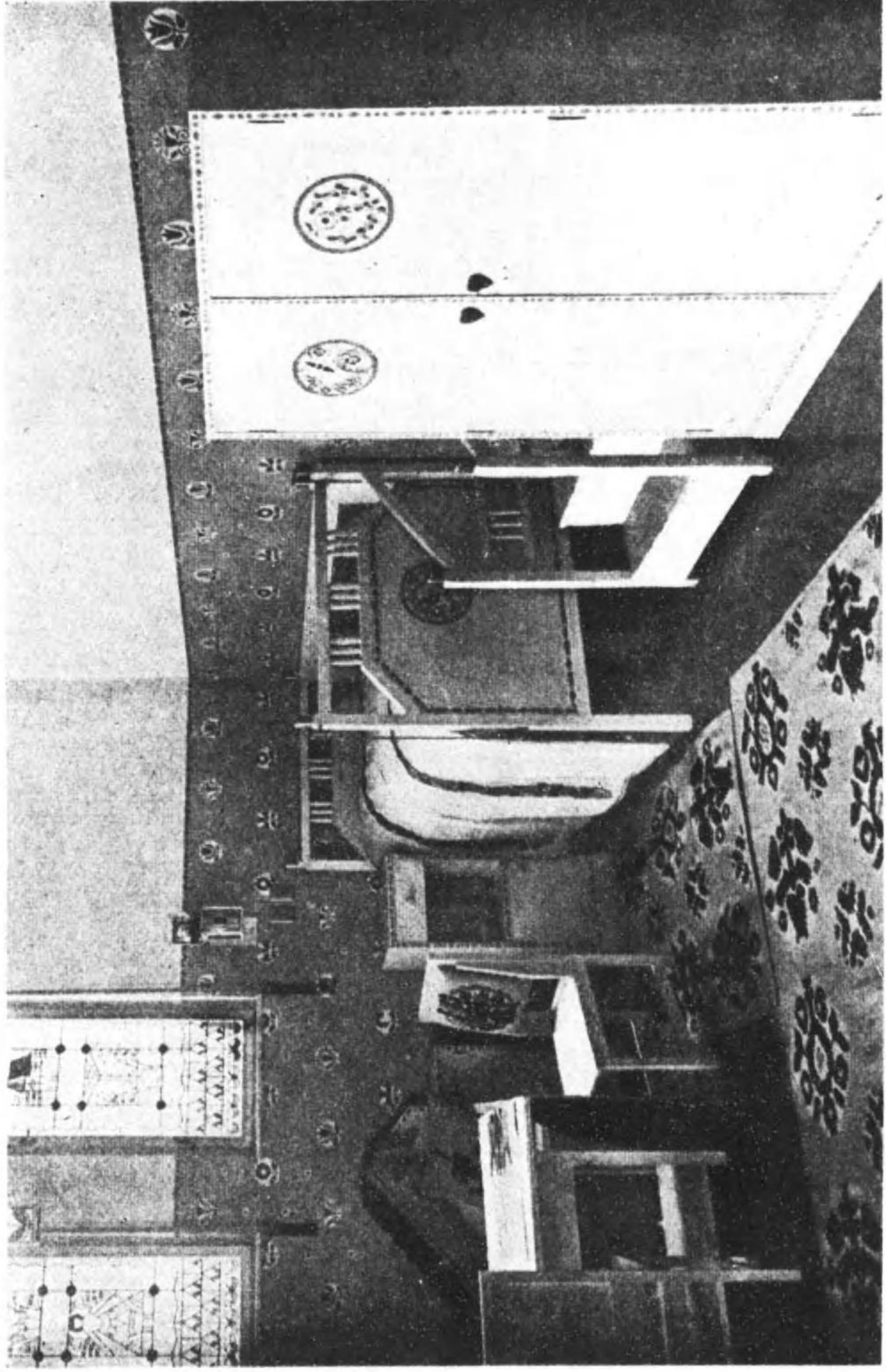
アンビール式(客室)

第二十一圖



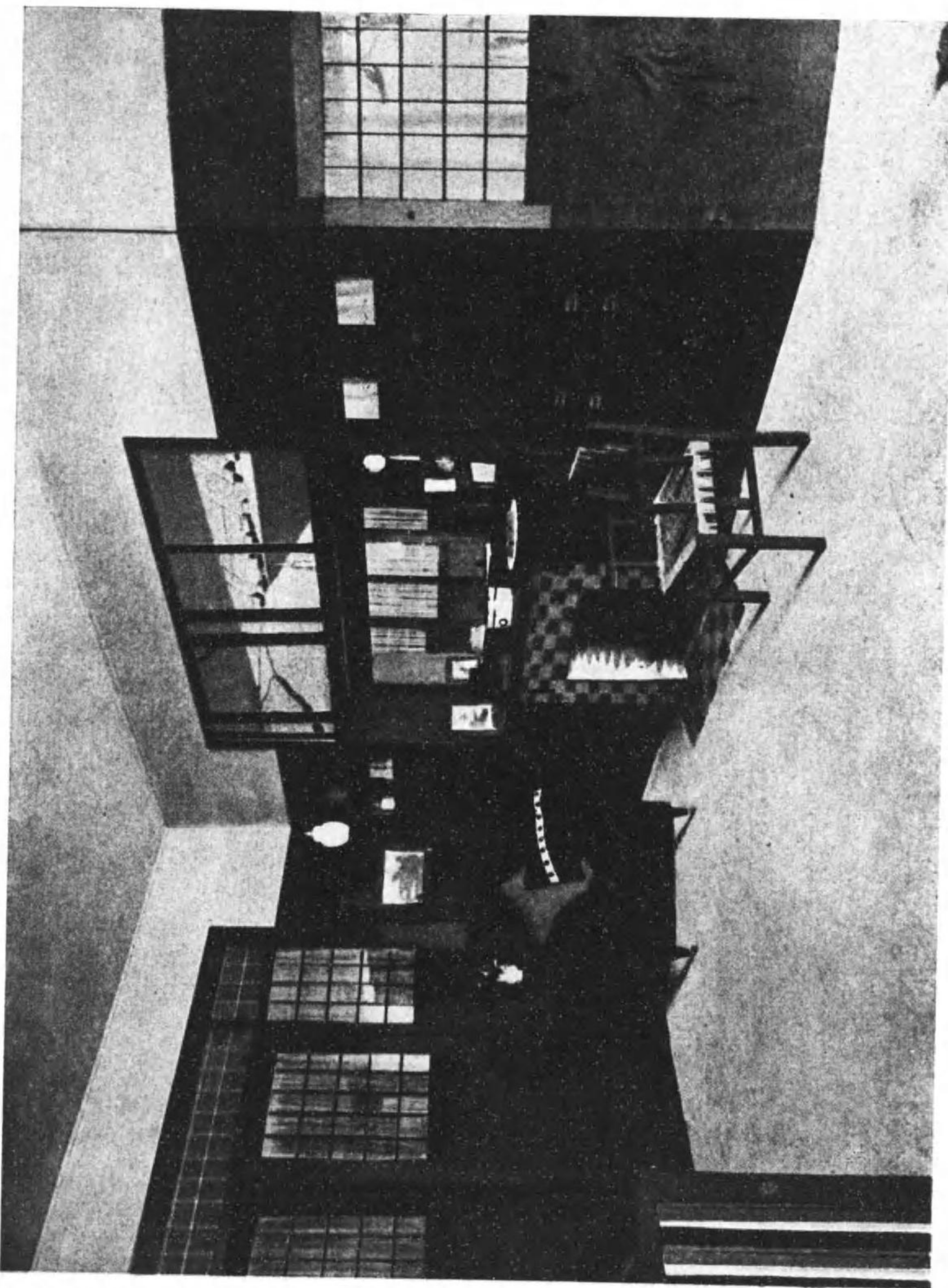
アールヌーボー式(夫人室)

第二十二圖



セセッション式(見童室)

第二十三圖

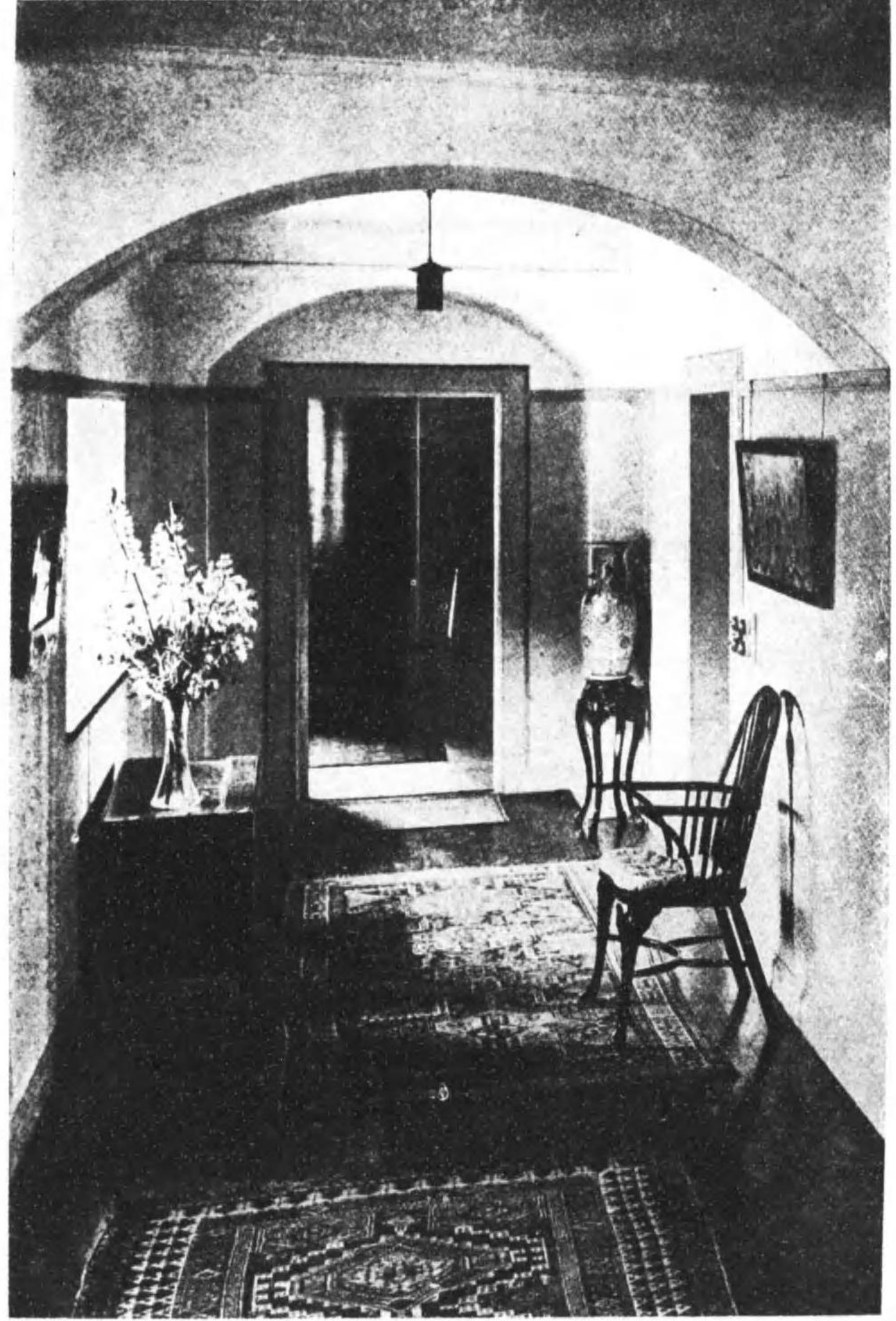


最新佛國流行の様式

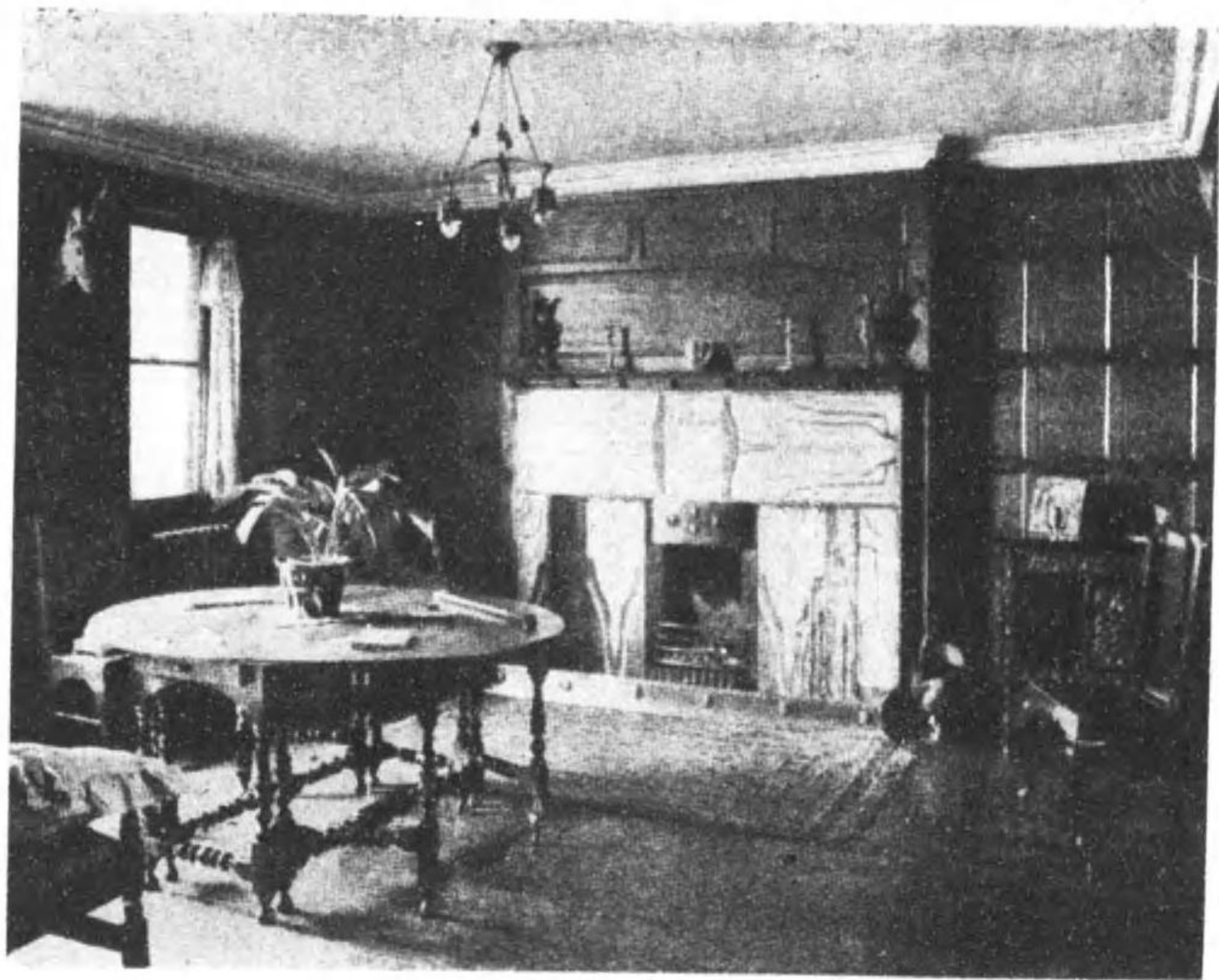




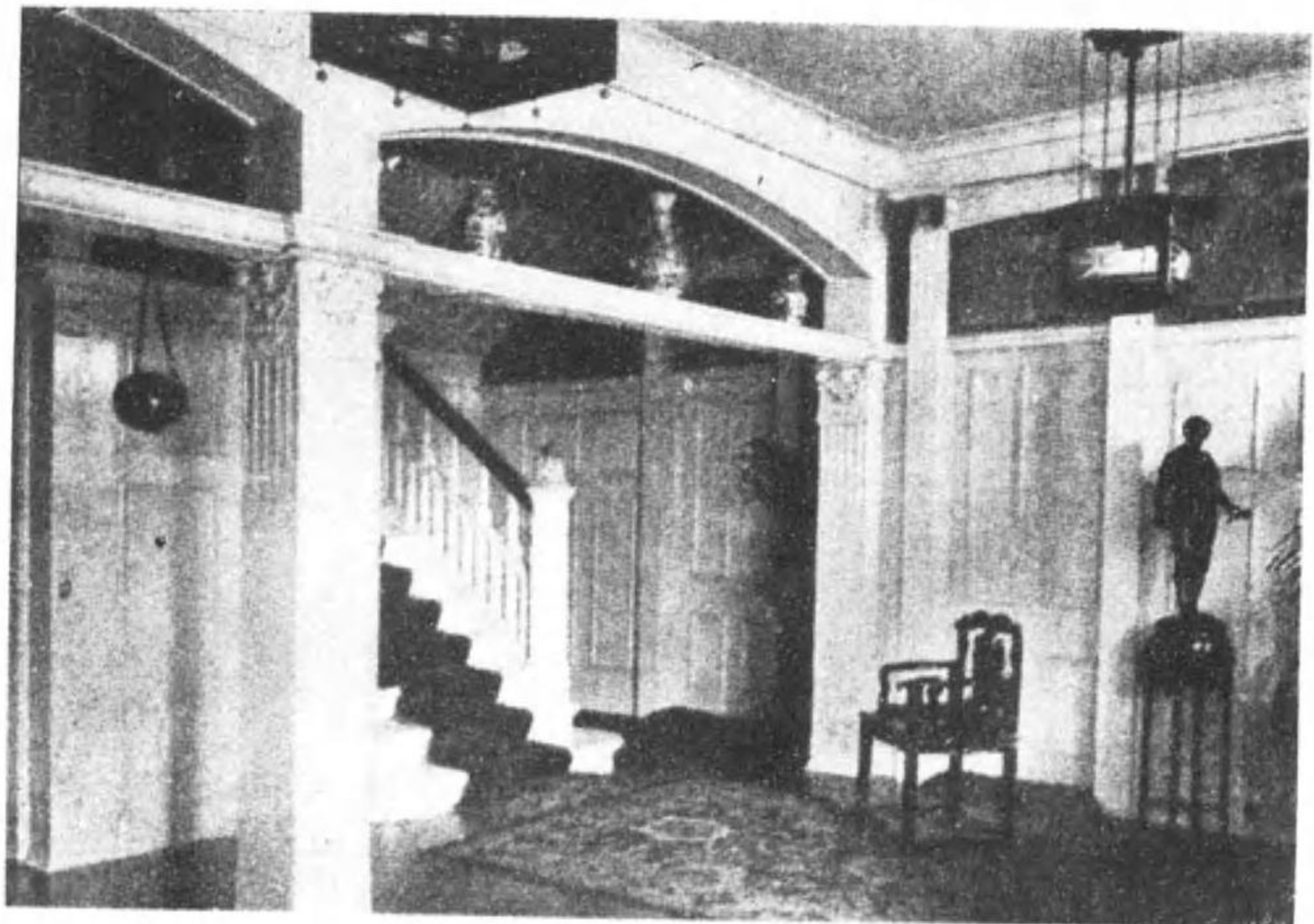
小ききホールに小型一枚敷の絨氈を分置し簡素に裝飾したる例



小きホールを清楚に裝飾したる例



ホール（二圖共に高き木製腰羽目を繞らしたる例）

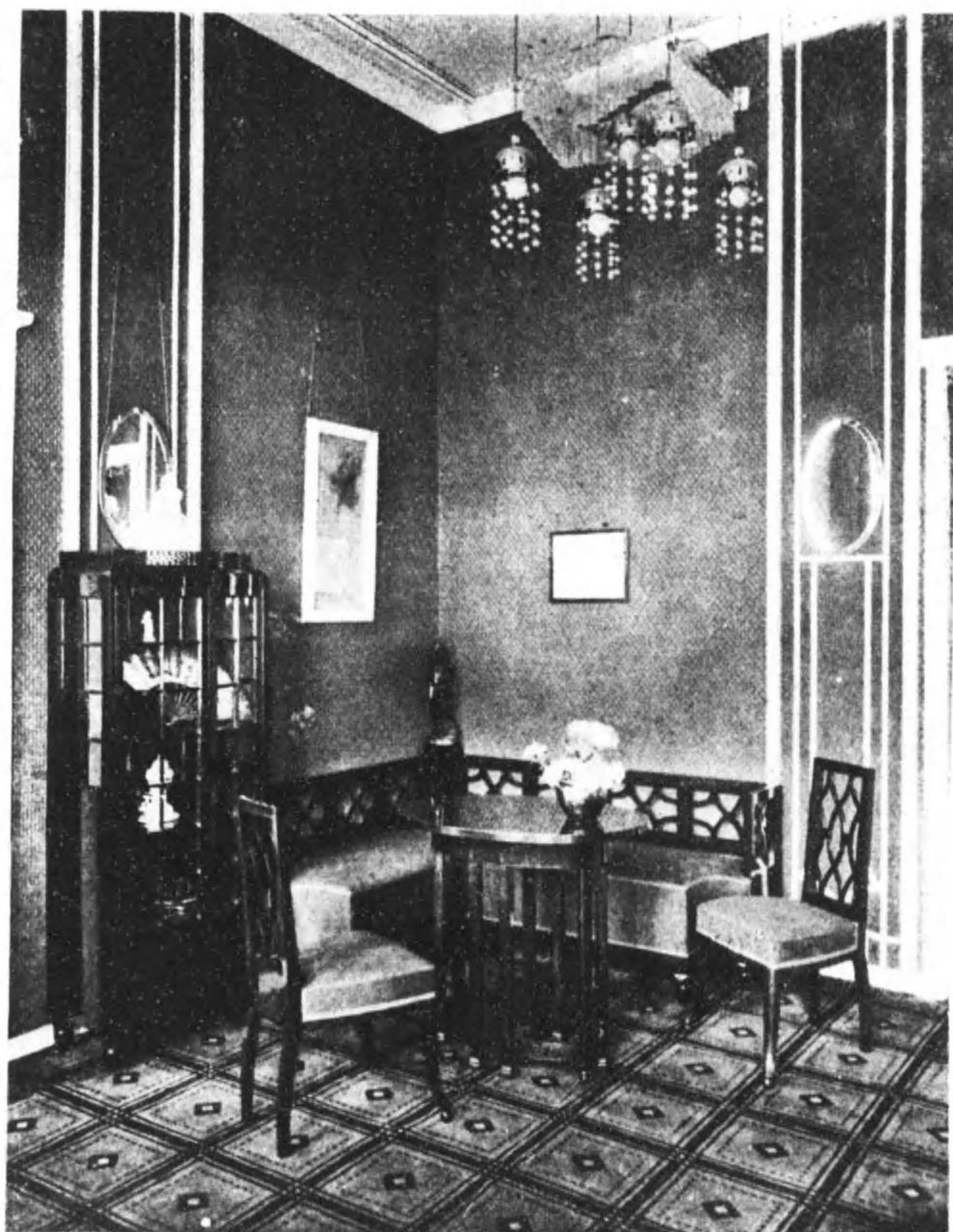


第二十七圖



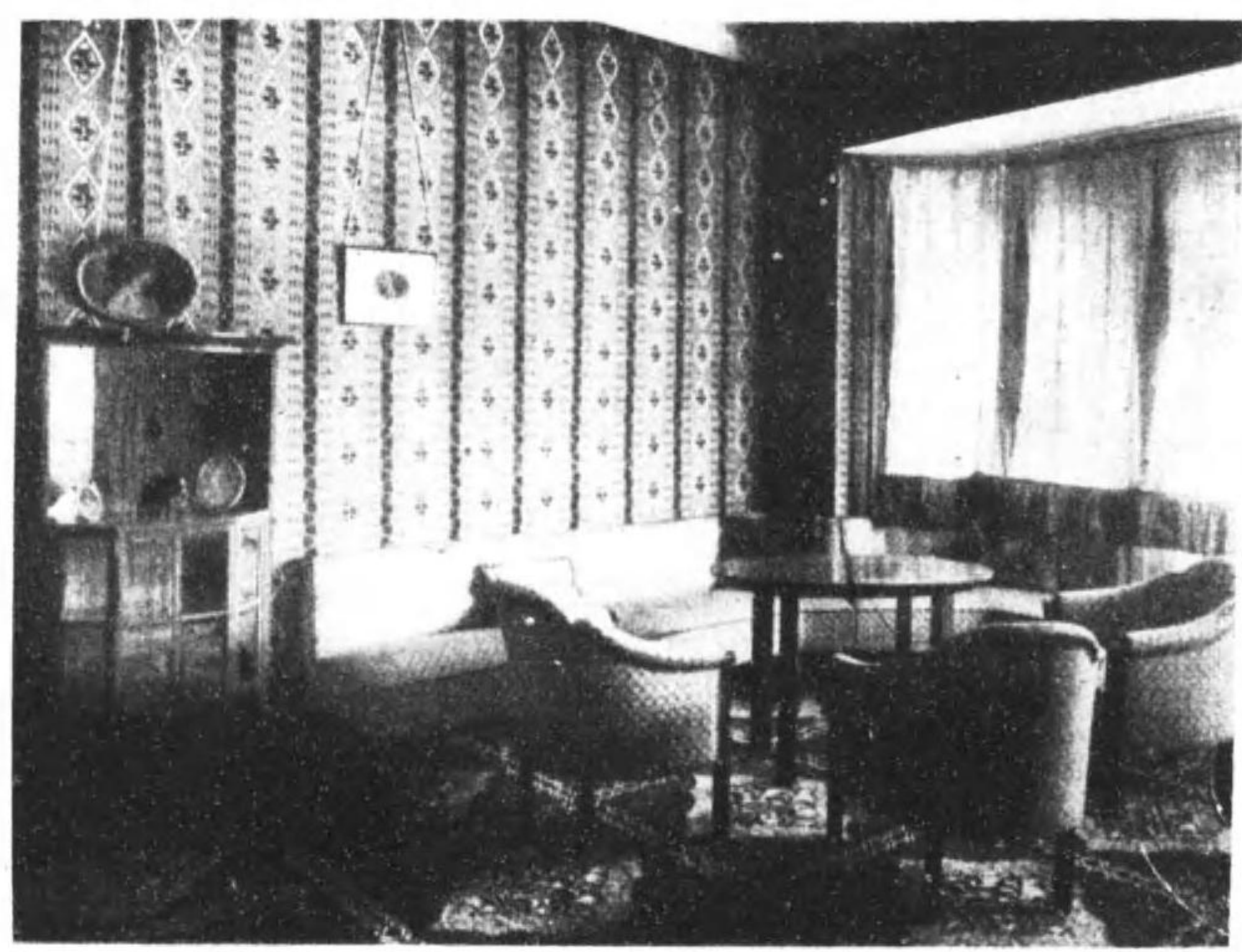
玄關ホールを中世紀の英國風に倣ひ太格の天井を用ひ封建時代の手法を以てせる例

第二十八圖

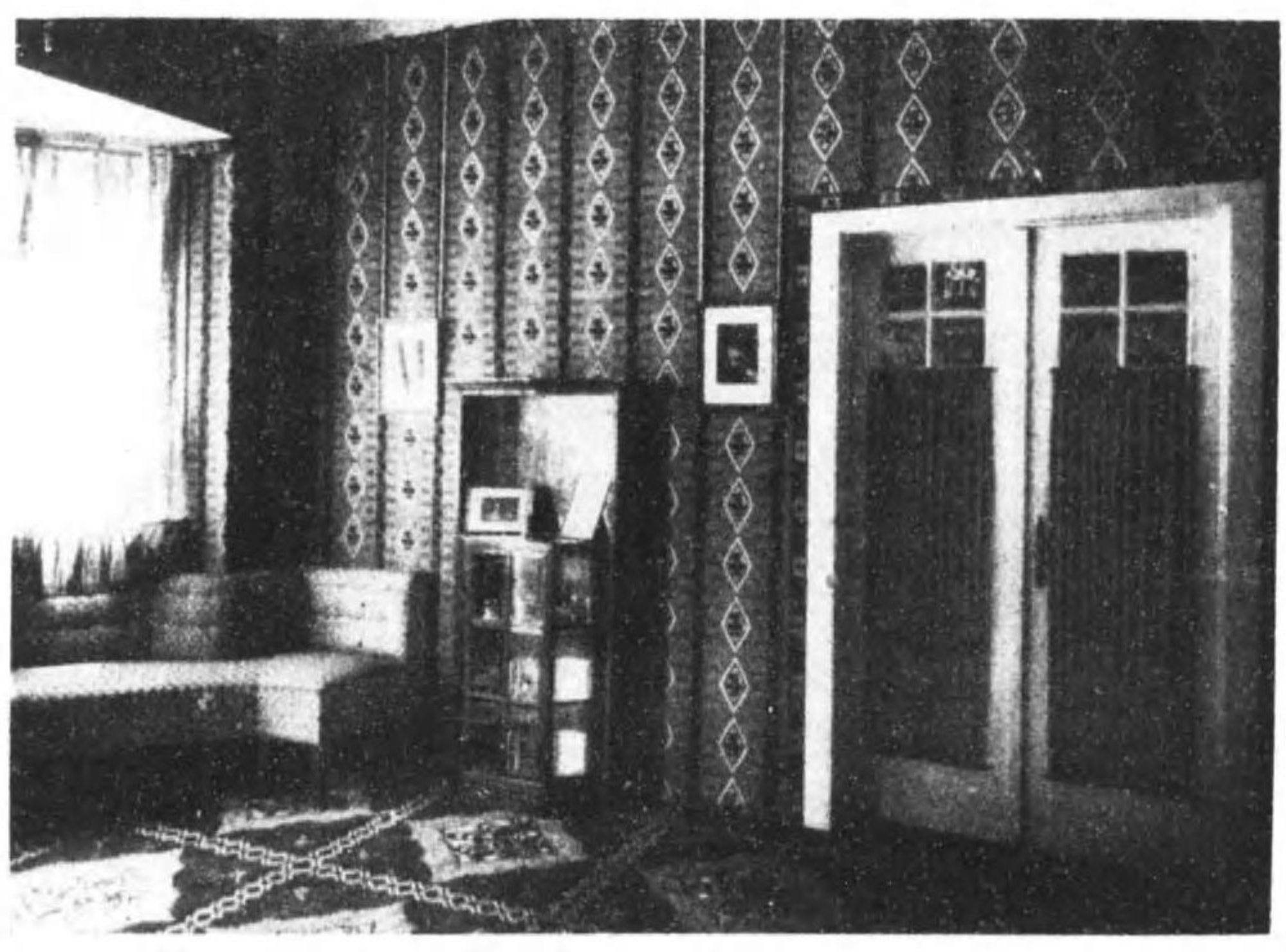


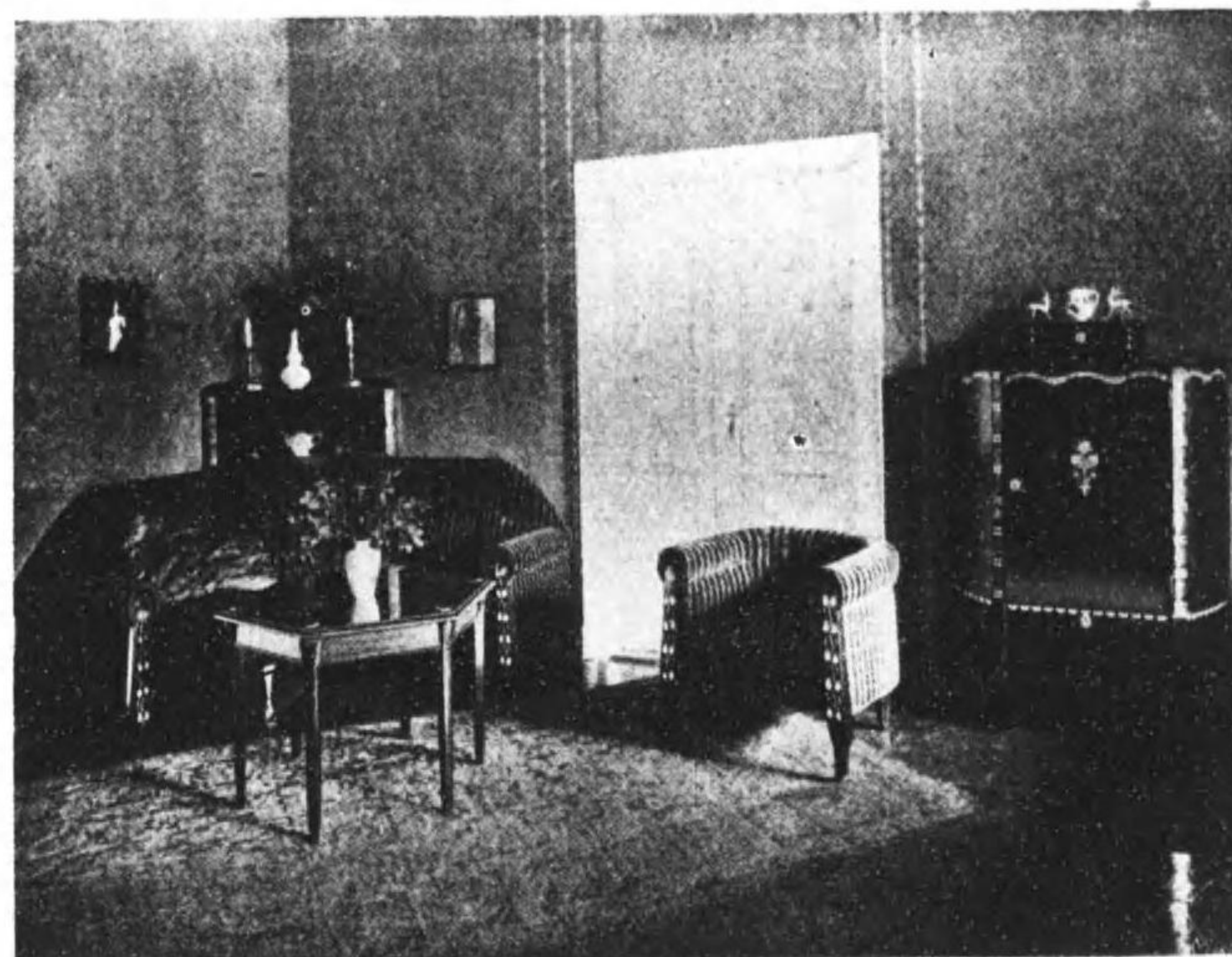
客間の一隅(獨逸の新様式)

第二十九圖

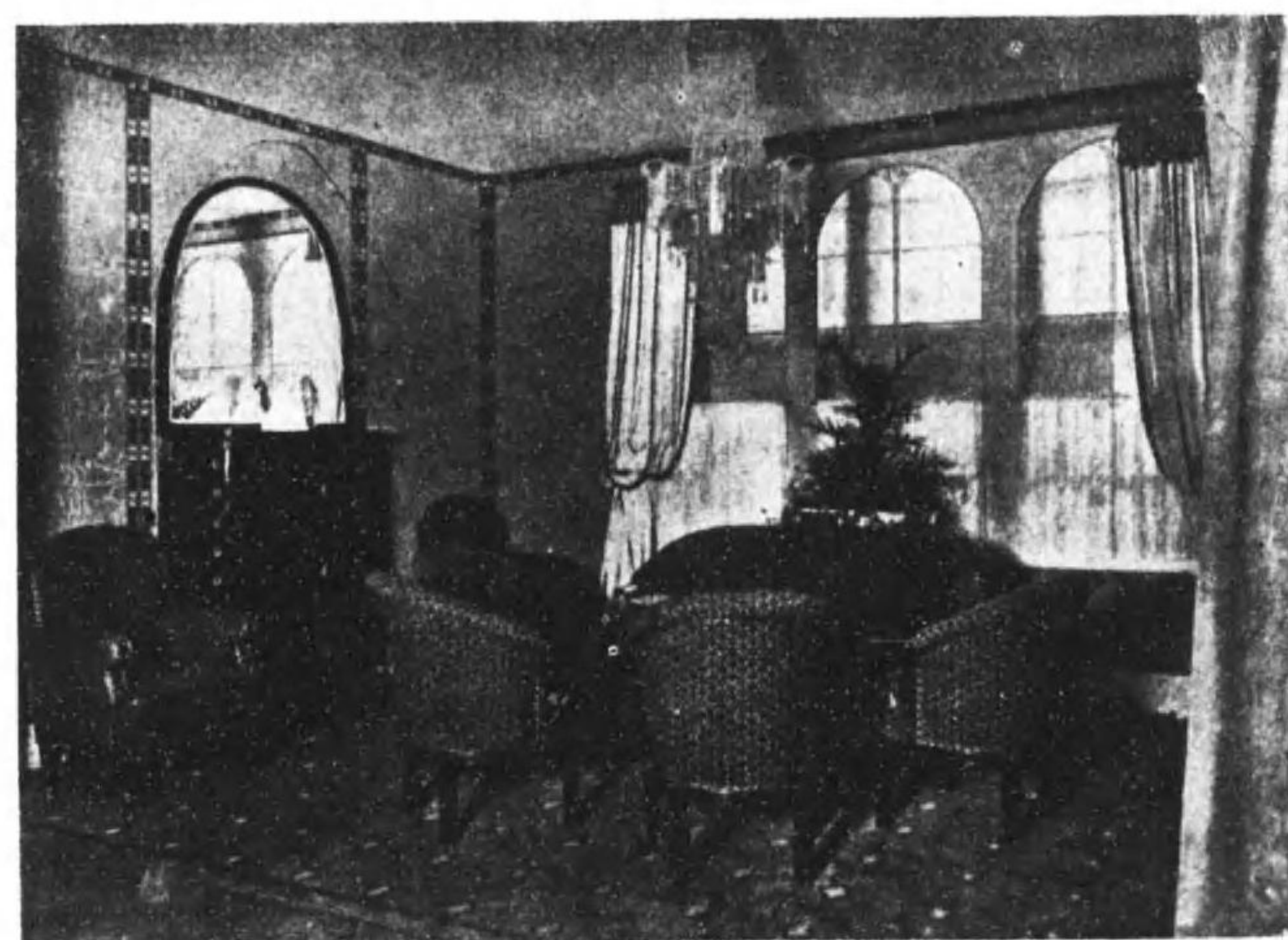


客間の一隅

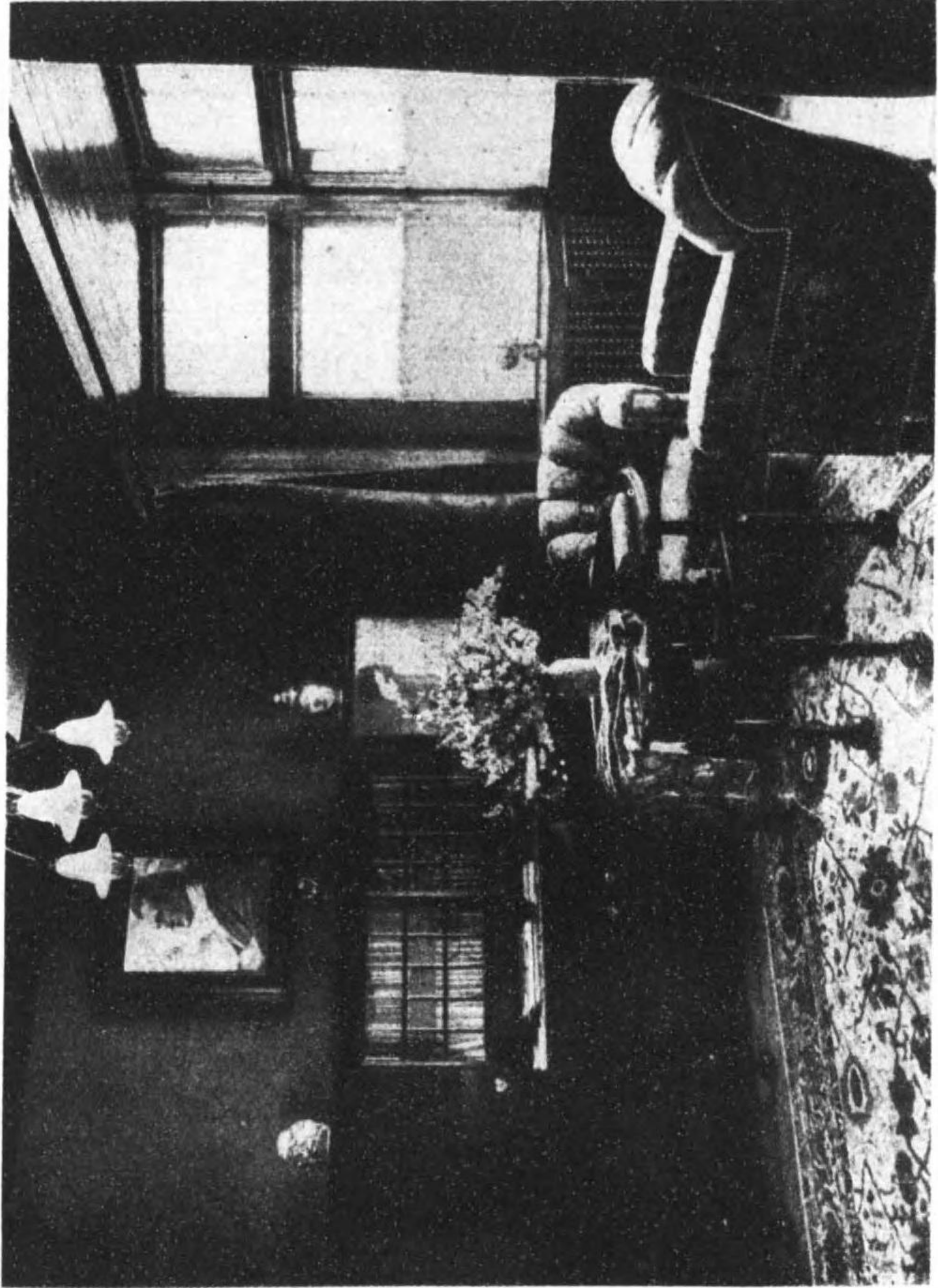




客間（稍々派手なる裝飾）

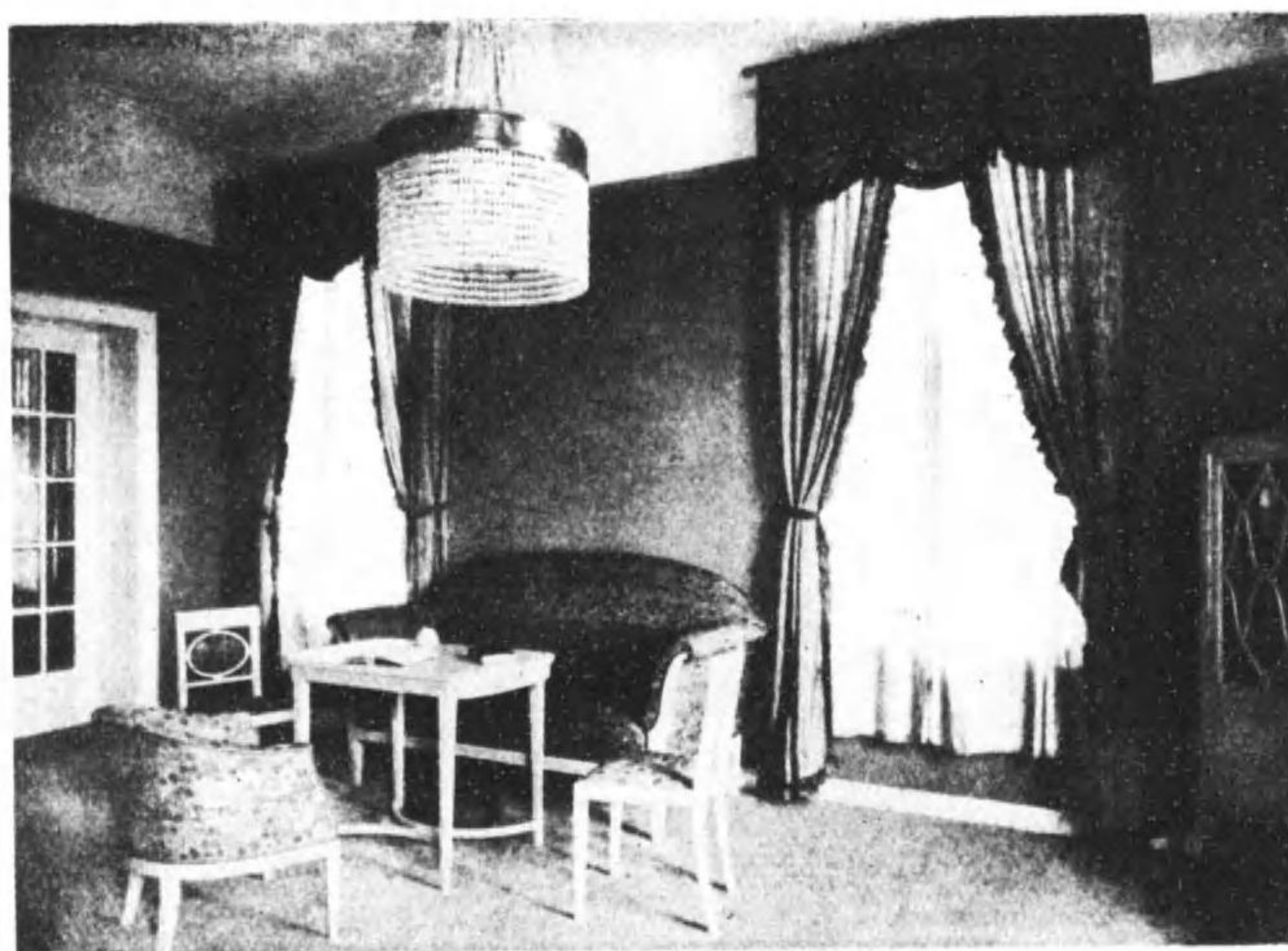


第三十一圖

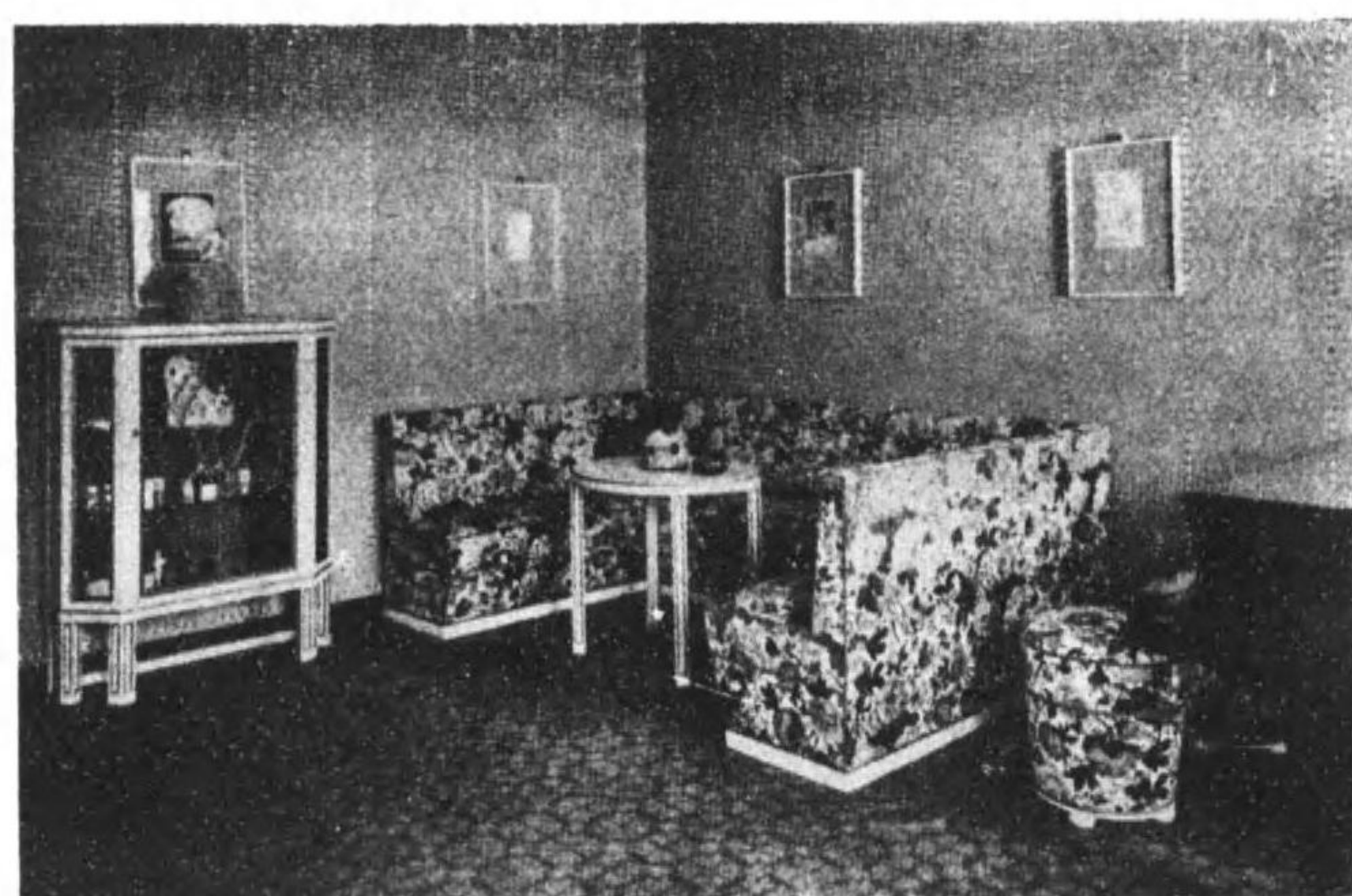


居間の一角に小書棚を置きたる例

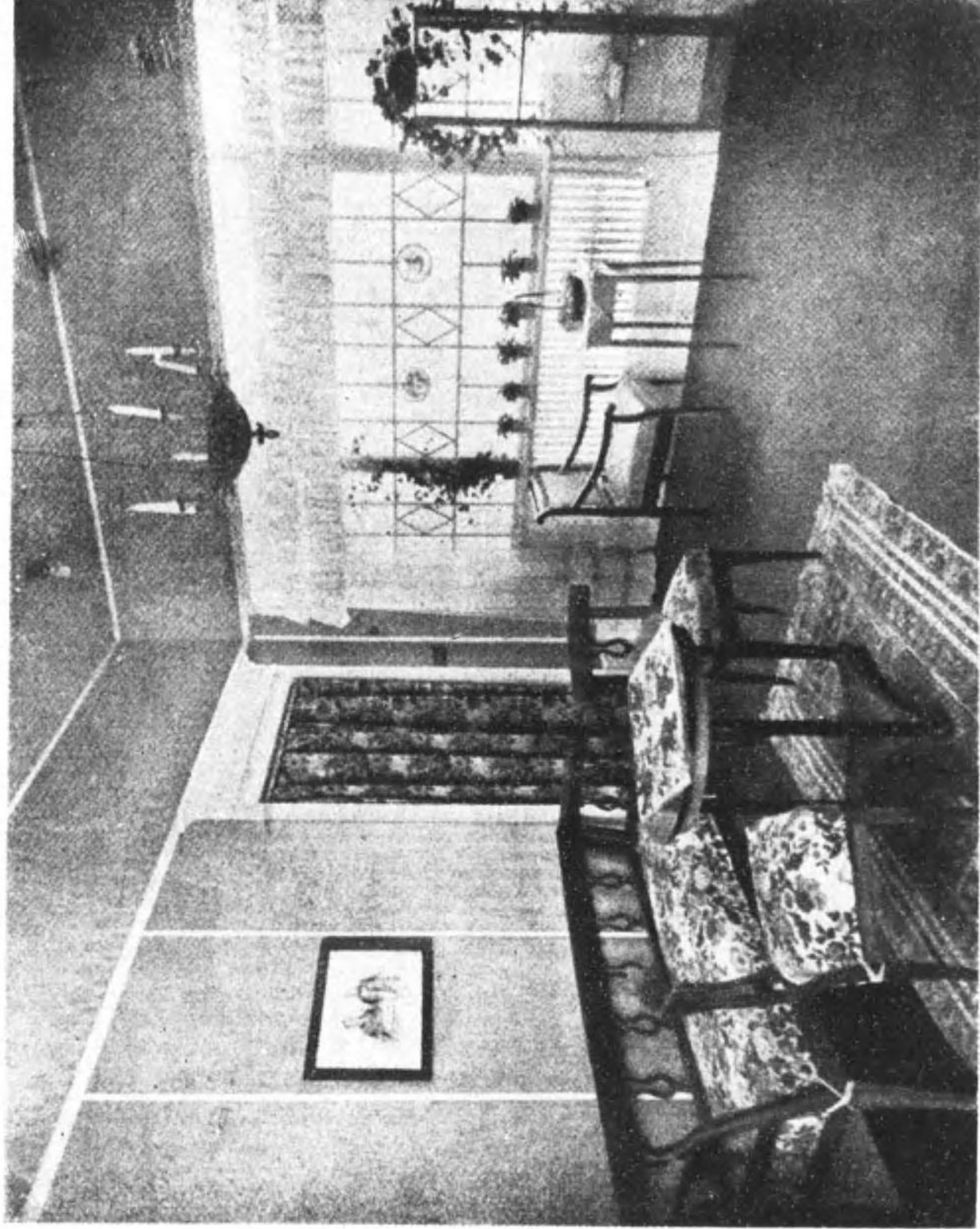




ペンキ塗り仕上げの椅子と卓子を置たる居間



第三十三圖



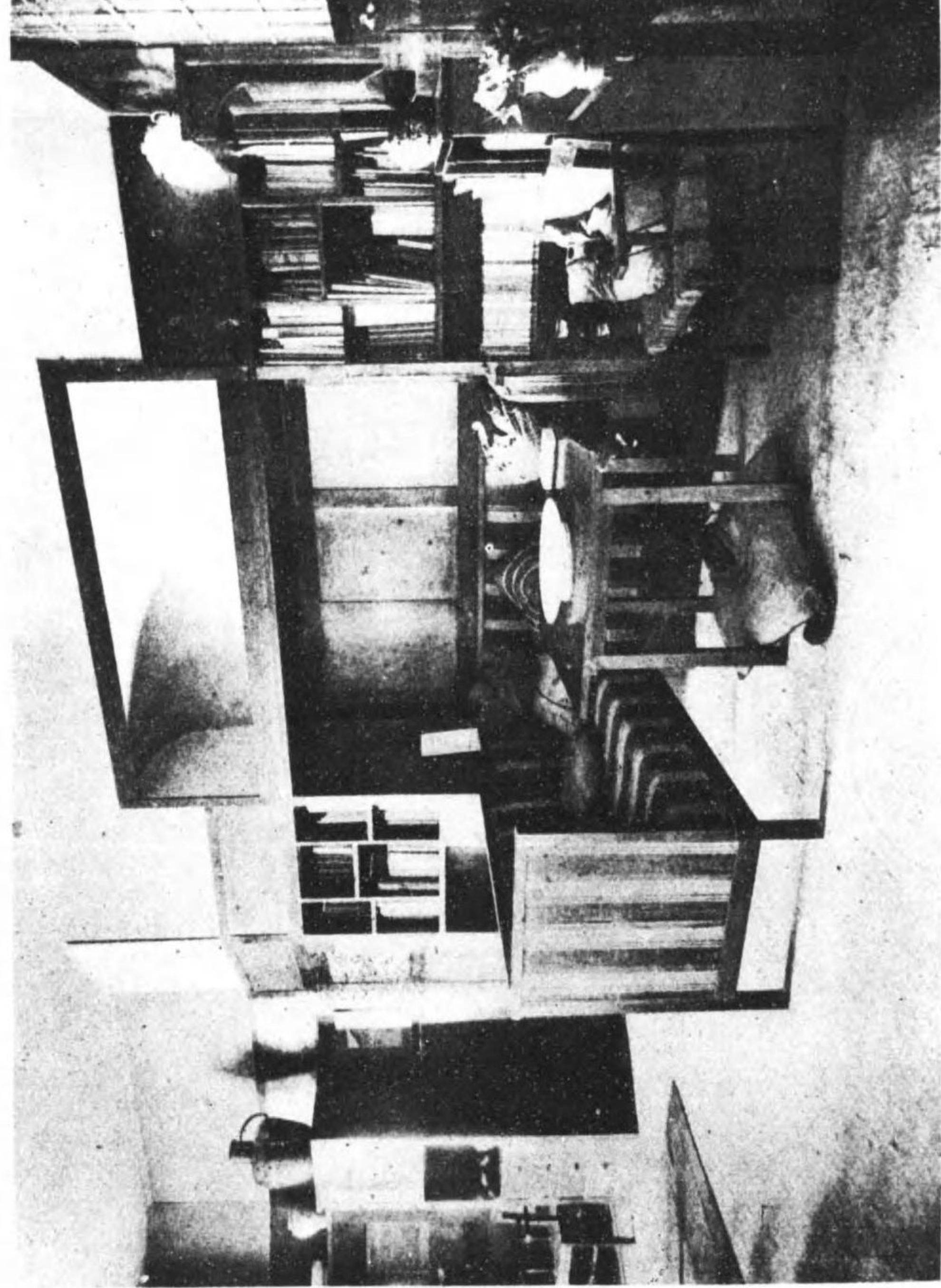
居間の窓簾板に花卉を列らべ次室との境はクレトンのカーテンを以て  
仕切り纏ての手法を輕快に仕上げたる例

第三十四圖



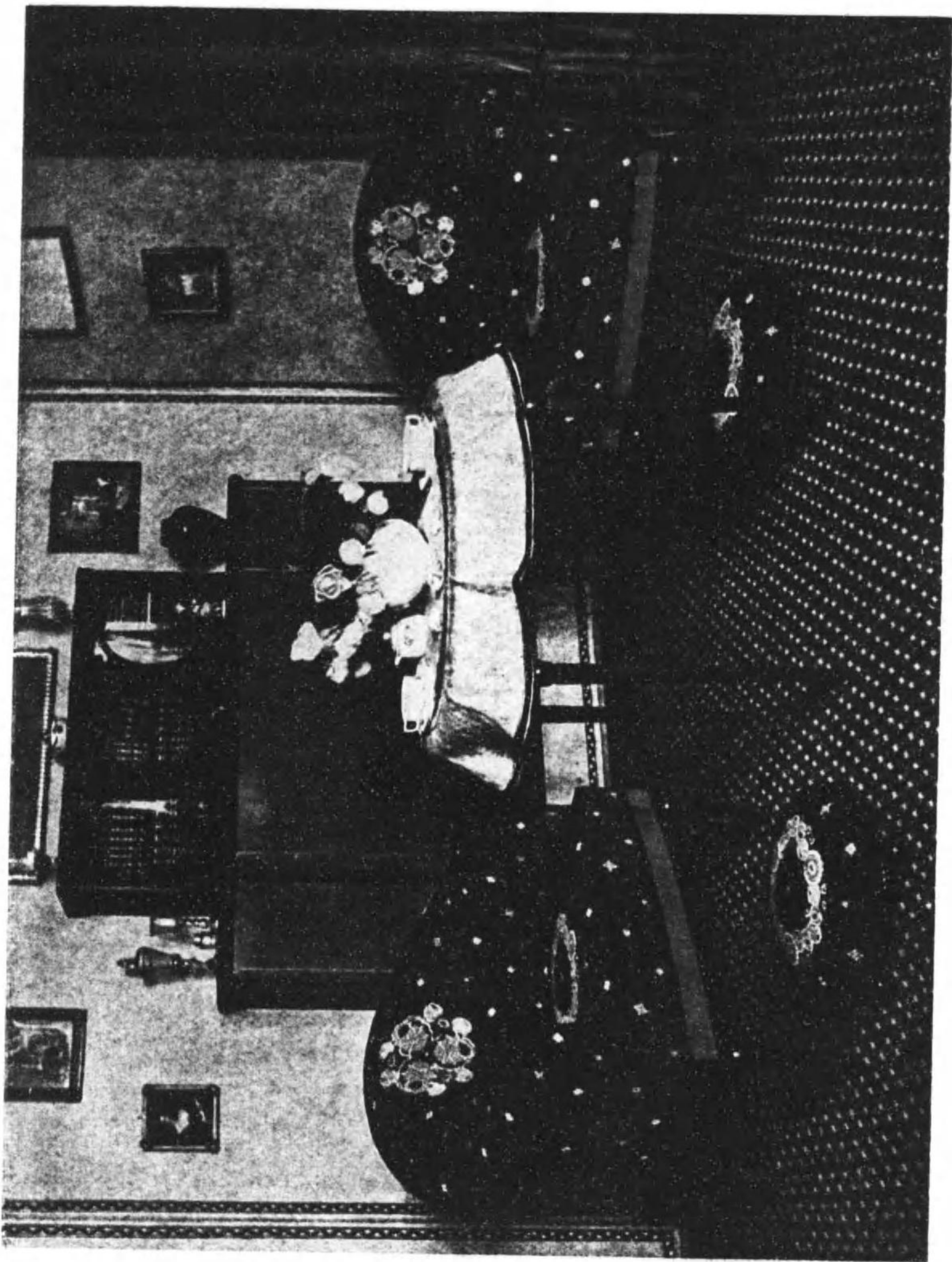
居間の一隅に置かれたる樂な長椅子

第三十五圖



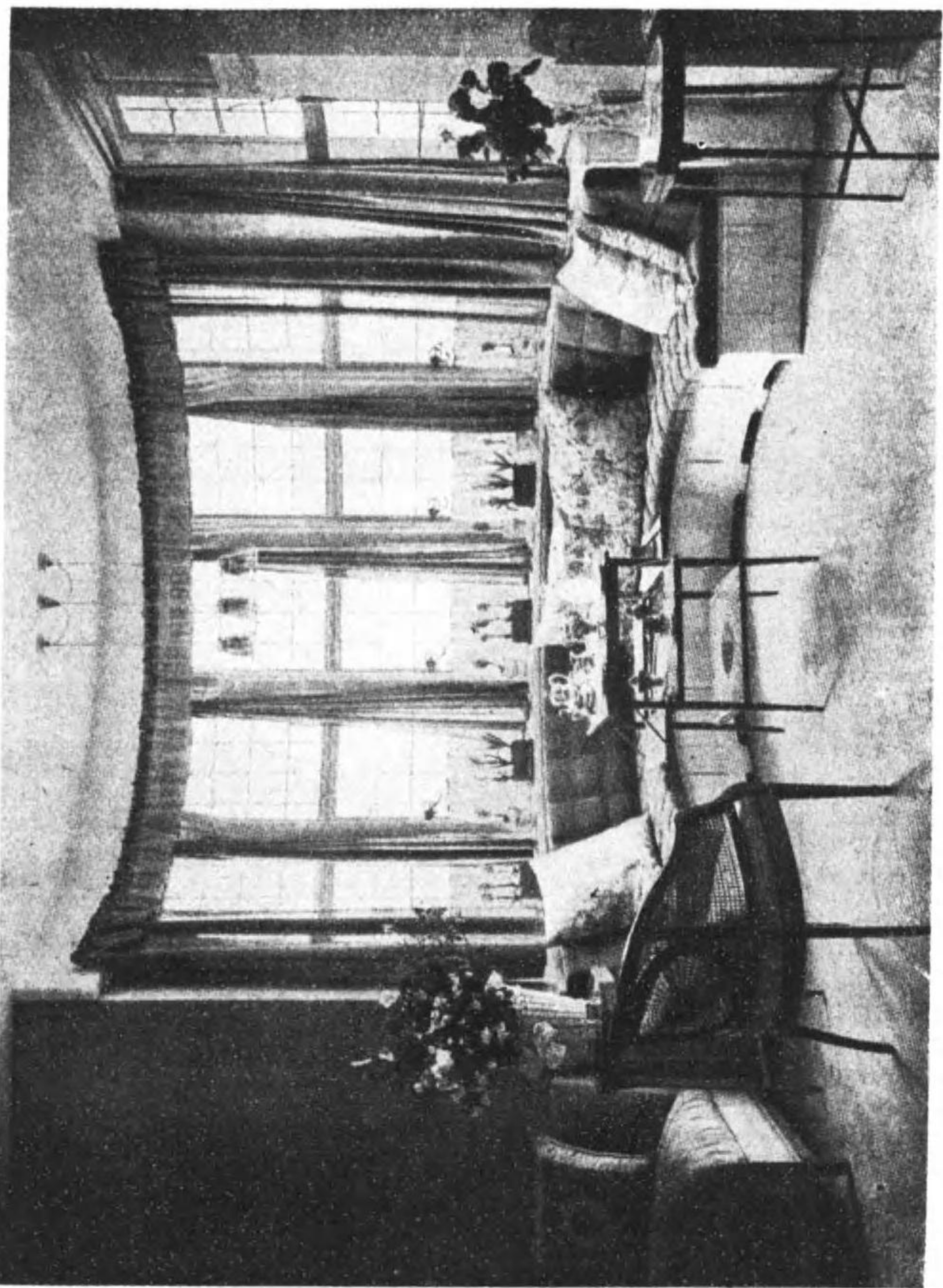
居間（室の一隅を家族の讀書所に充てたる例）

第三十六圖



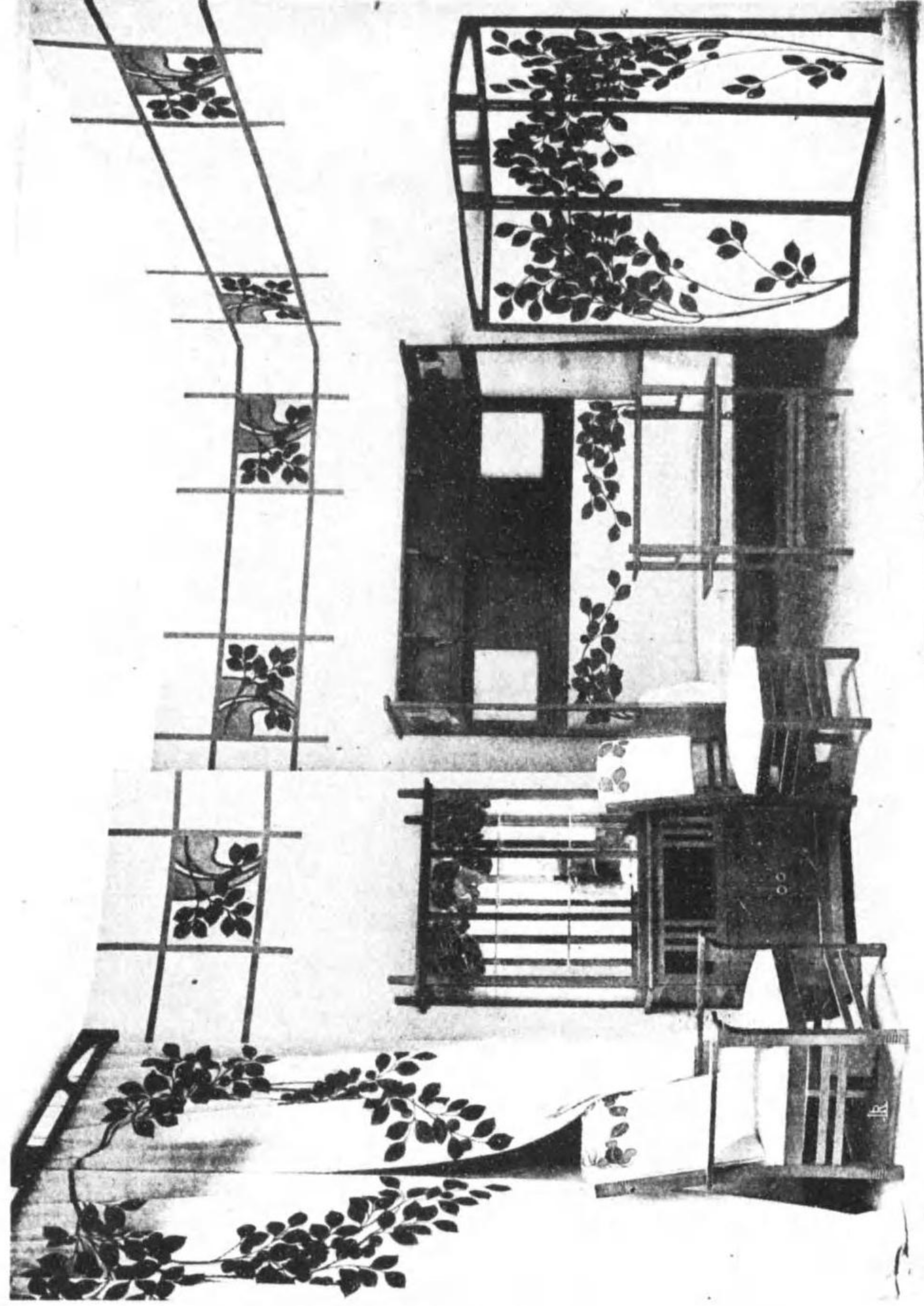
夫人室を兼用したる居間

第三十七圖



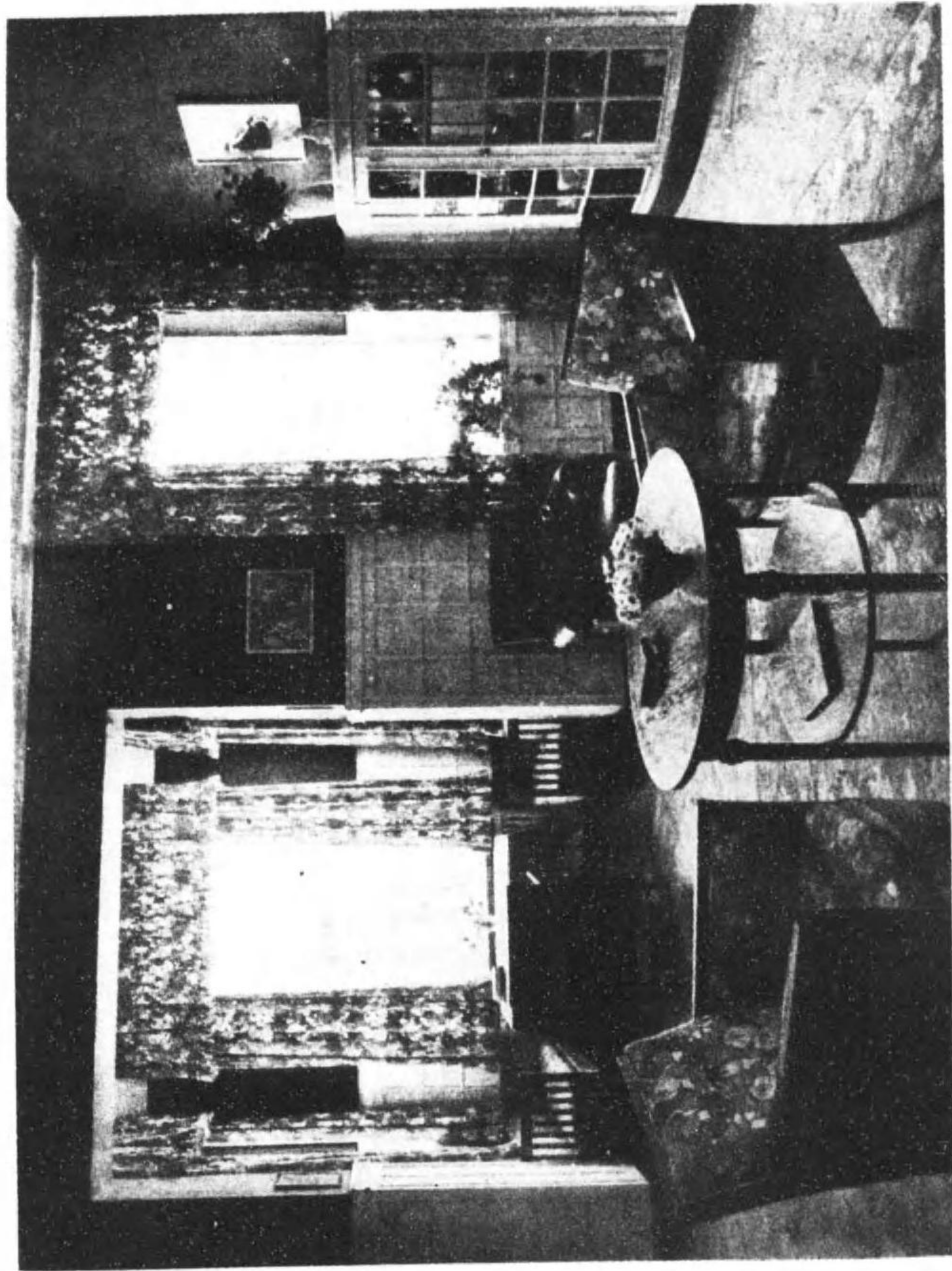
夫人室（窓下に造りつけ腰掛を備ふ）

第三十八圖



夫人室（瀟洒にセセッション式を用て使上げたる例）

第三十九圖



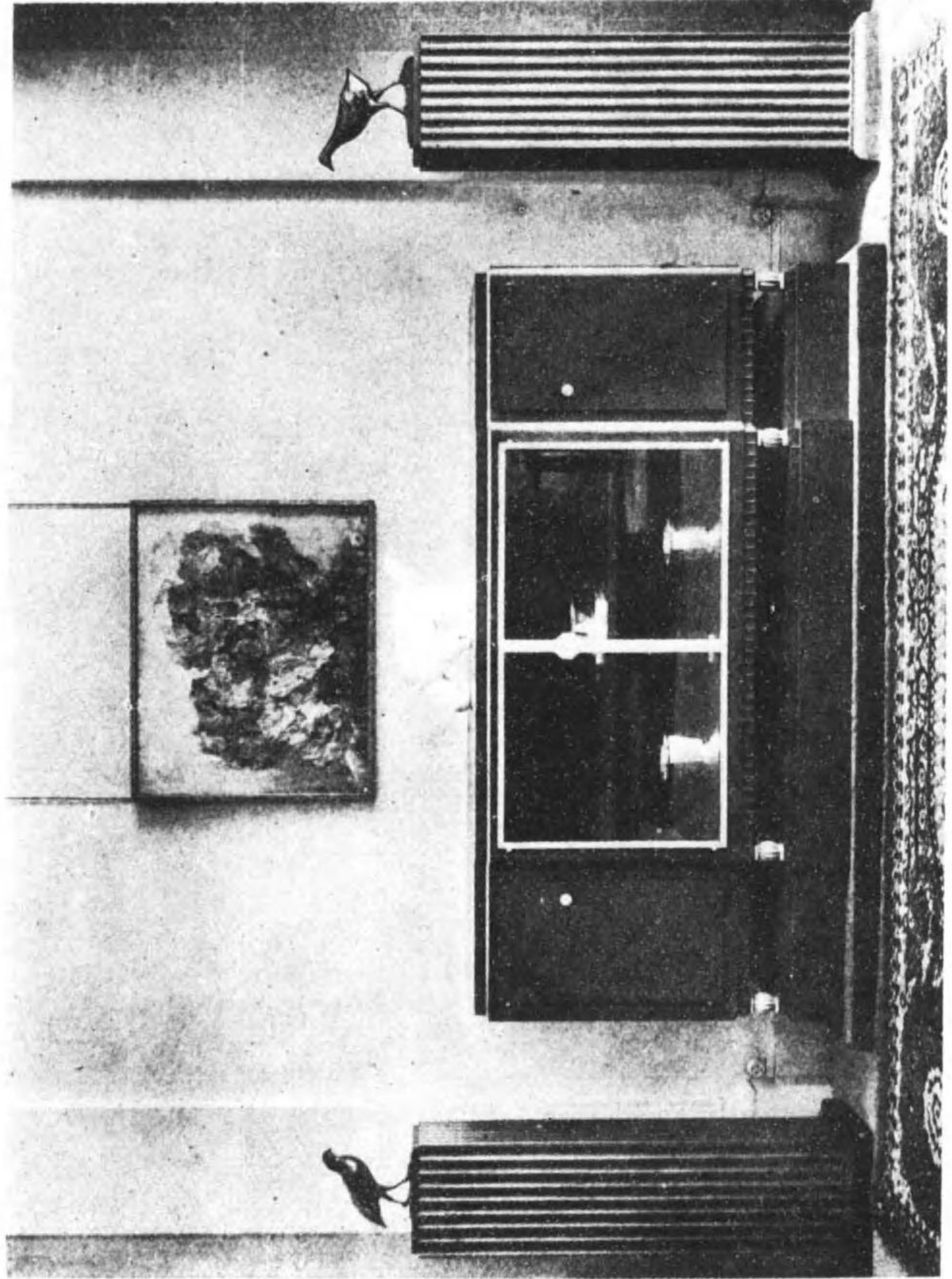
書齋と夫人室を兼ねたる居間



欠

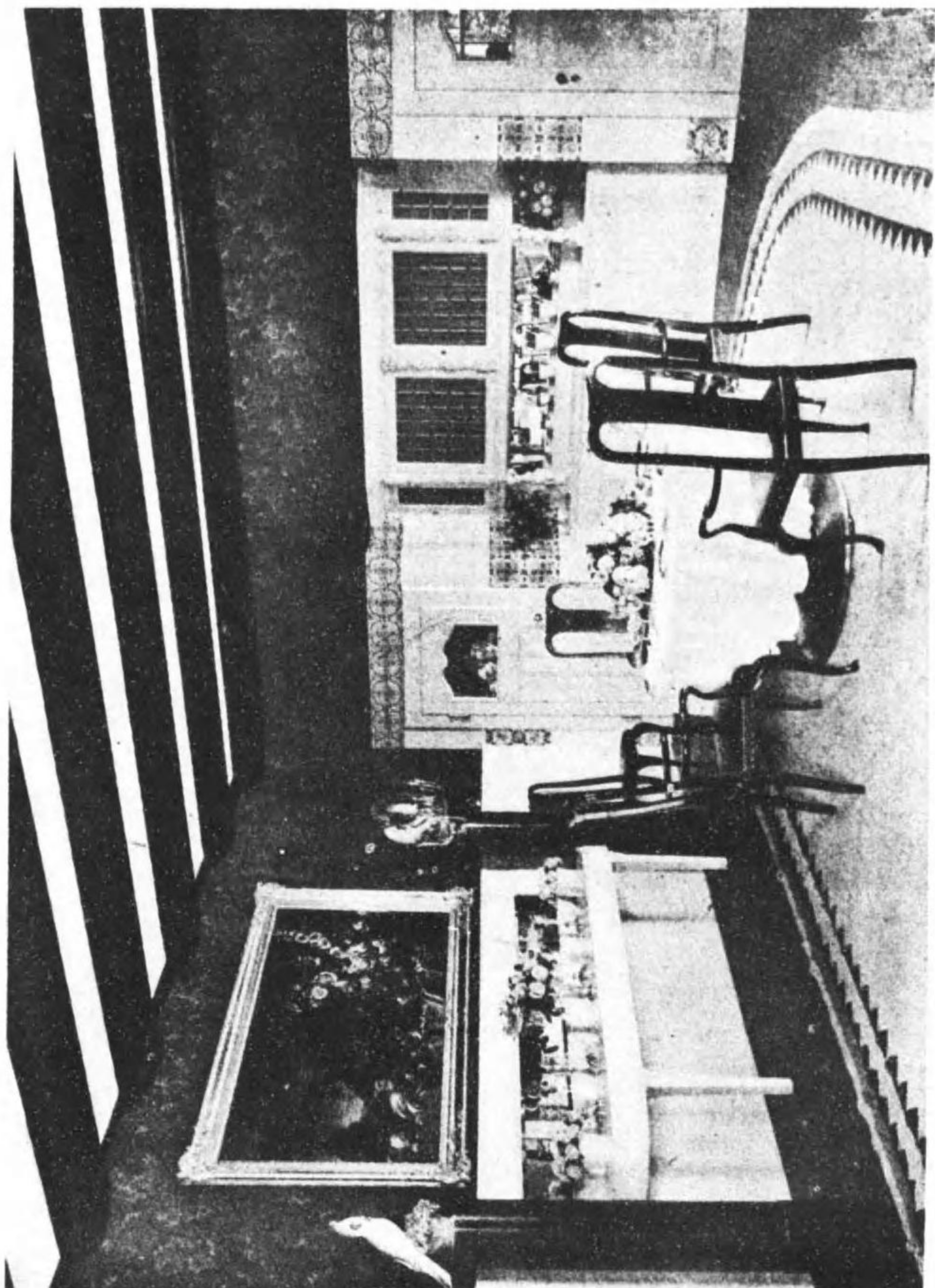
# 欠

第四十四圖



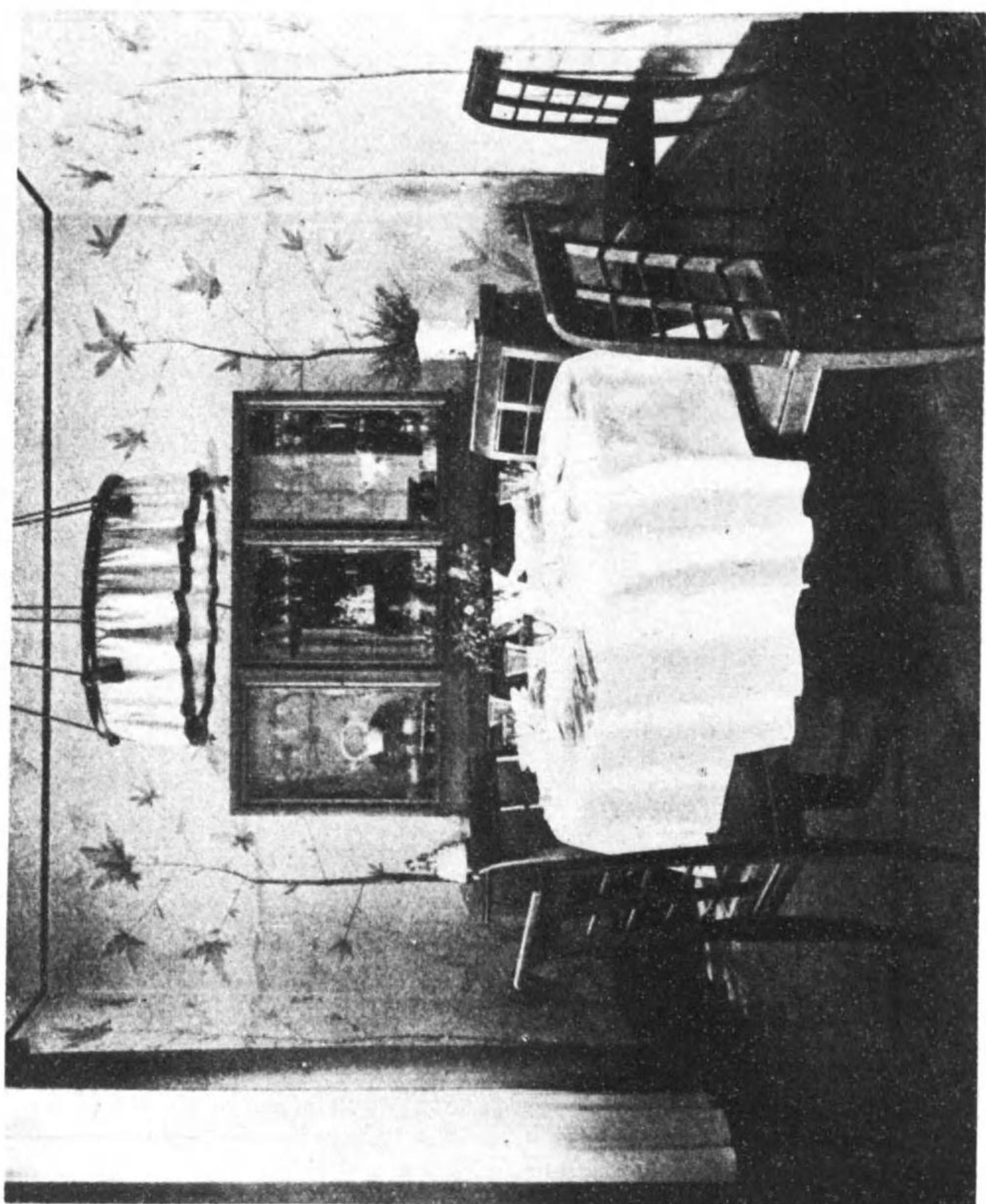
客間の飾り棚（最新佛國流行の様式）

第四十五圖



小 食 堂

第四十六圖



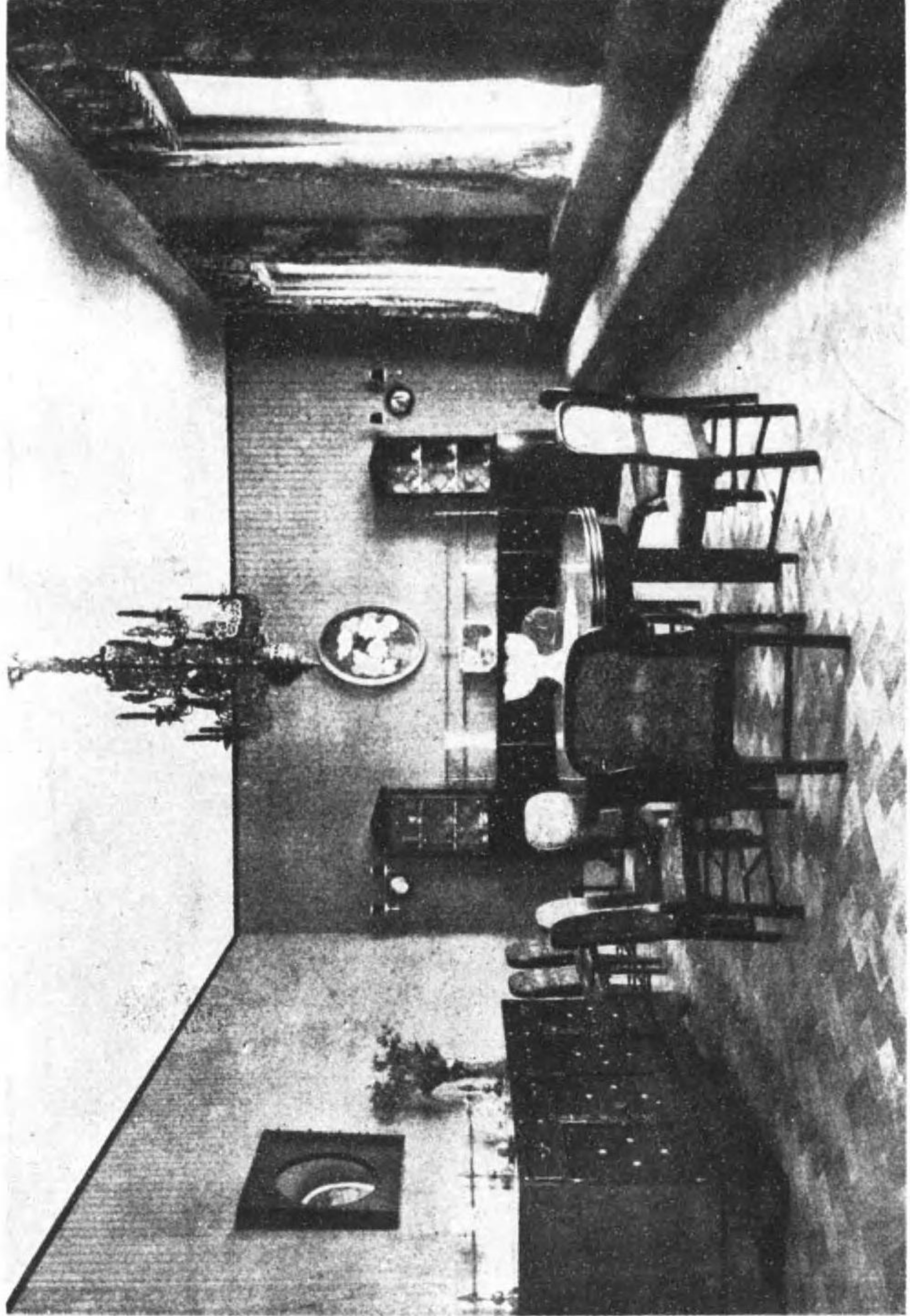
小 食 堂

第四十七圖



小食堂（不適當なる家具と配色の例）

第四十八圖



小食堂（食後の會談所として壁下に一文字に腰掛けを設けたる例）

第四十九圖



寢室の一隅に出窓下の腰掛けを備付たる例

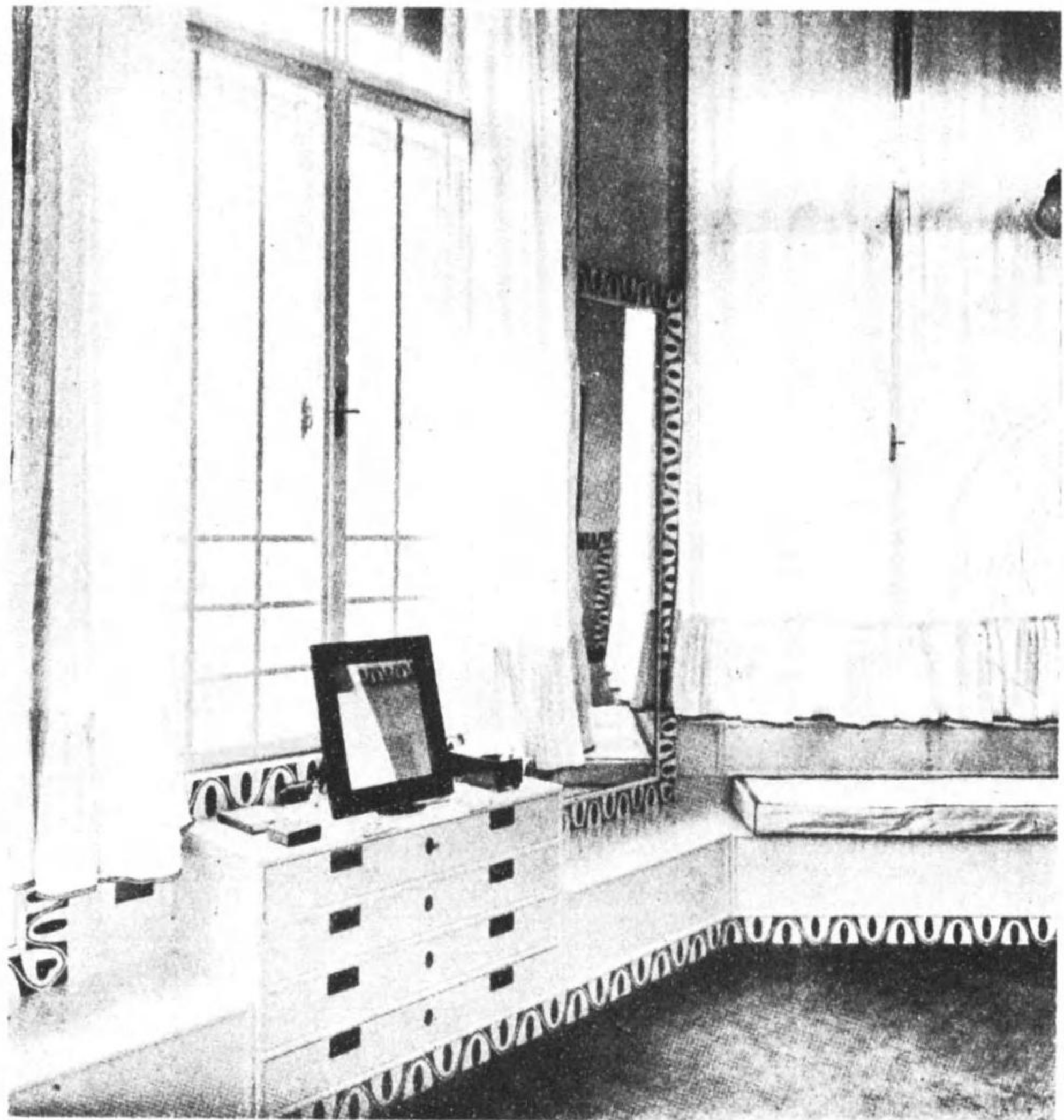
第五十圖



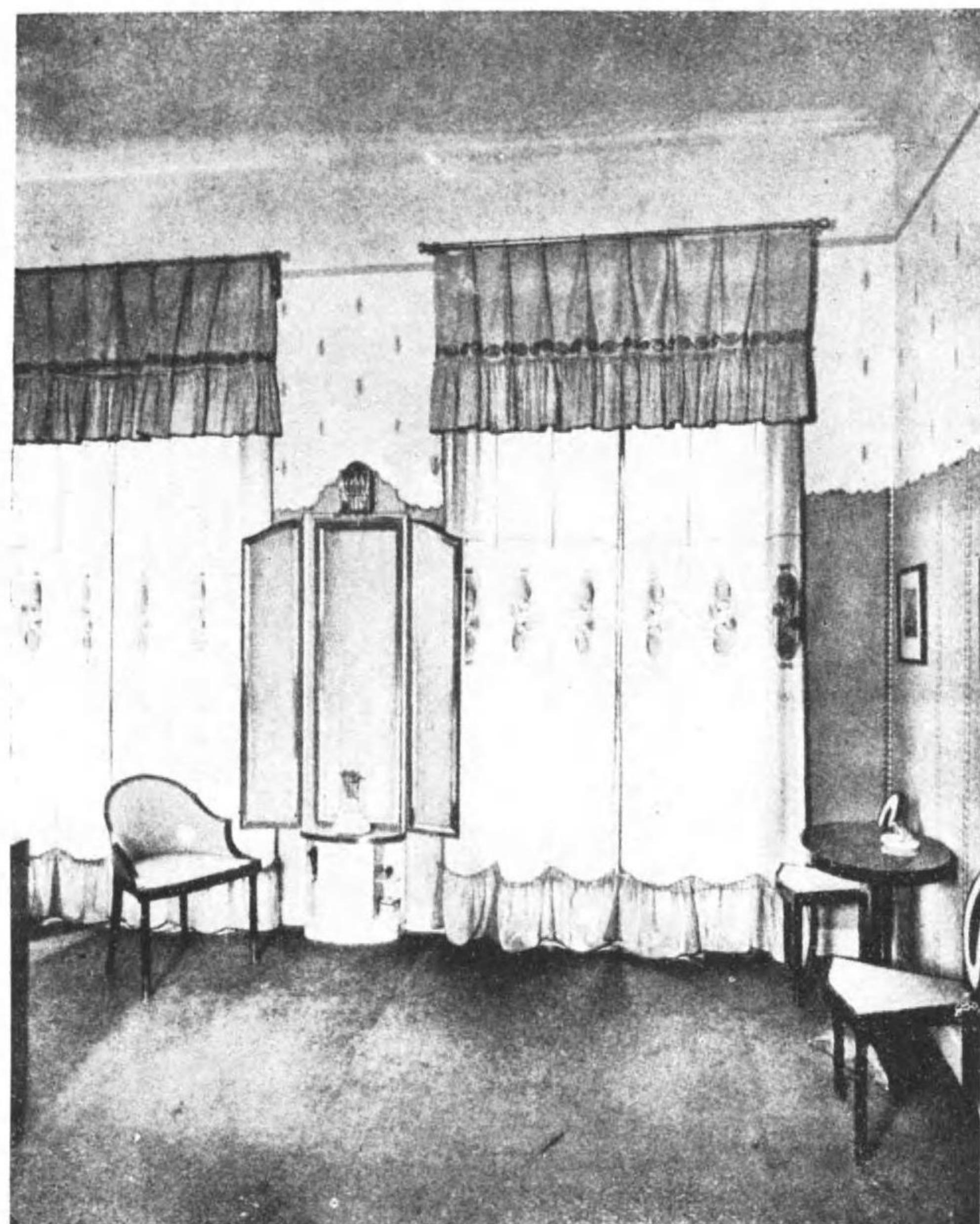
寢室の一隅（窓際に三面鏡を据へたる化粧臺が置きたるもの）



第五十一圖

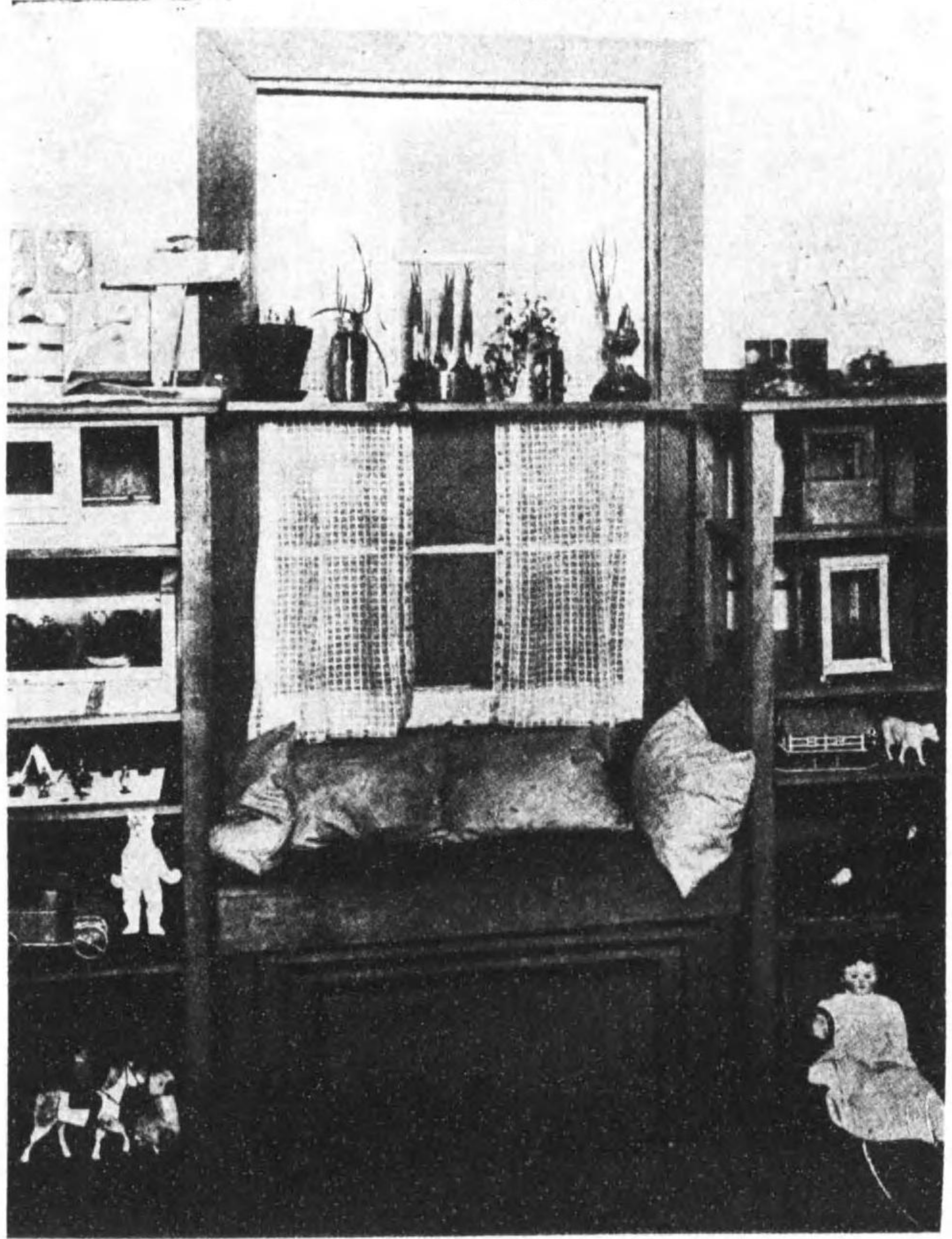


化粧室（小形鏡の下は化粧箱として窓下に低き造り付け腰掛を廻らす）



更衣室(窓の間に三面姿見を置き清楚に配色す)

第五十三圖



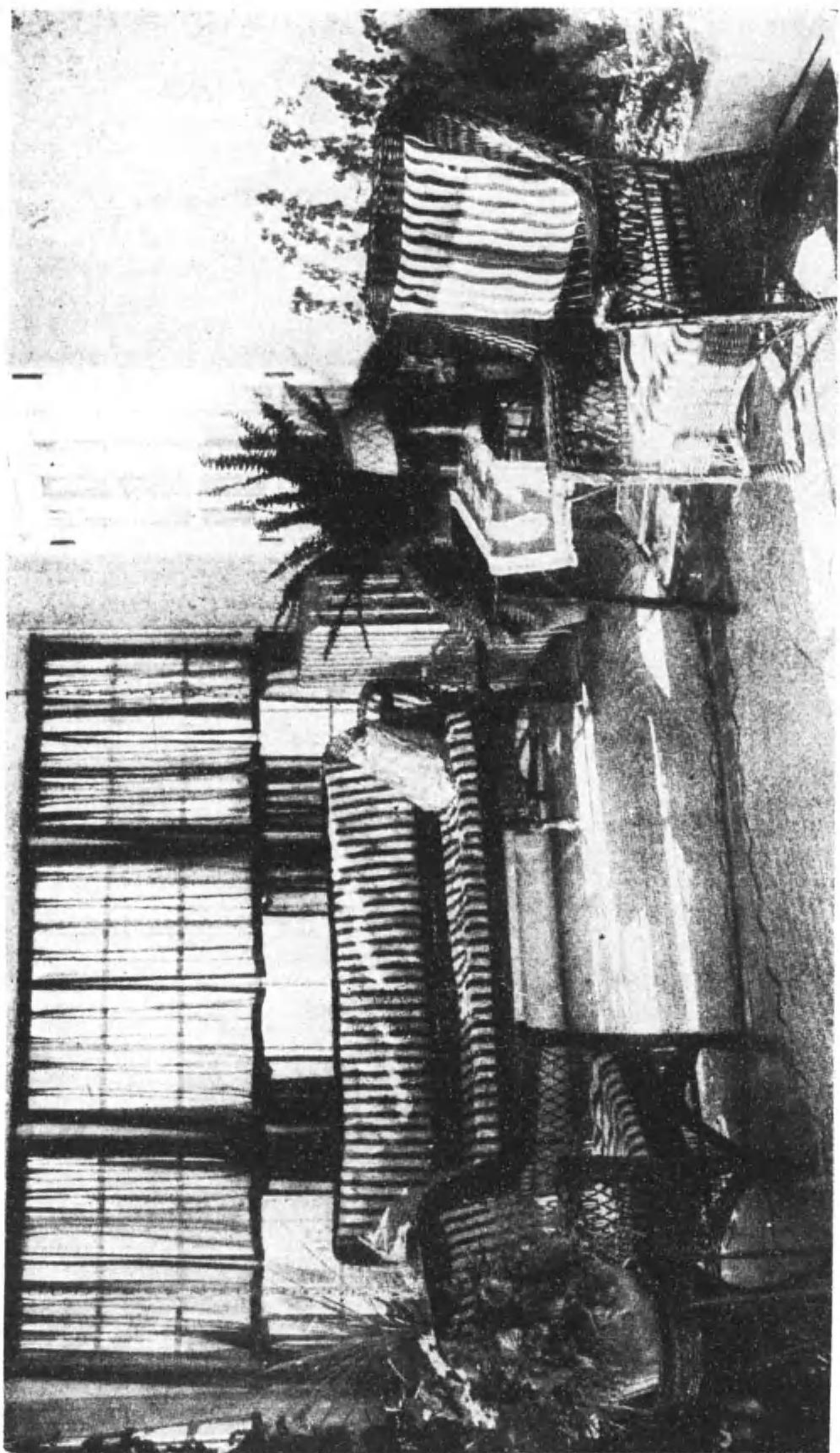
小供室の窓脇を巧に玩具棚とし窓下を腰掛けに取りたる例

第五十四圖



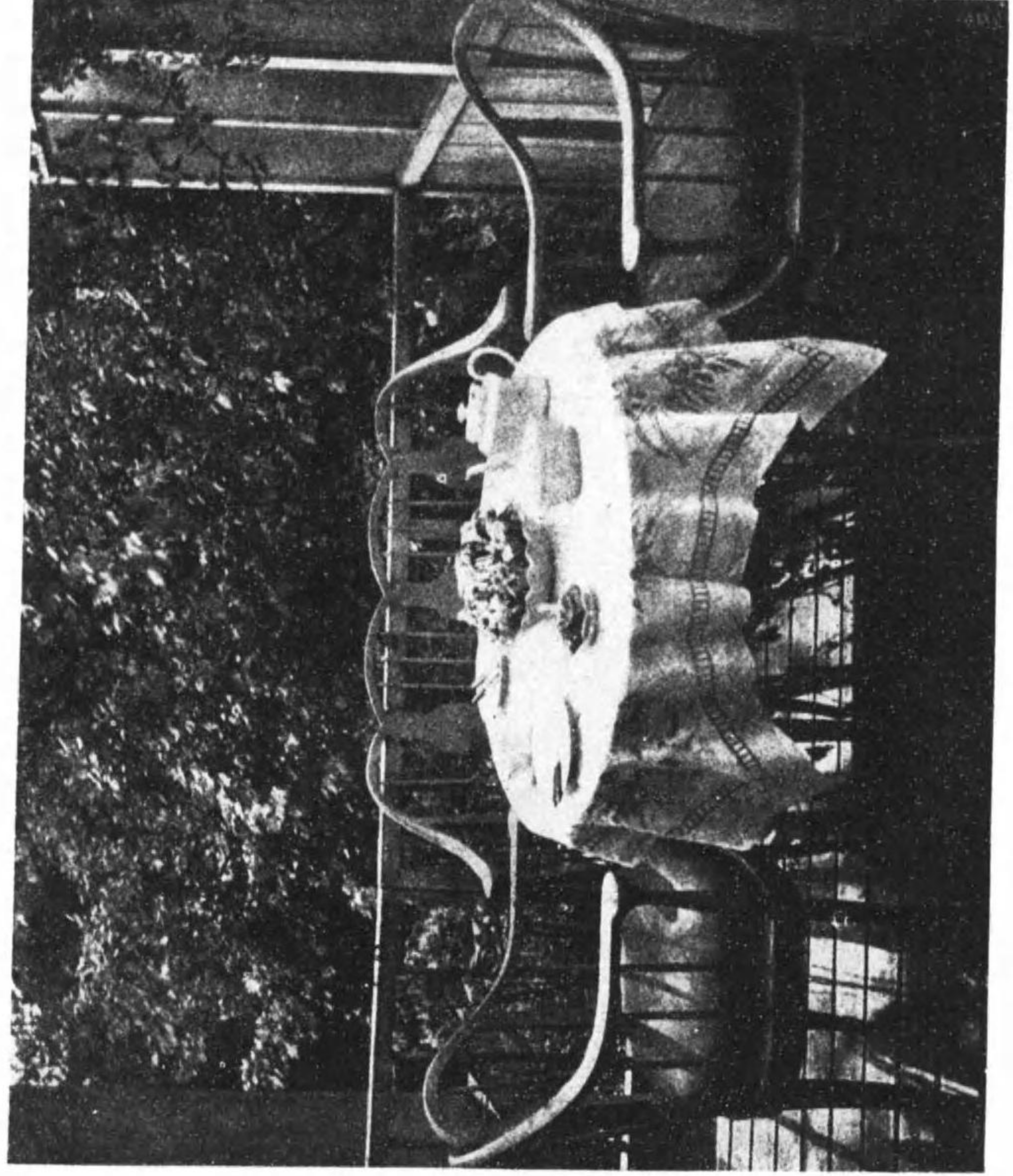
ペランダの圓き一隅（ベッキ塗家具）

第五十五圖



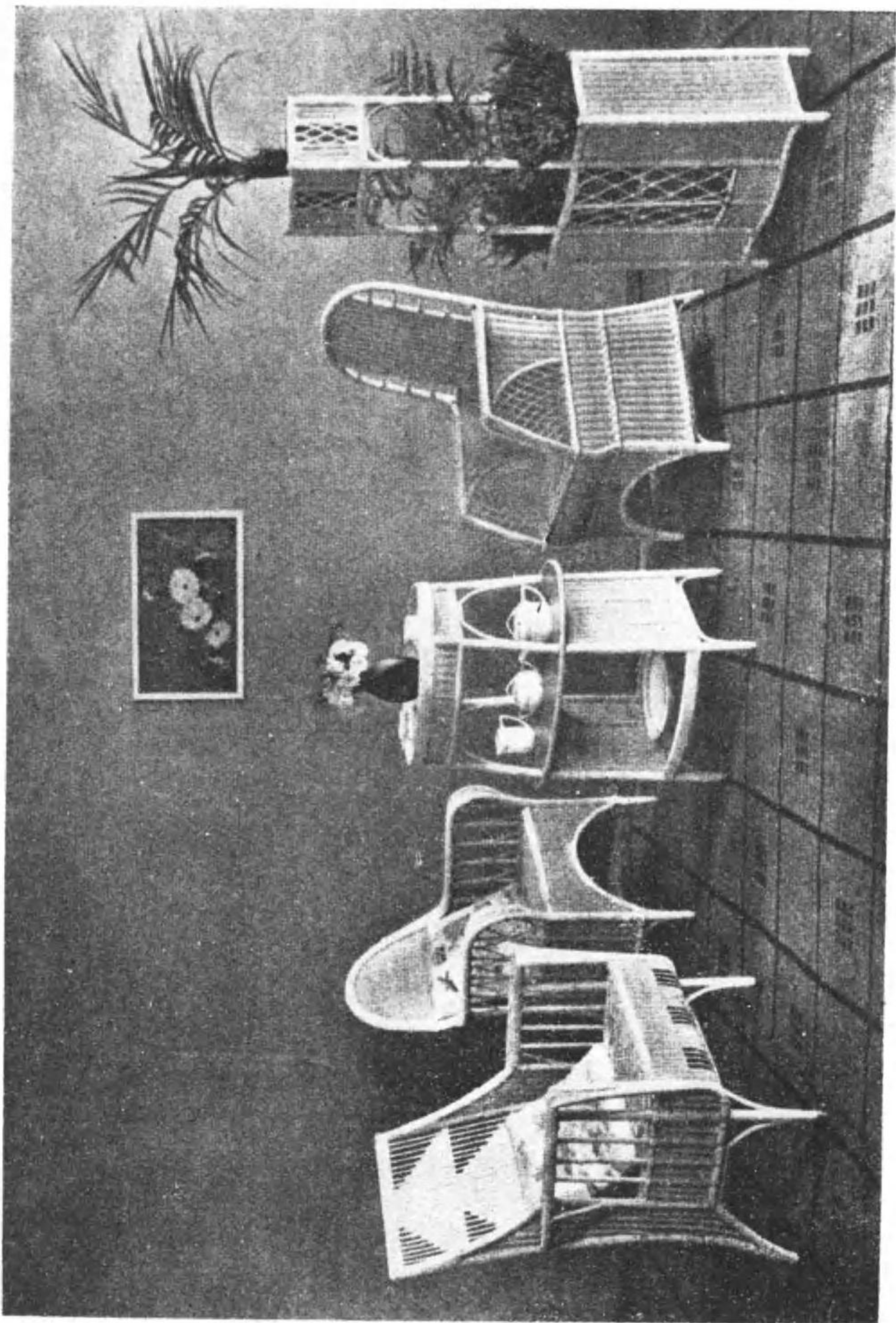
ベランダに柳製家具を配置したる例

第五十六圖



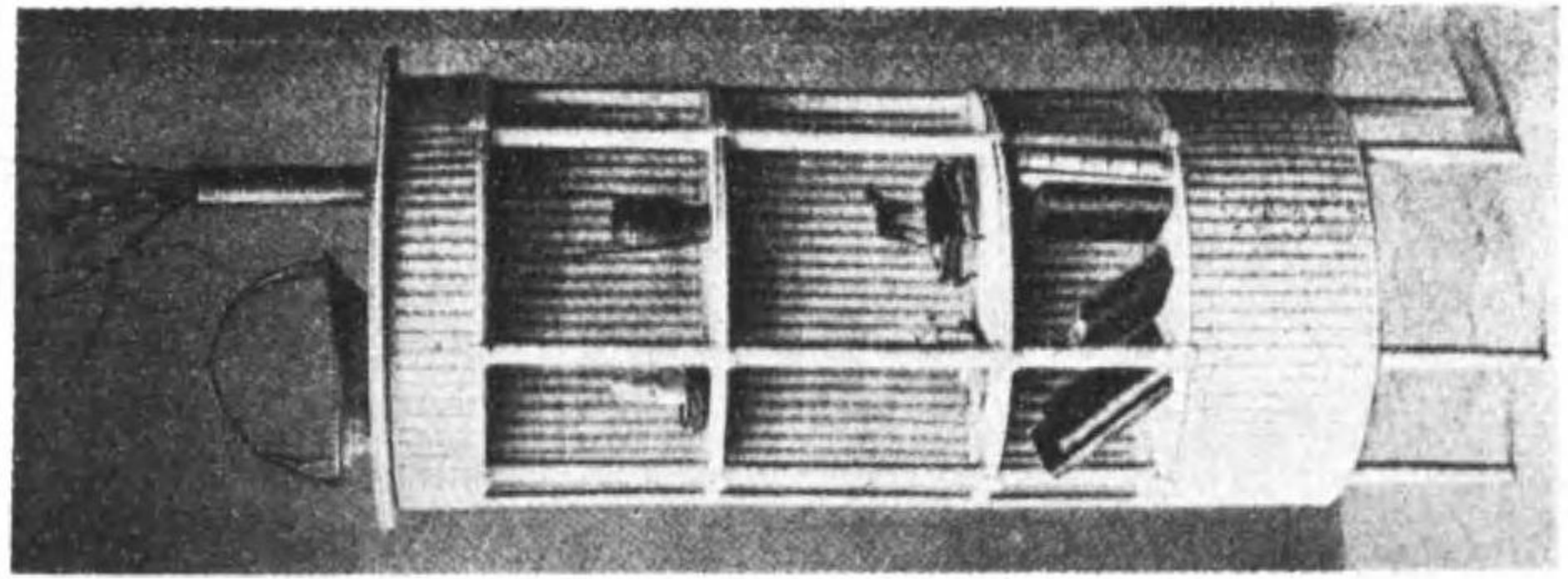
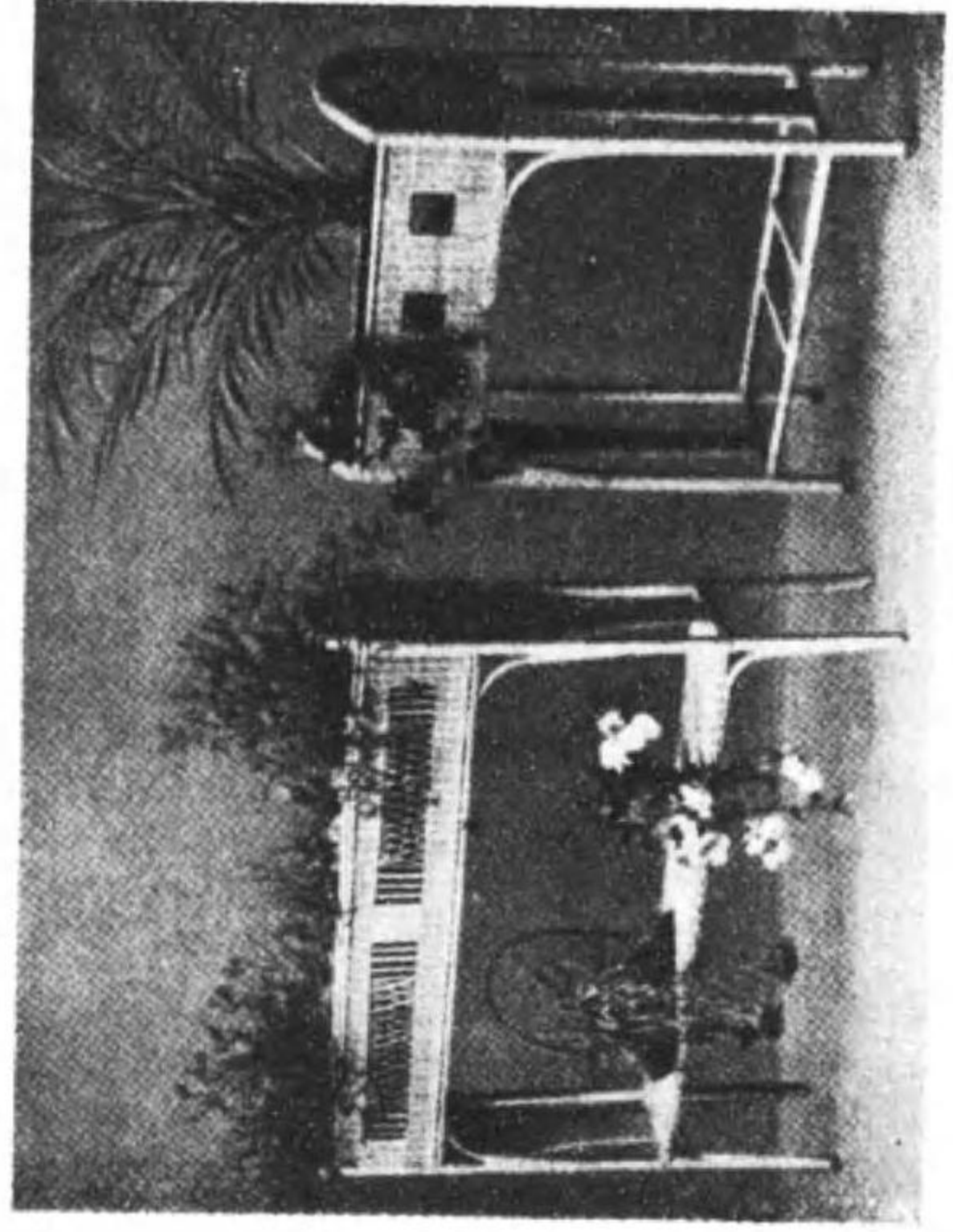
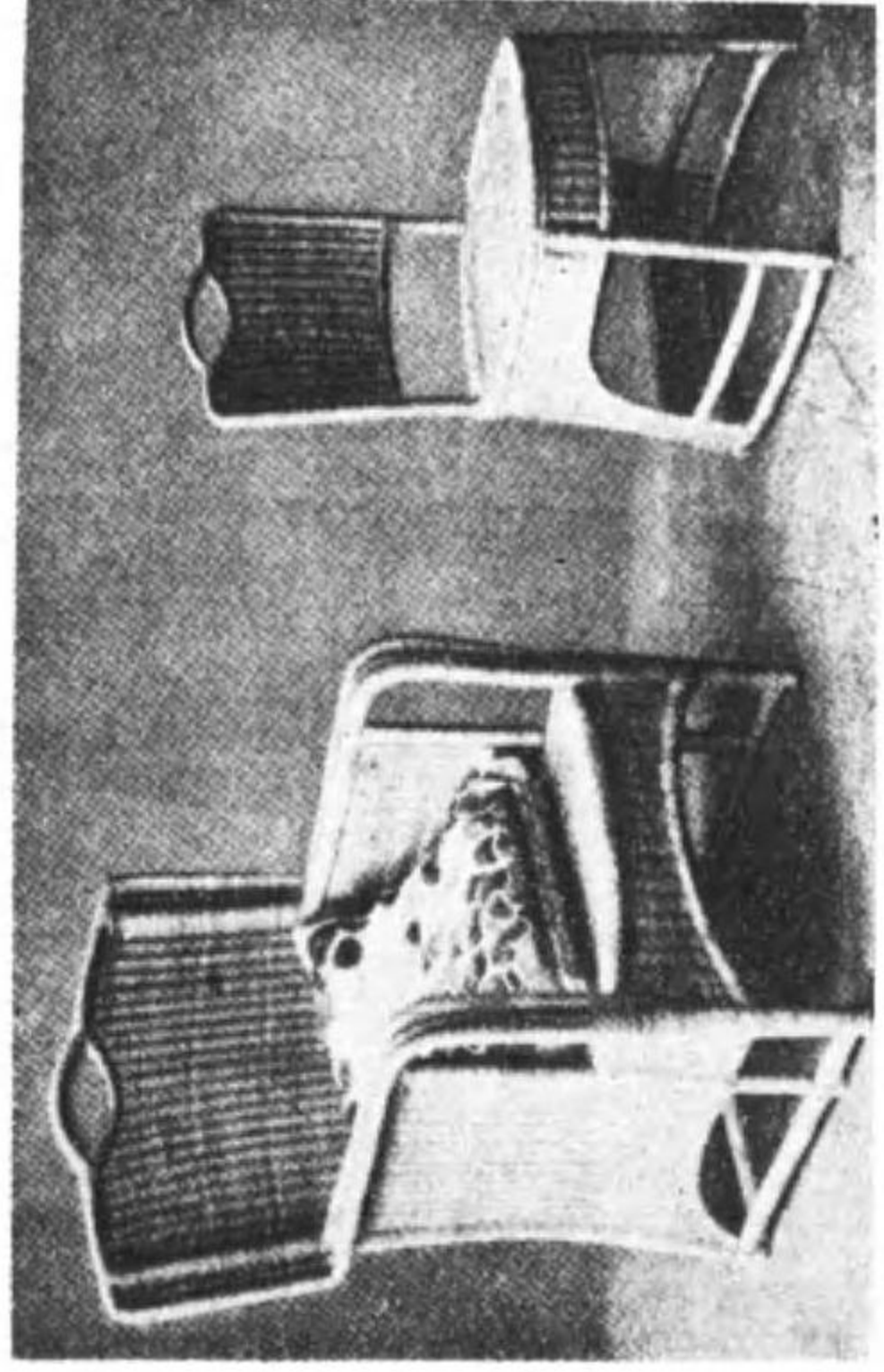
ベランダにミسیون式木製椅子を用ひたる例

第五十七圖



ペランダールに心地書き籐製家具一揃

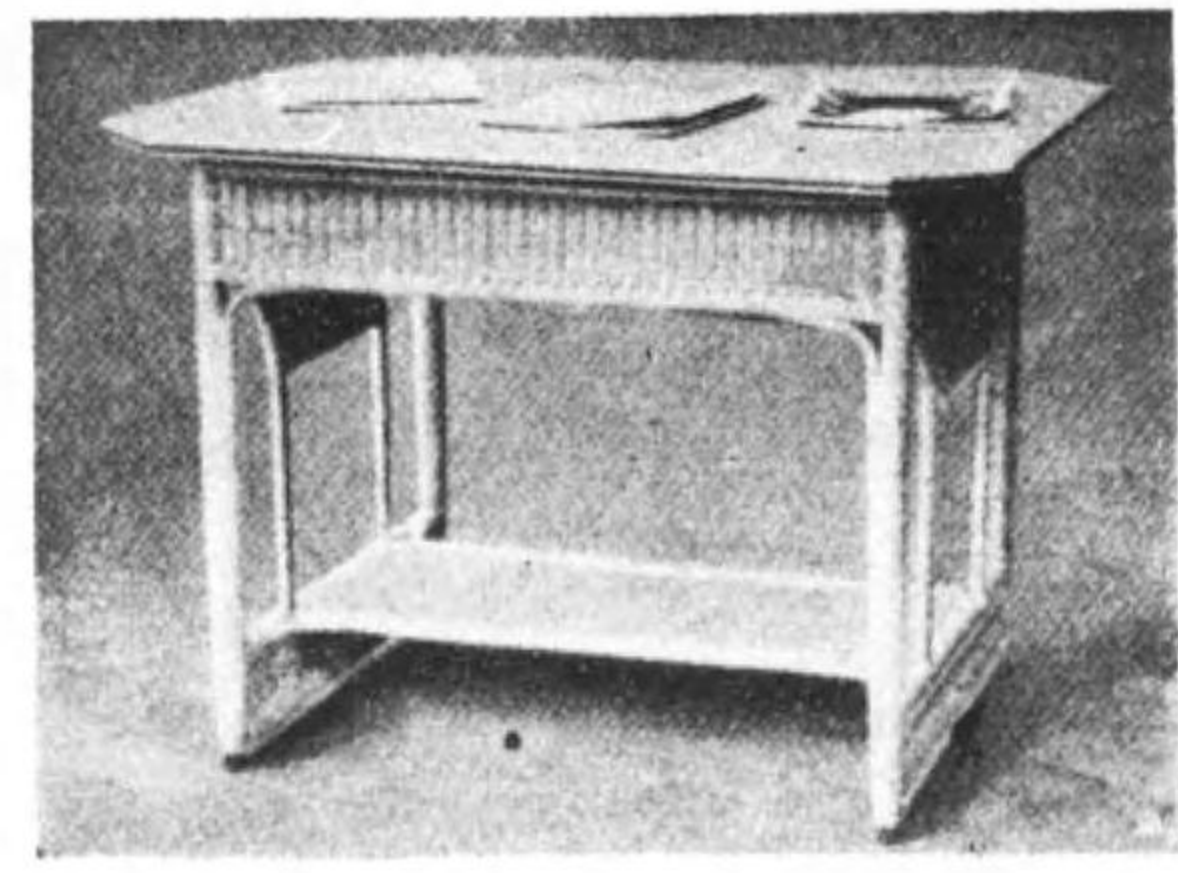
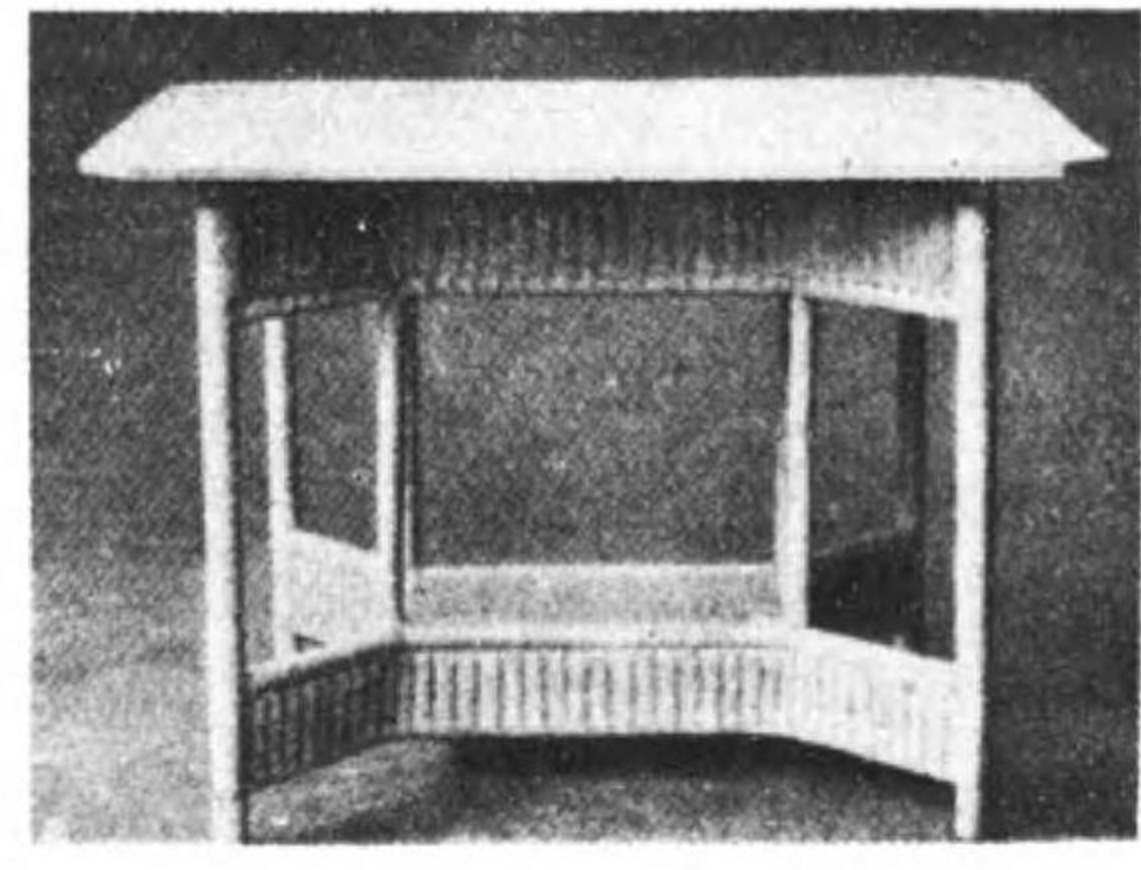
第五十八圖



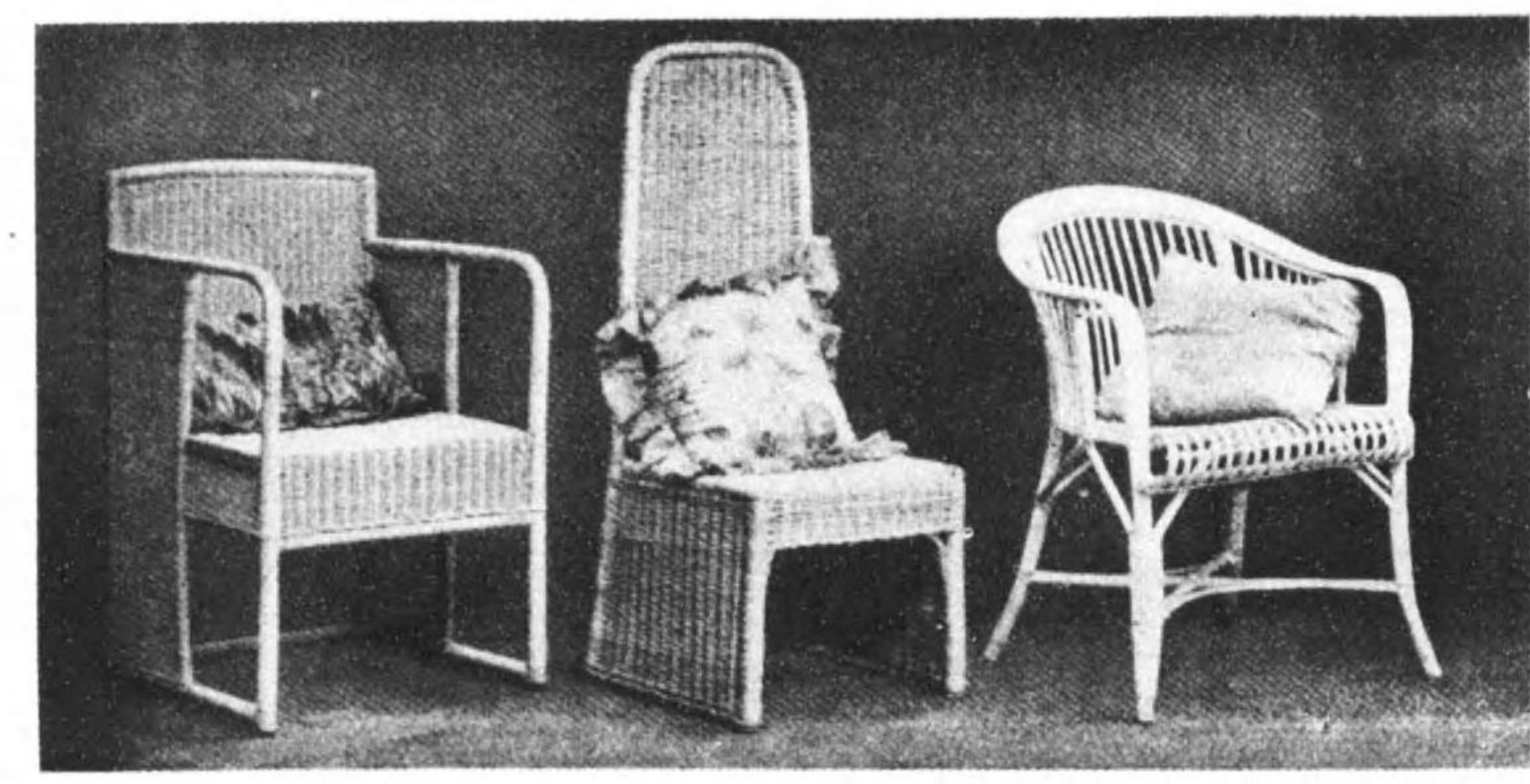
ベランダにふさわしき藤製家具の一



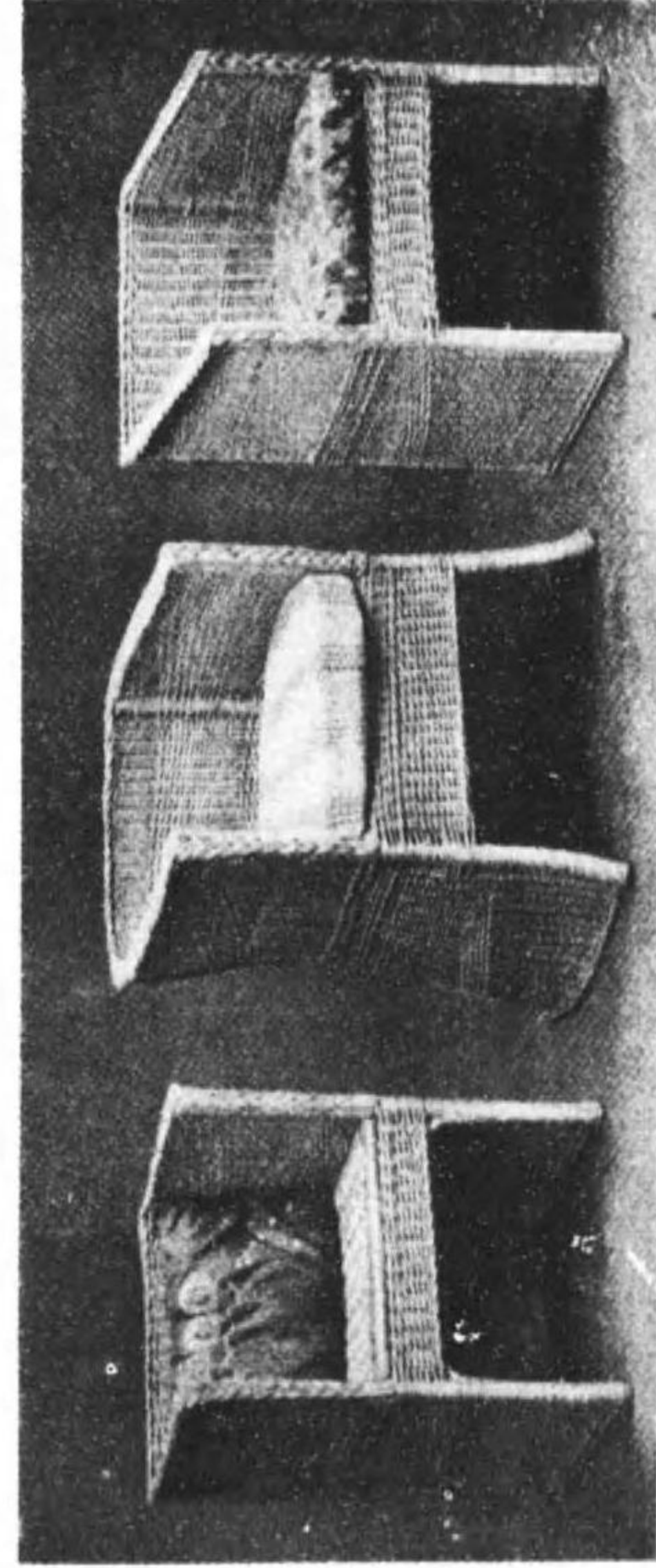
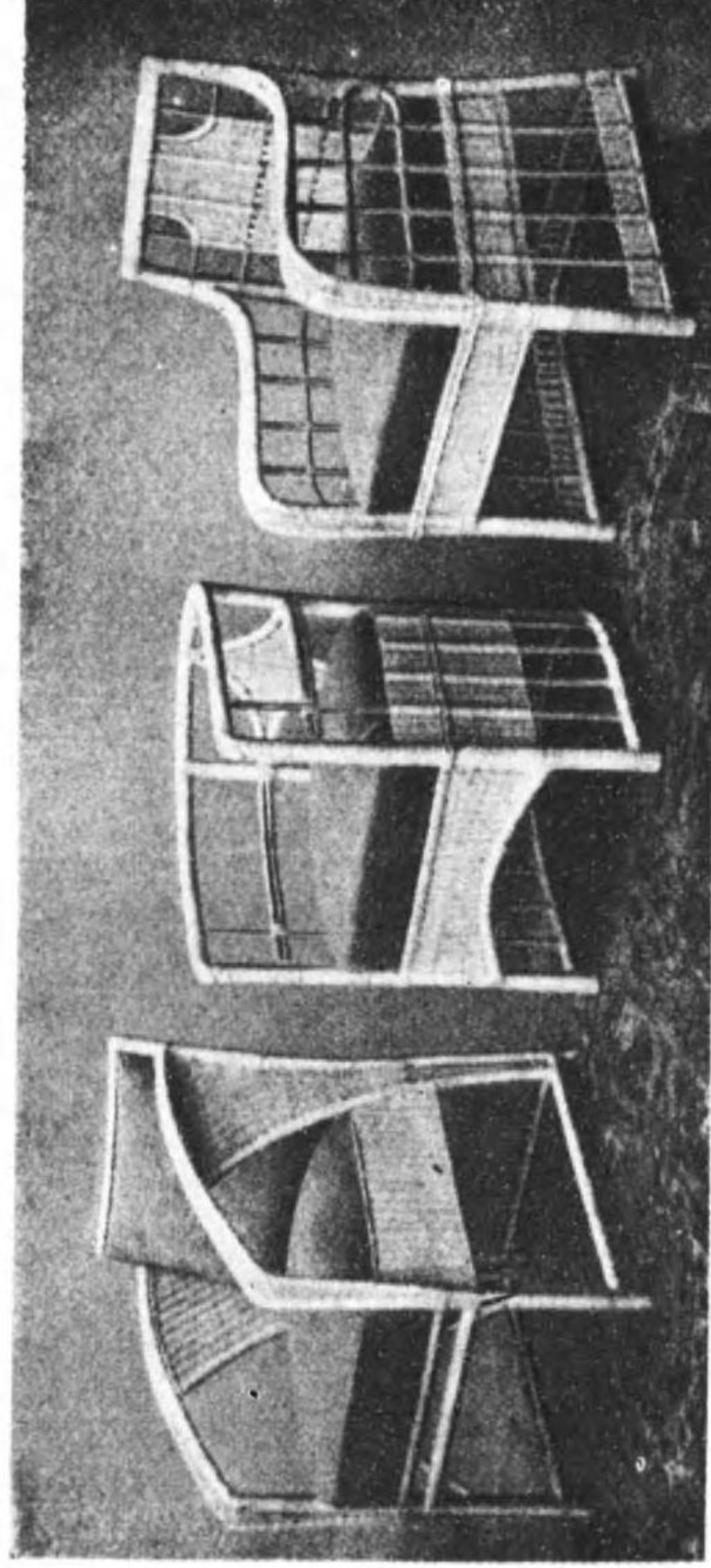
第五十九圖



ペランダールにふさわしき藤製家具の二

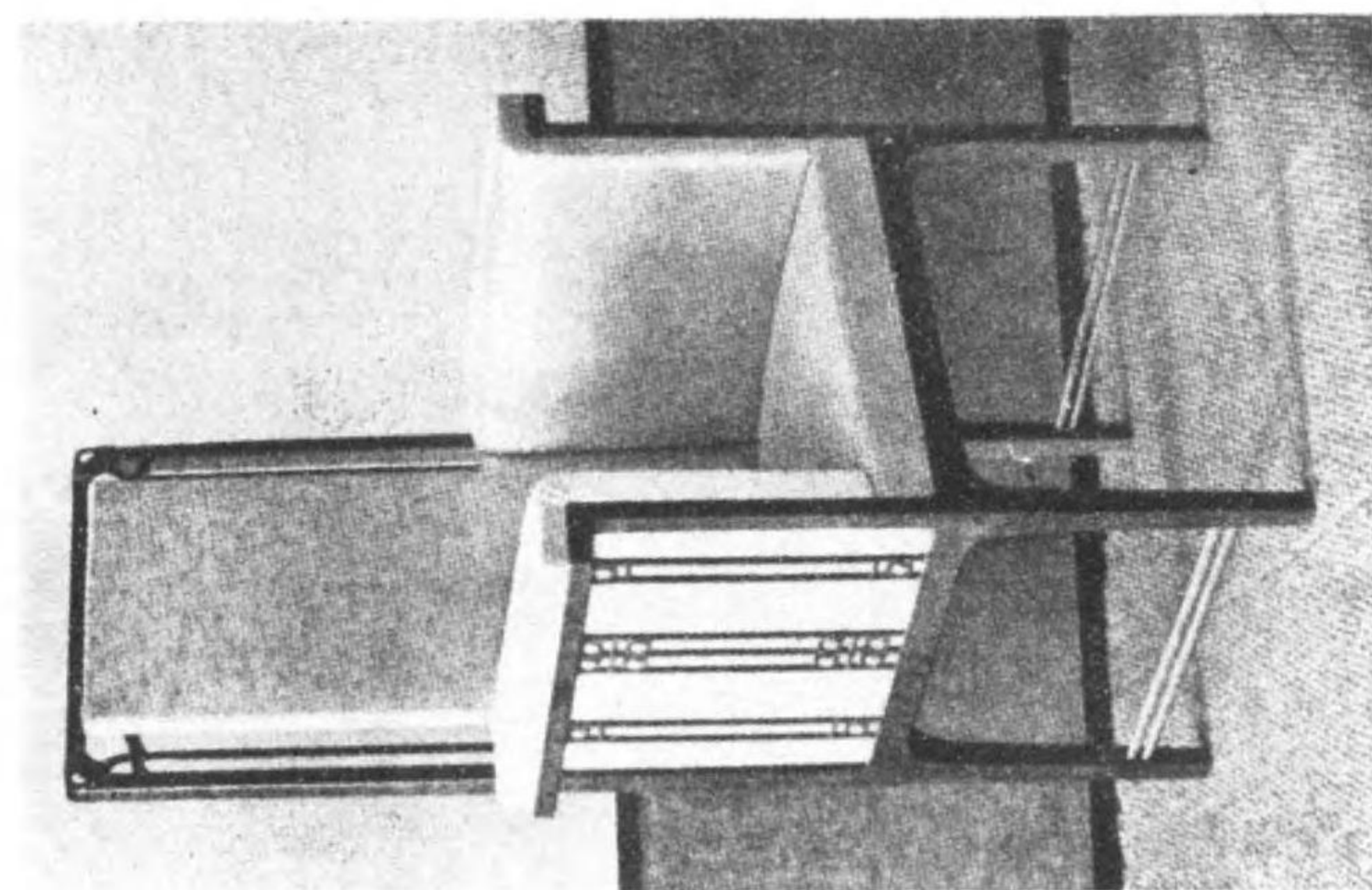
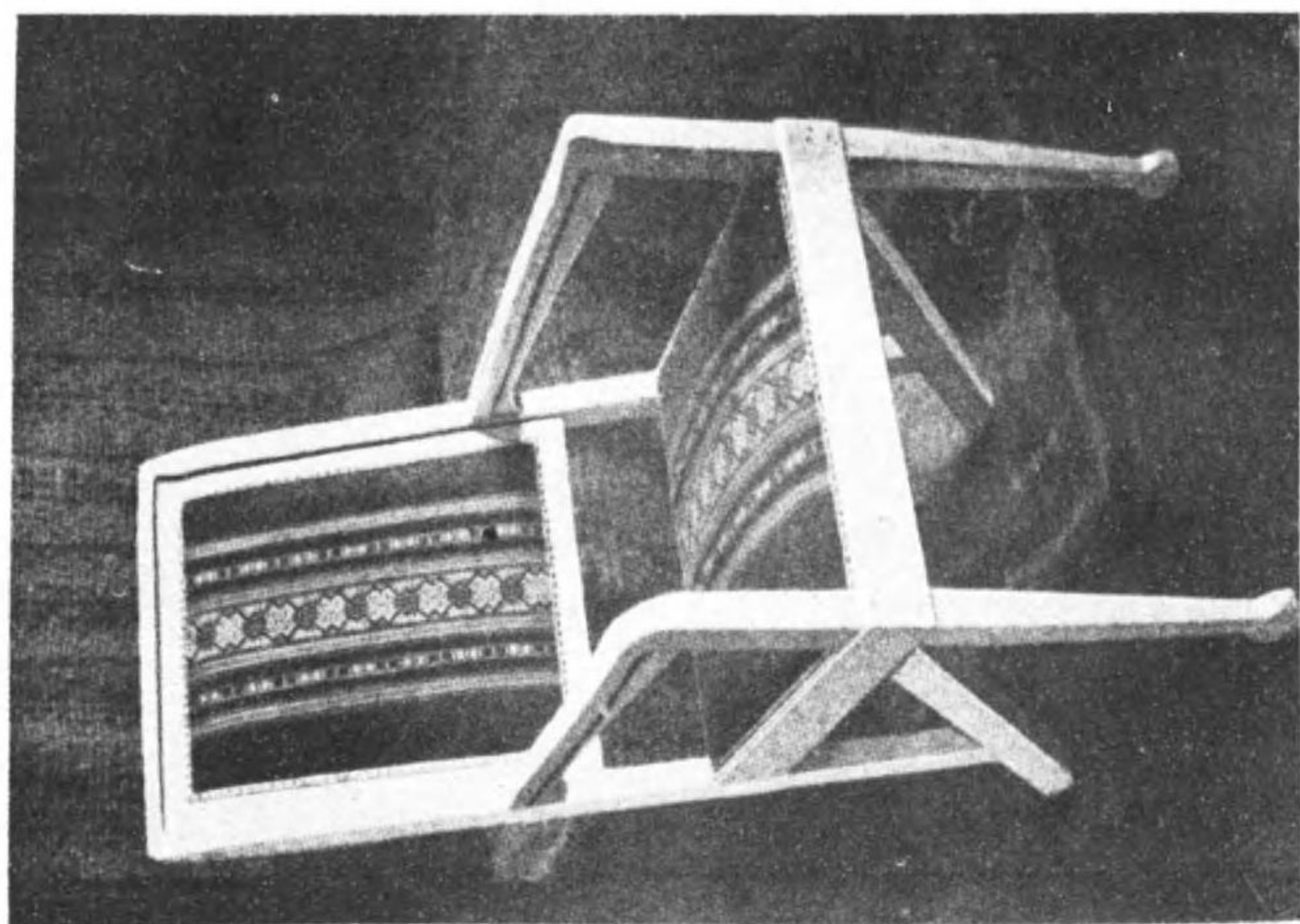


第六十圖



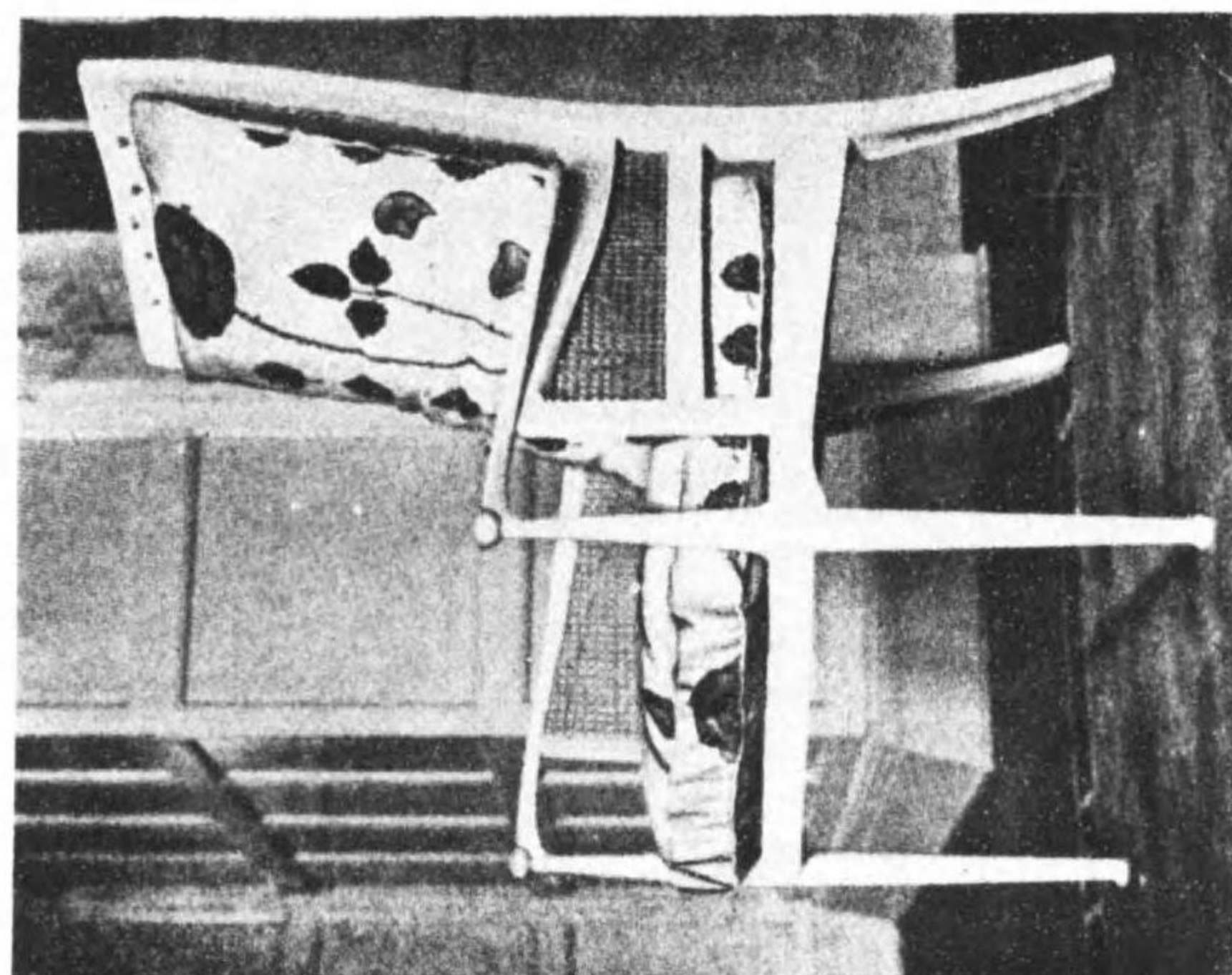
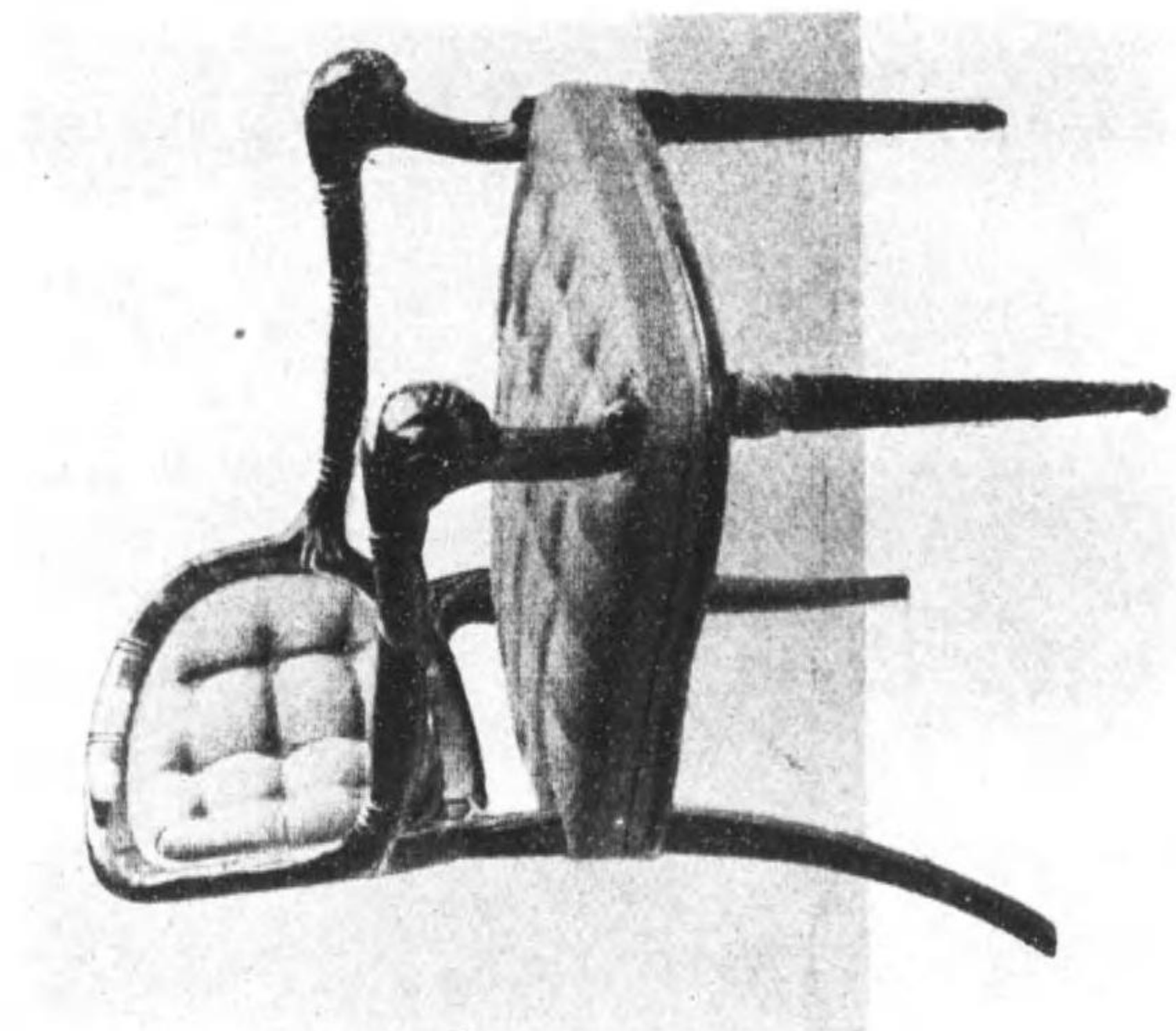
三の藤製家具にふさわしきラングラー

第六十一圖

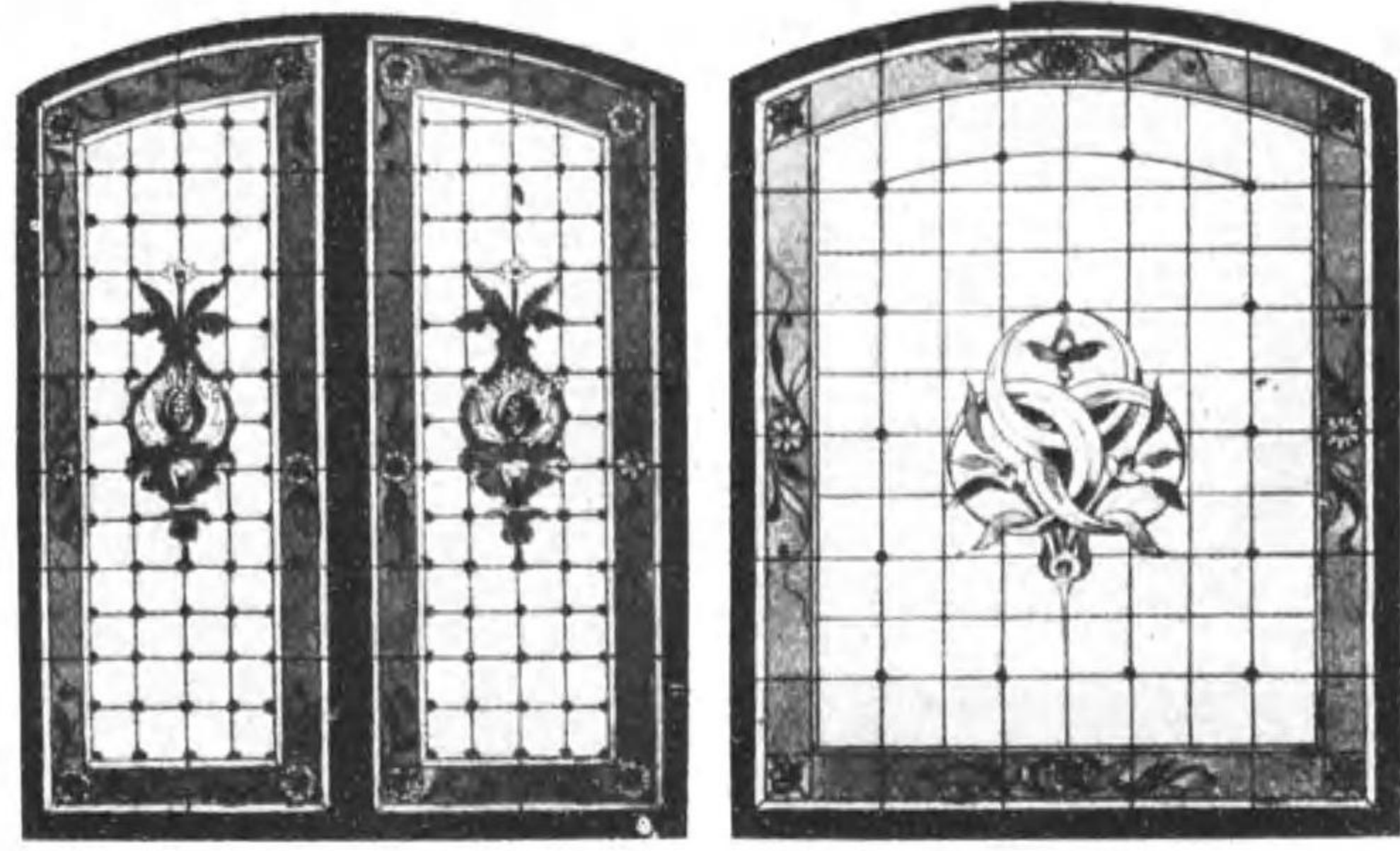


居間又は夫人室にふさわしき變り型小椅

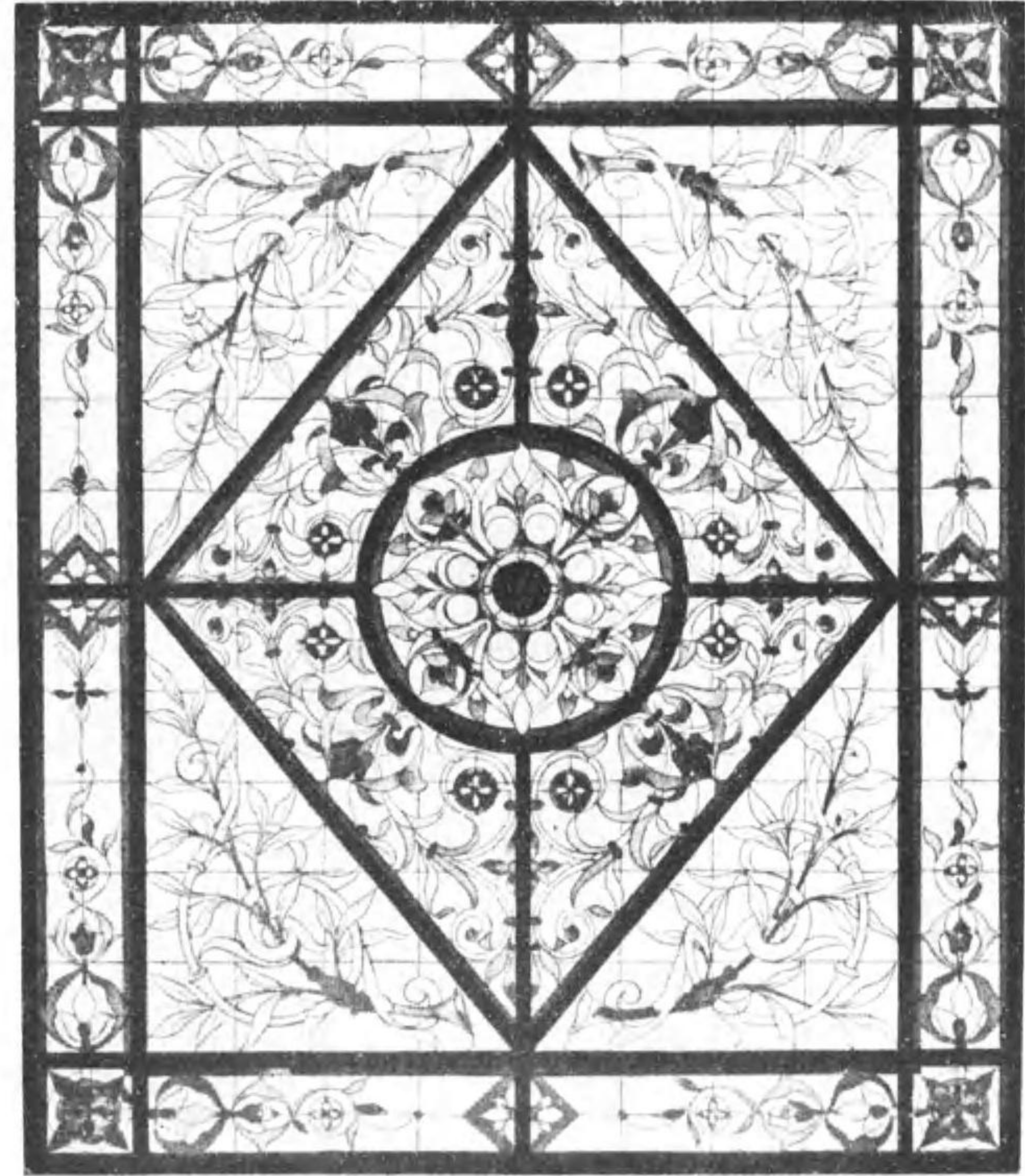
第六十二圖



居間及應接間にふさわしき變り型小椅子



ステインドグラス三種（上の二つは出窓に用ひて最も配合善き例）



大正拾四年四月拾三日印刷  
大正拾四年四月拾八日發行

不許複製

小住宅の洋風裝飾

定價金貳圓八拾錢

著者 保岡勝也

東京市小石川區原町十五番地



發行者 鈴木せい

東京市日本橋區檜物町七番地

印刷者 茂呂徳次郎

麻布區筭町百六十八番地

印刷所 原色版印刷社

東京市芝區愛宕町二丁目一番地

發行所

鈴木書店

東京市日本橋區檜物町七番地

電話大手二一八二番・振替東京二一二七番

建築士 工學士 保岡勝也氏著書三種

### 歐米化日本小住宅

菊判。全一冊 洋裝  
凸版及原色版圖面六十四枚  
に解説廿二枚  
郵定外に金貳圓拾錢

和風七分へ洋風三分を加味したる瀟洒なる住宅圖集

本書は最近出版して大好評を受けた「日本化したる洋風小住宅」の姉妹篇にして現代の日本住宅へ洋風を加味したる理想的の間取及外觀圖集なり。其收むる所三十餘種、建坪十七坪より五十五坪に至る種々の小住宅は既往七作者の關與せる極めて優秀なるものより選み鮮明なる寫眞版と優秀なる原色版に依つて現代世人の最も熱望せる所謂折衷式小住宅の内外を一目して窺はしむ。其解説には各使用家族人員及び建築費の概算に至る迄記述して工事の實際を會得するに足るものなれば、住宅經營の好同伴にして素人にも専門家にも必須の良書なり。

### 再版

### したる洋風小住宅

菊判。全一冊 洋裝  
凸版及原色版圖面六十四枚  
に解説廿二枚  
郵定外に金貳圓拾錢

洋風七分へ和風三部を加味したる清楚なる住宅圖集

海邊に、丘上に、森林に、或は都市の住宅地に建られて、吾々の習慣を破らす、日本の氣候風土に適合する洋風小住宅、夫は吾々の憧憬し喝掌するものである。本書に收むる手頃な世餘種の洋風住宅は著者の過去十餘年に亘る實地研究の結晶であつて、清楚なコックテライズ式、風雅なペンゴロ一式等巧に日本化した各種各様の外觀と間取圖六十餘面あり、鮮名なる印刷と優雅な原色版とは一見直に住宅の内外を窺知せしむる故、住宅の計畫批判に先ち必ず繰り可き絶好の良書である。特に今回の増補版には建築費の概算其他の説明書廿二頁を増補す。

### 再版

### 最新住宅建築

異二倍大判。全一冊 總布綴  
本文。圖面。寫眞。六百餘頁  
定價金拾圓也  
小包送料金三十六錢

此書は住宅建築に關する總ゆる事項を多數の圖面、寫眞と共に頗る詳細に記述せるものない。曩に一度本書の出版さるゝ、斯界の新記録として噴々たる好評を博し初版は僅に三十餘日にして賣盡し再版準備中たりしが不幸幾何もなくして一昨秋の大震災に遭遇して貴重なる稿全部を喪失し、之が藏版も亦搬出の途なくして一切を烏有に歸せしめたるは誠に痛恨事なり。然るに今や數ヶ月の日子と多大の投資とに依つて復活版新たに成り面目を一新せり、前版に於ける住宅の間取り、外觀、構造、科學的諸設備建築材料に關する豊富なる寫眞と論説は一層其の數を加へ且、新に耐震構造の一篇を增補したれば内容は彌々充實せり。住宅の復興に新築に周する準備の必要を認むるの際、速かに一書を座右に備へて住宅新築の羅針盤とせられよ。

### 改訂再版

### 發兌

東京市日本橋區横物町七  
振替口座東京二二三七番  
電話大手二二八二番

鈴木書店

75202

537

104

終